

# 酒々井堯見伝



中川の景 (三代目広重画)

# 目 次

はじめに	1
1 酒々井学のすすめ	2
2 学校郷土資料館（展示解説） 学校郷土資料館の展示資料（道具）の名前と使用目的と使用方法等について解説しています。	5
3 酒々井の今昔	15
(1) 交通（道路・鉄道）と家並み（写真家 川島俊彦氏撮影の古写真） 新旧の町の写真を比較することで、交通や家並みなどの景観の移り変わりがわかります。	16
(2) 人々の暮らし【昭和40（1965）年】 昭和40年に小学校の教員が作成した副読本の写真から、町の人々の生活の様子がわかります。	22
(3) 土地利用の変遷（酒々井町地形図） 明治36（1903）年・大正10（1921）年・昭和31（1956）年・昭和42（1967）年・昭和59（1984）年・平成16（2004）年の町の地形図の変遷を見ることで、町が発展していく過程がわかります。	28
(4) 空から見た町の変遷（航空写真）【昭和49（1974）年・令和2（2020）年】 昭和49（1974）年発行の町勢要覧掲載の町航空写真と令和2（2020）年に撮影した町航空写真とを見比べることで、半世紀の間に開発された町の様子がわかります。	34
(5) 酒々井の歩み【昭和54（1979）年】 町制施行90周年記念誌の酒々井の歴史にふれる長くて短い旅「SHISUI-TREKKIN'90」で、江戸時代末期から国道51号線のバイパス工事までの90年間の町の歩みがわかります。	37
4 スライド資料「酒々井の歴史物語」 平成29（2017）年から小学校6年生を対象に行っている酒々井学プログラム「酒々井の歴史物語」のスライド資料を通して、旧石器時代からの酒々井の歴史についてわかります。	47
5 町発行リーフレット（墨古沢遺跡・本佐倉城跡・酒々井宿・酒の井の碑等） 国史跡の墨古沢遺跡や本佐倉城跡など酒々井学に関わる町発行のリーフレットを集約しました。	68
6 里山図鑑（自然写真家 新谷秀一郎氏撮影の生物画像） 町の植物や昆虫などの生物の画像と解説です。生活科や理科などの生物の学習で活用できます。	90
7 郷土史年表 町の歴史（地方史）と日本史（中央史）とドイツ（ドルフェン市）・世界の歴史とを比較して見ることで、世界や日本の歴史の中での酒々井町の歴史について知ることができます。	121

見つけてください。町の今と昔の姿を、素晴らしい自然とその中で生きる生命の息吹を。  
伝えてください。次代を担う子供たちに、町を拓く若きエネルギーに・・・酒々井発見伝



## はじめに

酒々井町は、町域面積が19.01平方キロメートルと千葉県内で2番目に小さいながら、明治22年町村制施行により「酒々井町」が誕生して以来、一度も合併していない、日本で一番古い町です。また、中世に下総国を統治した関東の名族千葉氏の最後の居城となった「本佐倉城跡」があり、さらに、令和元年10月に国史跡に指定された、約3万4千年前の後期旧石器時代の生活痕跡である「墨古沢遺跡」があるなど、まさに歴史ある町であります。また、谷津田や里山などの豊かな自然環境は現在においても良好に保存されています。

一方、都心から50キロメートル圏内で成田国際空港に近接し、JR酒々井駅や京成酒々井駅など4駅、国道51号線と国道296号線が通り、東関東自動車道酒々井インターチェンジが整備されており、交通環境はとても高い水準にあります。

このような自然環境、歴史環境、交通環境は町の誇りであり、自慢であり、強みでもあります。しかしながら、この町の特色について、知らない、気づいていない子供たちの存在は決して少なくありませんでした。

令和2年に実施した『酒々井町まちづくり中学生アンケート調査』によれば、酒々井町への愛着については、「好き（とても・どちらかといえの合計）」の比率は75.9%で、前回調査（平成27年）とほぼ同じでしたが、今後の居住意向については、「住み続けたい（ずっと・どちらかといえの合計）」の比率は31.3%で、前回調査の59.7%を大きく下回り、同年の町民意識調査の78.7%からも大きく下回っていました。また、将来の酒々井町への帰郷意向については、「戻って住みたい（いずれは・どちらかといえの合計）」の比率は32%で、前回の44%を下回っていました。

これまで述べた実態から、加えて今後ますます進むであろう人口減少、グローバル化を見据えれば、酒々井町の子供たちに、「ふるさと意識」を醸成することは重要課題となります。教育の成否は教員の資質能力で決まります。酒々井町にお勤めいただいております先生方におかれましては、是非とも自ら酒々井町の歴史、文化、自然等をご理解いただき、酒々井という郷土に対して、愛着と誇りを持つ子供たちを育ててほしいと念願する次第です。

酒々井町教育委員会では「酒々井学」を推進するため、これまで、教員向け指導ガイド「酒々井学のすすめ」、児童生徒向け副読本「いいね！酒々井」を発行しております。この度の指導資料集も活用し、ふるさと意識を一層育まれるようご期待申し上げます。

終わりに、写真、図などの資料や情報をご提供くださいました多くの皆様方に心より御礼申し上げます。

令和3年3月

酒々井町教育委員会教育長 木村俊幸

# 1 酒々井学のすすめ

## (1) 酒々井学とは

酒々井町総合計画の基本目標による町教育施策の基本理念に基づく事業で、**酒々井町の地域素材**を使って教科等の学習内容と関連づけて作成した**学習プログラム**を通して実践するふるさと学習（**地域学習・地域活動**）

## (2) 酒々井学のねらい

酒々井町の**歴史・文化・自然等**について**知る**ことで、郷土に対して**愛着と誇り**を持ち、町民としてのふるさと意識（**参画・定住**）を**育む**。

## (3) 育てたい子どもの姿

過 程		内 容	子どもの反応
知る	酒々井町のよさ	町の歴史・文化・自然等に関する新たな知識（無知の知）	「ふーんそうなんだ」 「そうだったのか！」
持つ	愛着 誇り	心の風景として定着する学習 特色ある地域素材による学習	「酒々井っていいな！」 「すごいんだ！他の町の人に伝えたい」
育む	参画意識 定住意識	地域活動等への参画 ふるさと意識の芽生え	「町のために何かできることをしたい」 「ずっとこの町に住みたい」

## (4) 指導のポイント

### ①酒々井町のよさを知る・・・「教科書の素材の代わりに町の地域素材を活用」

学習対象である酒々井町の**特色ある地域素材**である歴史・文化・自然等について伝えることがスタートです。教科学習等のねらいとの**関連性を分析**して、教科書の素材を学習内容に即し、**町の素材に置き換えて学習**することで、**実感を伴った地域学習**として展開することができます。

### ②酒々井町に対して**愛着と誇りを持つ**・・・「**比較・検証の調査活動と体験活動の導入**」

酒々井町のよさを知った後は、学習対象を**他地域のモノと比較**したり、資料等から**価値を調べ**たりして、その**素晴らしさを認識**して誇りが持てるようにします。また**五感を通した体験活動**を導入することで、**愛着心を育む**ことも大切な学習です。

### ③酒々井町に対する**参画意識・定住意識を育む**・・・「**伝える活動と参画活動の導入**」

学習対象に対して**愛着と誇り**を持った後は、その**素晴らしさを他者に伝え**たり、**自分にできることを実践**したりすることで**参画意識を育む**指導をします。さらに、この実践を通して、**ふるさと意識にまでつなげられるような指導**が望まれます。



## (5) 基本的な「問題解決的な学習」の進め方

問題解決的な学習を通して、児童生徒の学習問題に対する予想の適合率を向上させていくことで、一人ひとりの問題解決能力の向上を図る指導が求められます。

学 習 の 流 れ	【AL】アクティブ・ラーニング	実 践 例
<p><b>〈導入の方法〉</b></p> <p>①学習対象について知らないことを知る。<b>(無知の知)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりの疑問から知的欲求を高める工夫をする。</li> </ul> <p>②知りたいこと(疑問)を話し合い、学習問題を設定する【AL】</p> <p>③学習問題に対して、既習事項(経験)を想起し各自で予想する。</p> <p><b>〈展開の方法〉</b></p> <p>①調べ活動のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の予想を証明する証拠の資料(根拠)を探す。</li> </ul> <p>②表現活動のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査内容を端的に表す言葉を「キーワード」にして提示する。</li> <li>予想を証明する資料(根拠)を提示して発表する。</li> </ul> <p>③話し合い活動のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習問題に対してキーワードが適合しているか話し合い、全体でキーワードを精査する。【AL】</li> </ul> <p><b>〈整理の方法〉</b></p> <p>①キーワードを使って学習問題をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精査されたキーワードを使い、学習問題のまとめとして自分の言葉で文章化する。</li> </ul> <p>②学習を通じた考察や感想を書く。(感想文や意見文等の作成)【AL】</p> <p>【例】町を説明するキャッチコピー(フレーズ)づくりでまとめる。</p> <div data-bbox="319 1556 837 1742" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本で一番古い町(歴史のある町)</li> <li>国史跡が2つもある町!</li> <li>〇〇〇な町</li> </ul> </div> <p>【例】自分の考えや感想(社説)を入れて酒々井町新聞を作成する。</p> <p><b>〈発表の方法〉</b></p> <p>○「ふるさとまつり」等で展示して、町民に向けて情報発信する。</p>		<p><b>小学3年「昔の暮らし」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔の暮らし(イラスト)と現代の暮らしを比べる。</li> <li>昔の暮らしの様子</li> <li>暮らしの様子の変化</li> </ul> <p><b>「人々の暮らしはどのように変わったのだろうか?」(⇒P4)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急に変わった</li> <li>だんだんと変わった</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校郷土資料館の見学</li> <li>博物館での体験活動</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇〇な暮らし</li> <li>資料「アイロンの変遷」(⇒P4)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然・電気やガスがない</li> <li>大変・不便・苦勞</li> <li>知恵・努力・工夫</li> <li>よりよい暮らし</li> </ul> <p><b>「昔の人は暮らしをよりよくしようとして、知恵を働かせ、道具を工夫して使った。」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昔の暮らしは自然の物を大切にしていた。</li> <li>道具はだんだんと工夫して便利になってきた。</li> <li>これからは物やエネルギーを大切にしていきたい。</li> <li>炭を使っていた町</li> <li>養蚕がさかんだった町</li> <li>長い歴史のある町</li> <li>むかしの酒々井町新聞</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>付箋のコメントで感想を聴取 (⇒P4)</li> </ul>

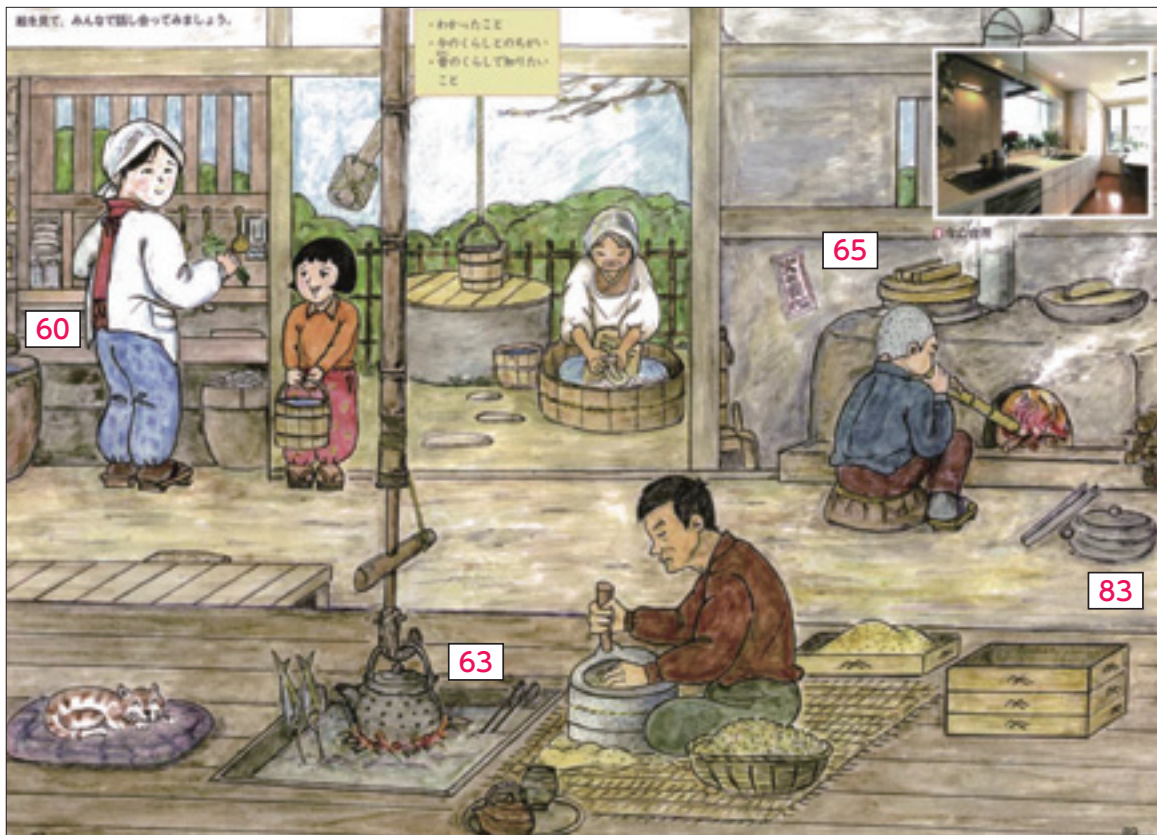
実践例の小学3年「昔の暮らし」の学習過程で使用する主な資料等について次頁で紹介いたします。



〈導入の方法〉 「昔の暮らし（イラスト）」

※ **数字** は学校郷土資料館の展示資料番号

昔と現代の暮らしとを比べて、昔の暮らしの様子や移り変わりについて疑問を持ち、学習計画を立てる。



〈展開の方法〉 「アイロンの変遷」

学校郷土資料館に展示してある昔の道具から、移り変わりがわかる展示資料について調査する。



〈発表の方法〉 「児童作成資料の掲示」

ふるさとまつり（中央公民館）や酒々井プレミアム・アウトレット隣の情報発信館「まるごとしすい」で町内外の人に向けて情報発信をする。



ふるさとまつり



まるごとしすい

## 2 学校郷土資料館

小学校の空き教室を利用して、地域の方から寄贈された民具や農具等に、イラストや写真パネルおよびキャプションを使ってわかりやすい展示構成にした資料室です。



【酒々井小学校】



【大室台小学校】

### 展示資料の見方・考え方

郷土資料館はモノ（道具）を通して学ぶところです。児童に生涯学習社会への対応の視点から、郷土資料館での展示資料の見方・考え方を育むことがポイントです。

#### 【展示資料の見方】

- (1) モノをよく見よう！
- (2) モノの名前を知ろう！
- (3) いつごろ（今から何年前）のモノなのか知ろう！
- (4) 解説を読んで、どんなモノか知ろう！
- (5) モノをじっくりと観察しよう！
- (6) 他の関係していそうなモノをさがそう！



#### 【展示資料の考え方】

- (1) これは何だろう？（5W1H）  
What（何という名前なのか？）  
Who（だれが・どんな人が使っていたのか？）  
When（いつごろのモノなのか？）  
Where（どこで使っていたのか？）  
Why（なぜ作ったのか・なぜ使ったのか？）  
How（どのように使ったのか？）
- (2) 【目的】 何の道具なのか形から想像してみよう！
- (3) 【方法】 どのように使ったのか考えてみよう！
- (4) 今のくらしではどんな道具と同じなのか考えよう！
- (5) 道具からくらしのようすを想像してみよう！  
（どのような材料で作り、何を生産していたのか？）
- (6) 未来の道具やくらしのようすを予想してみよう！





1	クジラの骨化石	2	貝化石	3	叩き石 (敲石)	4	磨り石
							
<p>昭和50年東酒々井団地の造成地で、クジラの骨化石が発見されました。これは15万年前のクジラの腹部（脊椎と肋骨）あたりの骨の化石ということがわかりました。</p>		<p>上岩橋貝層は貝がまつまった層です。これは約20万年前の古東京湾と呼ばれる海にすんでいた貝の化石です。エゾマテガイなどの寒い海にすむ貝が中心で約120種類以上あります。</p>		<p>木の実などを上から叩いて、中の実を取り出すための石器です。木の実を固定するために、石にくぼみをつけた「くぼみ石」の上で使いました。</p>		<p>石皿の上でドングリなどの木の実を粉にする道具で、現在の石臼にあたります。粉にした木の実は、クッキー状にして食べたようです。沖縄菓子の「ちんすこう」のような食感です。</p>	
5	磨製石斧	6	縄文土器	7	土師器 (はじき)	8	古銭「寛永通宝」
							
<p>石斧には伐採と加工用の2種類があります。主に蛇紋岩などの固い石材製で、切るといよりも木の繊維を解すようにして倒します。実験で直径20cmの木で30分かかりました。</p>		<p>縄文時代に使用された土器で、表面に縄文があるのが特色です。焼成温度が800度位と低いため黒褐色や赤褐色になります。大森貝塚を発掘したE.モースが名づけました。</p>		<p>弥生土器の流れをくみ、古墳時代から奈良・平安時代まで生産され、中世・近世のかわらけ・焙烙（ほうろく）に代わるまで生産された素焼きの土器です。</p>		<p>寛永銭ともいい、江戸時代の代表的な貨幣です。江戸時代の貨幣には、金貨、銀貨、銭貨の3つがあり、寛永通宝の1枚が1文（約15円）にあたります。</p>	
9	田下駄	10	草取り機	11	くるり棒	12	千歯こぎ
							
<p>農具の一種。水田の作業に着用する履き物で、稲刈りなどの際に湿田にはまらないために用いる物と、田植えなど泥湿地に入るために用いる物の2種に大別されます。</p>		<p>田植え後、稲も成長しますが雑草も成長します。薬を使わずに、この機械でのびてきた雑草を田んぼの土にうめこんでいきます。</p>		<p>稲・麦などの脱穀に使う農具です。柄の先に打ち棒をつけ、柄をふり、打ち棒を回転させてむしろの上の穂を叩くことで実を取りました。脱穀機が広まるまで使われました。</p>		<p>刈り取った稲たばを、はざ（おだ）にかけて乾かします。乾いた稲たばの穂のついてる方を鉄の歯にさして、手前に引くとおがが下に落ちるようになっています。</p>	



学校郷土資料館 ②

13	横づち	14	縄ない機	15	ぼっち笠	16	飼い葉切り機
							
<p>縄をなう前に、わらを打ってやわらかくする必要があります。そのため、道具で、わら叩き石の上にわらをのせ、横づちでまんべんなく叩いてやわらかくしました。</p>		<p>稲わらをより合わせてなわを作ることを「なう」といいます。昔は手でないました。ラッパのような差し込み口にわらを差し込みながらペダルをふみ、機械を回転させます。</p>		<p>暑さから身を守るために男性はすげ笠か麦わら帽子、女性はぼっち笠をかぶりました。 すげ笠と似ていますが、上に「ぼっち」というつき出た部分があります。</p>		<p>わらや干草を短く切り、牛馬の飼料を作る時に使う道具です。カヤやアサを切り揃えるなど用途は広く、昭和20年代まで農家の必需品でした。「押切」とも呼ばれます。</p>	
17	わらじ	18	草履	19	大かご	20	かご
							
<p>稲わらを足の形に編み、つま先と左右に、同じくわらで編んだひもを取り付けた履き物で、ひもを足に巻き付けてはきます。昔の人はこれをはいて旅をしました。</p>		<p>稲わらや竹皮などで台を編み、鼻緒をつけた履物です。わらじと違い、緒を足首にまきつけないで、鼻緒に足の指をはさんで履きました。</p>		<p>集めた落ち葉を入れて運ぶためのかごで、落ち葉かごなどとも呼ばれます。落ち葉は軽いため、一度にたくさん運べるように大きく作られました。</p>		<p>竹や木を割ったひご、わら、草、樹皮などで編んで作る容器の総称です。物の収納、保存、運搬などに使われます。</p>	
21	背負い梯子	22	漏斗 (じょうご)	23	朮桶 (もみおけ)	24	うけ (ず)
							
<p>酒々井町周辺は江戸時代から「佐倉炭」で有名なよい木炭の産地でした。その原木となったクヌギ・ナラ・カシ・マツなどの枝や生活の燃料として使う「たき木」を運ぶのに使いました。</p>		<p>下の口が小さく、上の口が朝顔状に大きく開いたもので、収穫した穀類を俵やふくろに入れるための物です。</p>		<p>板が厚くなく水などの液体を入れた使用痕もないため、豆類や朮を保存しておくための、地域的な特色のある桶とされます。富山県砺波市では「もんおけ」と呼びます。</p>		<p>ウナギなどの魚類・カニ・エビ等の習性を利用して捕獲する漁具で、河川、湖沼などの水中に沈めておく仕掛けです。中に入った獲物が逃げないように「返し」がついています。</p>	

学校郷土資料館 ③

25	手斧・鉞 (ちょうな)	26	種まき機	27	鋤簾 (じょれん)	28	綿操り機
							
<p>大工道具の一つ。柄の先が曲がっていて、先に平らな刃がついた、小型の鍬のような形をした斧に似た刃物。木材の表面を平らに上げるための荒削りをするのに用います。</p>		<p>種まき用の道具です。箱の中に種を入れて、回転させると穴から種が落ちる仕組みになっています。</p>		<p>12月頃の麦の芽が5～10cm位にのびた頃に土をかけました。土をふるいに通すようにかけた後、麦の根元を強くするために麦の芽をふみしました。「土入れ」とも呼びます。</p>		<p>ハンドルを回し、二本の棒の間に綿の実を入れることで、「綿」と「種」により分けることができます。</p>	
29	箕 (み)	30	ふるい	31	唐箕 (とうみ)	32	万石通し
							
<p>籾殻やわらくずなどと玄米とをより分ける時などに使われる道具です。両手で持ち、上下に動かして中の物を宙に浮かせるようにし、軽い籾殻やわらくずなどを飛ばします。</p>		<p>「とおし」とも呼び、藤で作った物や金網で作った物があり、目的によって網目の大きさが違いました。ふるいによる籾の選別は少しずつしかできず、根気のいる仕事でした。</p>		<p>ハンドルを回すと中の板が回り、風がおきます。その風を利用して、米や麦の粒を分けたり、ゴミなどの混ざり物を除いたりします。</p>		<p>唐箕と共に中国伝来の土うすで、すった玄米と籾殻を選別する農具です。ふるいの網をななめにして、上部の受け入れ口より穀物を流し、玄米とくず米とを選別しました。</p>	
33	まぶし折機	34	蚕かご	35	繭毛羽取機	36	座繰機 (ざぐりき)
							
<p>蚕が繭を作る巣をまぶしといいます。上から稲わらを広げて入れて二本のハンドルを操作して折り、折り上がったまぶしが下に落ちる仕組みです。</p>		<p>蚕をのせて育てるかごです。地方により、方形、円形、楕円形があります。この上に、蚕座紙と呼ぶ紙を敷いて蚕をのせ、室内に組んだ蚕棚に差し込んで蚕を育てました。</p>		<p>蚕が繭を作る時に、足場を作るために「はき糸」をします。このはき糸は繭の外側にうすく綿のようについているので、この繭毛羽で、繭どうしが絡まないようにします。</p>		<p>繭から糸を取って糸わくにまきます。繭の糸をつないでとっ手を回すと、木わくの前にある棒が左右に動いて、自然によりがかかる仕組みになっています。</p>	

学校郷土資料館 ④

37	蓑 (みの)	38	唐傘 (からかさ)	39	ぼりぼり	40	石油ランプ
							
昔の人の雨ガッパ (レインコート) です。これを背中から肩にかけて着ます。雨水は、わらをつたって下に落ちます。わら、スゲ、カヤ、などのくきや葉を編んで作ります。		柄を持って頭の上にかざす雨傘です。竹の骨に和紙をはり、油をぬって雨がしみないようにしました。柄が太くて重い「番傘」や細くて軽い蛇の目傘があります。		おろし金的一种。大根を粗くざくざくとおろすためのもので、荒っぽい感じの形態と大根おろしの様子から「鬼おろし」とも呼ばれています。		石油を使った灯りです。外国産でしたが、明治時代に国内でも生産が始まりました。部屋全体を照らすことはできませんが、行灯よりはるかに明るく人々を驚かせました。	
41	虫かご	42	そろばん	43	はさみ	44	柱時計
							
虫を飼うための小さなかごです。スズムシなどの鳴く虫は昔から好かれ、竹で作ったかごで飼いました。江戸時代に武士の内職として始められたといわれています。		計算をするための道具です。昔は「読み・書き・そろばん」と言われ、勉強の大切な三つとされていました。これは「五つ玉」と呼ばれる古いタイプです。		まん中を曲げて、左右の刃を向かい合わせたはさみです。指を入れる穴はありません。昔は布や糸のほか、紙や髪の毛を切る時にも使いました。		柱や壁にかけておく時計です。ふりが動いて時を刻みゼンマイの力で動きます。1週間から10日に1度くらいのペースでゼンマイを巻かないと止まってしまうです。	
45	木挽き鋸 (大鋸)	46	墨壺 (すみつぼ)	47	和釘 (わくぎ)	48	升 (ます)
							
昭和20年代頃まで大木は大鋸 (おが) で切られ、材木にされました。この作業の時に歌われたのが「木挽き歌」です。木材の利用が盛んになった江戸時代に発達しました。		木材に炭と糸で直線を引きするための木製の道具です。墨汁を入れる炭穴と、糸を巻いた糸車からなり、糸の先に「かるこ」という部品をむすびつけて使います。		木と木などを合わせるために打ちつけるものです。初め日本刀と同様に鍛造によって作られ、打ちつけると木の中で形が変わり、丈夫で抜けなくなる特性がありました。		米や麦や豆などの穀物やそれを粉にした物や液体などの量を量る道具で、大きさが決まっています。「1合ます」で約180ミリリットル「1升ます」で約1.8リットルです。	



学校郷土資料館 ⑤

49	竿ばかり	50	帳場格子	51	銭箱	52	長持ち
							
<p>てこの原理を使って、量りたい物とおもりとを釣り合わせることによって、物の重さを量る道具です。</p>		<p>商家で売った品物の数やお金の計算などをする大切な場所（帳場）を囲うための道具で、結界ともいいます。これがあると、外側から仕切られて、人が入りにくくなります。</p>		<p>お金を入れておく箱で、現代の金庫と同じです。上ぶたが2つに分かれ、片方に錠前という鍵をつける金具がつき、開けられるようになっています。</p>		<p>衣服や調度品などを入れる蓋付きの長方形の大きな箱です。運ぶ時は両端の金具に棹を通して二人で担ぎました。女性が結婚する時に持って行く嫁入り道具でした。</p>	
53	桐箆筥(きりたんす)	54	鯉節削り機	55	針箱	56	氷冷蔵庫
							
<p>桐で作った箆筥です。桐は湿気や火に強く、衣類をしまうのに適しています。昔は女の子が生まれると桐の木を植え、結婚する時にその桐で箆筥を作って持たせました。</p>		<p>日本の代表的なだしの一つである「かつおだし」のかつお節は、薄く削った削り節にして使います。そのための「かんな」と引き出しをセットにした道具です。</p>		<p>縫い物の道具を入れる箱です。「裁縫箱」ともいいます。</p>		<p>氷の冷たさで中を冷やします。2段になっていて、上の段に氷を入れ、下の段に冷やしたい物を入れます。 毎朝、「氷屋」から新しい氷を買って入れかえました。</p>	
57	洗濯板	58	せいろ	59	臼・杵	60	甕(かめ)
							
<p>緩やかに曲がった刻み目のついた板の上で石鹼水を溝にため、洗濯物に染みこませて、上下に動かし汚れを落とします。すすぎは板を裏返し、水が下に落ちる方を使いました。</p>		<p>もち米や饅頭などを湯気で蒸す時に使う入れ物で、数段に重ねて使います。全ての段の底に竹を簾のように編んだ「竹す」が敷いてあり、隙間から湯気が通ります。</p>		<p>餅つきの道具です。臼の中に蒸した餅米を入れ、杵でついて餅にしました。 かつては、お正月や節句や祝い事などでよく餅つきが行われていました。</p>		<p>水道がない時代は、井戸から汲んできた水を貯めておき、「柄杓」で汲んで使いました。味噌、醤油、漬物、油、酒等の飲・食料の貯蔵容器として光を通さない陶器を使いました。</p>	

学校郷土資料館 ⑥

61	徳利 (とっくり)	62	盃 (さかづき)	63	鉄瓶 (てつびん)	64	茶釜 (ちゃがま)
							
<p>首が細く下の方がふくらんだ容器のひとつです。今ではおもに日本酒をそそぐために使われます。</p>		<p>日本酒を飲むための器です。日常の飲酒から、神道の結婚式や神事などの祝い事の席まで、色々な場面で使用されます。小さな盃は「ちょこ」とも呼びます。</p>		<p>鉄の鋳物製で、持ち手と注ぎ口がついた湯を沸かすための道具です。いろりの上につるしたり、火ばちのにせたりして使いました。</p>		<p>お茶を飲む時に湯を沸かす専用の釜です。お茶を煎じるのにも使われました。沸いた湯は竹の柄杓で汲み出しました。胴の部分につばがついたものが多く使われています。</p>	
65	羽釜 (はがま)	66	ままえちこ	67	膳・椀	68	締太鼓 (しめだいこ)
							
<p>かまどでご飯を炊くための道具です。かまどにかけるつばの部分があるのが羽釜といひます。絶えず火加減を調節しながら、上手に炊く必要がありました。</p>		<p>炊いたご飯を「おひつ」ごとに入れて、温めておく道具で、わらでできています。「めしびつ入れ」・「えじこ」とも呼びます。</p>		<p>一人ひとりの食器や食べ物をのせる「あしつきの台」です。人が集まる祝い事などの食事では、置の上に立派な膳が並びました。今でも旅館などで使われています。</p>		<p>太鼓の一つ。両側の皮面の縁をひもで結び、胴にしめつけたもの。台に手前が低くなるように置いて、二本のばちで打ちます。能、長唄、民俗芸能の囃子などに用います。</p>	
69	卓上電話機	70	ダイヤル式電話	71	赤電話	72	ピンク電話
							
<p>電話をかけたい時は、ハンドルを回して電話局にかけ、電話の相手を伝えて、つないでもらう仕組みで、ラッパの様な所に向かって話し、筒の様な受話器で話を聞きました。</p>		<p>電話番号の数字の順に丸い穴に指先を入れ、指止めの所までダイヤルを回してかける電話です。現代の電話のボタンと違い、かかるまでに時間がかかりました。</p>		<p>電信電話公社 (現・NTT) が昭和26 (1951) 年に導入した10円硬貨専用の公衆電話です。1995年に消滅しました。赤色なのは暗い中でも目立つからです。</p>		<p>赤電話は消滅しましたが、ダイヤル式のピンク電話は、店や公共機関などが設置する公衆電話のため、回収されず、現在でも旅館や飲食店などで使われている所があります。</p>	



学校郷土資料館 ⑦

73	火のし	74	こて	75	炭火アイロン	76	だるまストーブ
	中に火のついた炭を入れて木の柄を持って使います。底の部分は布のしわをのばしやすいように平らでつるつるして、見た目よりは重たく作られています。		火ばちなどの炭火の中に先のとがった金属部分を入れて、直接熱して使いました。衣服や布のしわをのばしたり、折り目をつけたりする時に使いました。		ふたを開け、中に火のついた炭を入れて使うアイロンです。外国産ですが中に空気を入れる煙突付きは日本独自です。後ろに燃え方を調節する空気穴もあります。		主に石炭などを燃料にする大型のストーブで、広い教室で使われました。形がだるまに似ていることからこの名前がつけました。上のふたをあけて石炭などを入れます。
77	火鉢 (ひばち)	78	練炭火鉢	79	行火 (あんか)	80	陶器製湯たんぽ
	室内に置き、中で炭を燃やし暖める道具です。灰を入れ、その上で炭を燃やしました。江戸時代から広まり、明治時代になり炭焼き技術が広まり、ますます使われました。		石炭の粉などを練って固めた「練炭」を燃やして暖まる火ばちです。石油ストーブが広まるにつれ、使われなくなりました。		主に足を暖める道具です。「火入れ」の中に灰をしき、その上に炭を置きます。それを粘土で作った「おおい箱」の中に置き、寝る時は足や布団が火に触らないようにします。		寝る時に熱い湯を入れ布団の中で足元を暖める道具です。室町時代に日本に入った時は陶器製で、大正時代に金属製が現れ、戦争中は金属が不足して陶器製に変わりました。
81	七輪 (しちりん)	82	やぐら炬燵	83	火消し壺	84	銅壺 (どうこ)
	料理をするために炭などを燃やす道具で持ち運びができます。網を乗せ魚を焼いたり、鍋をかけて煮たりします。下方に空気穴の窓があり、火力を調整することができます。		おこした炭を入れた「火入れ」をやぐらの中に入れて、外側に布団をかけて使いました。江戸時代に広まり現代のこたつの始まりといえます。「置きごたつ」とも呼びます。		まきが燃え終わり、赤くなった「おき」を入れてふたをすると酸素がなくなり自然に火が消え、「消し炭」となります。消し炭は火がつきやすいので燃えかすも大切にしました。		銅や鋳鉄で作った湯わかし器です。かまどの羽釜をかけるわきにうめ込み、ご飯を炊く時に湯を沸かしたり長火鉢の灰にうめて炭火の熱で湯を沸かしました。



学校郷土資料館 ⑧

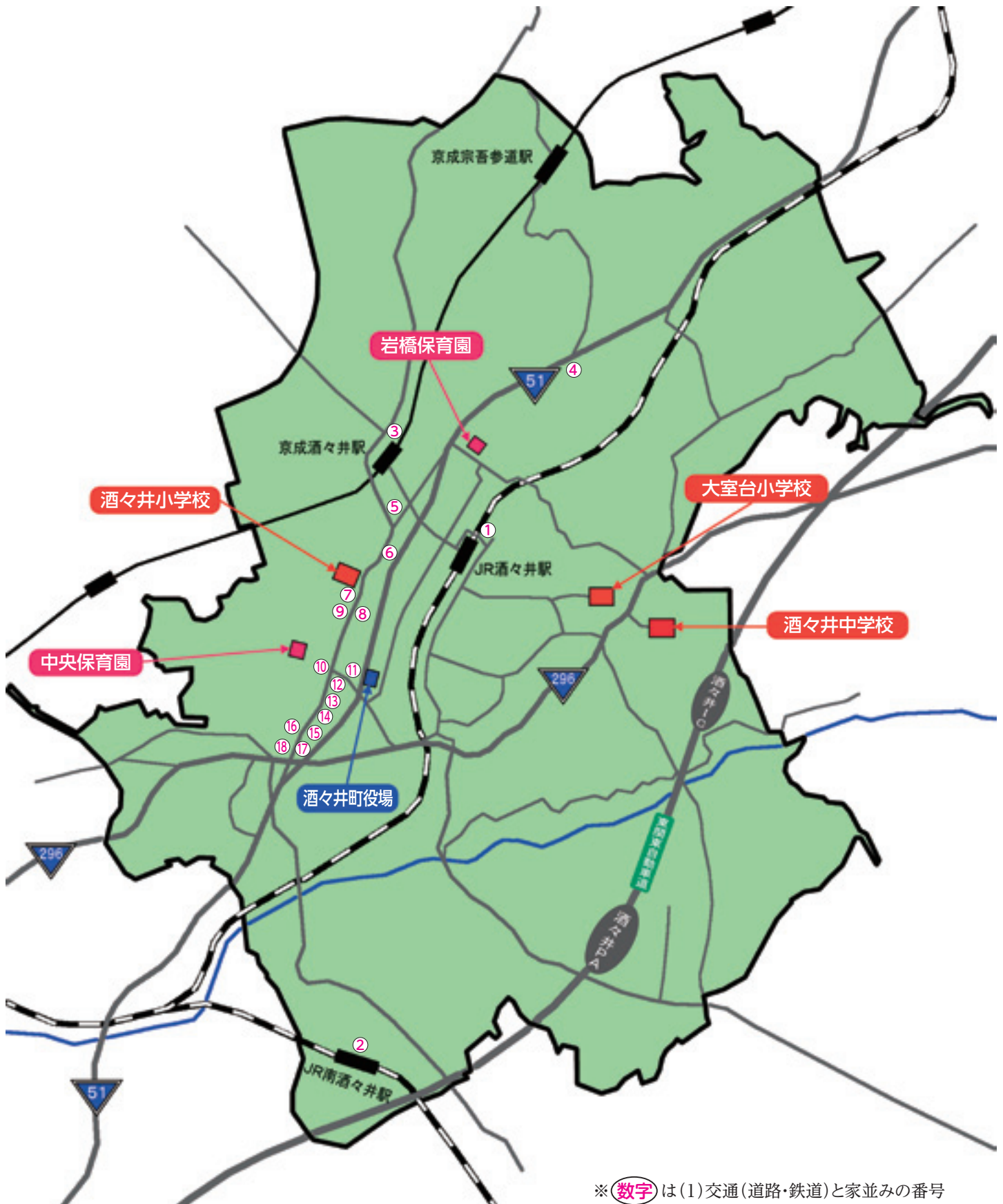
85	文机 (ふみづくえ)	86	机と椅子	87	ふり鐘	88	謄写版 (とうしゃばん)
							
<p>本を読んだり、書き物をしたりにするのに使う台です。江戸時代に、子ども達が寺子屋で読み書きやそろばんを習うために使った机は、「手習机」と呼ばれました。</p>		<p>木でできていて重く、掃除などで動かすときは大きな音がして大変でした。この机は二人用で、おとなりの友だちとお互いに仲よく使う必要がありました。</p>		<p>授業の始まりや終わりなどを知らせるために、鳴らしながら校内を歩きました。合図をする人は、校長先生や用務員さんなどいろいろだったようです。</p>		<p>テストなど学校のプリントはこれで印刷しました。ロウをひいた紙に鉄筆で文字を削り、上からインクのついたローラーを転がし印刷しました。「ガリ版」とも呼ばれました。</p>	
89	オルガン	90	昔の教科書	91	足踏みミシン	92	ラジオ
							
<p>明治19 (1886) 年に始まった尋常小学校・高等小学校での唱歌教育のため、リードオルガンが学校に配備されるようになりました。</p>		<p>明治から昭和にかけて使用されたものです。教員が全国で共通の指導ができるように、国が作ったもので、内容は現在のものとはかなり違ってきます。</p>		<p>足で踏み板を踏む力(上下運動)をベルトの動き(回転運動)に伝え、布を縫い合わせていくミシンです。 昭和30年代までは、多くの家庭で使われていました。</p>		<p>日本最初の全国放送は、昭和3 (1928) 年で、昭和天皇の即位の様子が放送され、その速報性に注目されました。中にガラスでできた「真空管」が入っているラジオです。</p>	
93	蠅取り機	94	ハイトリック	95	聖火ランナーユニフォーム	96	聖火ランナートーチ
							
<p>中にハエが好きなご飯粒などを置いておびき寄せ、下のすきまから入ったハエが中から出られなくなり、力つきて器の中の水に落ちるしかけになっています。</p>		<p>ぜんまいでゆっくりと動く四角の木の部分に、砂糖水などをぬっておくと、ハエが飛んで来てとまり、回転して中に閉じ込められてしまいます。</p>		<p>1964年東京大会の聖火は、870区間(870人)で運ばれました。国内聖火ランナーは、1区間、正走者(1名)、副走者(2名)、随走者(20名以内)で編成されました。</p>		<p>地上リレー総距離は6755km。トーチはテスト製品も含めて約8000本にもなり、そのうち7000本は火が消えることはありませんでした。参加走者は10万713人でした。</p>	

97	従軍記念盃	98	寄せ書き日の丸	99	ラッパ	100	手回しサイレン
							
<p>出征して無事に帰還した兵士は、見送ってくれた人々へ、感謝と帰還の報告をかねて、盃などの記念品を贈りました。しかし、戦争が激しくなると行われなくなりました。</p>		<p>入営・出征する兵士の武運と活躍を祈って兄弟、親戚、友人、地域の人達が日の丸の旗に寄せ書きしたものです。氏名のほかに、「武運長久」など短文が記されています。</p>		<p>軍隊で使われるビューグル（軍隊ラッパ）は、信号ラッパや進軍ラッパとも呼ばれました。ラッパの音はかん高く、遠くまで響き、騒音の中でも聞き取ることができます。</p>		<p>穴のある円板を高速度で回して音を出す信号器です。 戦争や火事などの時に周囲に危険を知らせるために鳴らしました。</p>	
101	鉄帽	102	飯ごう	103	水筒	104	ゲートル
							
<p>戦争において空からの攻撃や火災から頭を守るためにかぶった鉄製の帽子です。</p>		<p>屋外など持ち運びができるご飯を炊く道具です。アルミウニムなどの軽い金属でできていて、お米が4合まで炊けます。中に浅い中ぶたがあり、食器にすることもできます。</p>		<p>弁当箱の登場と共に水筒も発達しました。江戸時代の頃までは、ひょうたんや竹筒もよく使われましたが、明治30（1897）年にアルミニウム製の水筒が登場しました。</p>		<p>足をけがから守り、疲れを防ぐため、足首からひざまでをおおうもので、おもに軍隊や工場などで使われました。包帯のように足に巻きつけて使います。</p>	
105	高射砲砲弾	106	メガホン	107	防空頭巾	108	雑嚢（ざつのう）
							
<p>昭和3年に制式化され、終戦までに約2000門が生産されました。最大射程は13,800m最大射高は9,100mでしたが、B29の実用上昇高度は11,000mで、届きませんでした。</p>		<p>空襲の時、避難や事後処理には警防団の人達が活躍しました。 空襲警報が発令されると、メガホンで『空襲警報発令』と大声で地域を回っていました。</p>		<p>第2次世界大戦中の空襲の時に、頭を守るためにかぶりしました。頭から肩までおおう大きさの綿入りの木綿で縫いました。今では防災頭巾として学校で使っています。</p>		<p>雑多なものを入れる袋の総称で、肩から掛ける布製のかばんです。</p>	



### 3 酒々井の今昔

酒々井町の今と昔の写真や地形図およびエピソードから、道路や家並みの景観の移り変わりや土地利用の様子および開発の過程について知ることができます。





(1) 交通 (道路・鉄道) と家並み ①

撮影・文 川島俊彦氏

1	国鉄酒々井駅	昭和50年	
<p>単線から複線になった国鉄酒々井駅の様子です。JR酒々井駅となった現在の新しい駅舎は、半円形の2階建てのスマートな形になり、快速電車も停車するようになりました。駅前には、マンションやスーパーマーケットができて、多くの人が利用しています。</p>			
2	国鉄南酒々井駅	昭和51年	
<p>町内には4つの駅がありますが、馬橋地区にある総武本線の南酒々井駅です。現在では無人駅となり乗降客も少なく、周囲には長閑さも残っている駅ですが、近隣住民にとっては重要な交通手段でもある鉄道の駅です。</p>			
3	京成酒々井駅	昭和50年	
<p>京成電鉄の駅です。下り（成田方面）電車に乗る際には、当時は改札口を出て、地上の踏切を渡り下り線ホームに出ました。現在は、2階建ての立派な駅舎となり、エスカレーターで改札口に向かいます。</p>			



交通（道路・鉄道）と家並み ②



左の写真は昔の砂利道の旧成田街道です。「伊篠の松並木」と呼ばれたように、江戸時代には成田参詣の旅人の休息場所として利用されました。松は昭和末期までに枯れてしまいましたが、現在でも「宗吾道」などの道標や「成田山護摩木山供養碑」などの石碑が残っています。



宗吾ー酒々井線の交差点にある小高い築山からの遠望です。白い道路は砂利道の国道51号線です。上方に続く道は、成田方面ですが、点在する藁葺き屋根の家や車の通りが少なかった頃の様子がうかがえます。現在では、道路が見えないほど家屋が密集して建っています。



酒々井小学校から京成酒々井駅方面に下る途中の、通称「下がり松」です。旧51号線の道路は砂利道で、ボンネットバスが砂埃をあげて通りました。現在は、一本松の代わりに印旛沼と晴れた日には筑波山がのぞまれる景勝地として整備されています。



### 交通（道路・鉄道）と家並み ③

7	街（若林商店）酒々井 1729	昭和50年	
<p>酒々井小學校正門前から麻賀多神社方向を見た成田街道の「酒々井宿」の名残が見られます。若林商店は茅葺きの家で、農家からの玄米をここで精米していました。現在は建物がなくなり、神社の樹木が往事を忍ばせています。</p>			
8	街（高橋家）酒々井 1746	昭和50年	
<p>上方は佐倉方面の旧51号線の道路です。昔からの藁葺き屋根の家が並んでいます。住民の職業は農家や畳屋等でした。現在は瓦屋根の住宅が多くなりました。道路には、スクールゾーンの文字が書かれ、酒々井小學校の子ども達の通学路として利用されています。</p>			
9	街（相川家）酒々井 1715	昭和50年	
<p>上方は佐倉方面の旧51号線です。右側の垣根のある門付きの建物は由緒ある家です。手前の路地を奥に進むと、「酒の井の碑」があります。現在も建物は残っていて、町の登録有形文化財となっています。数軒先には建物の様子は変わりましたが、当時の酒屋も見られます。</p>			



交通（道路・鉄道）と家並み ④

10 街（鶴岡家）酒々井 1692 昭和50年



郵便制度が発足したのは明治4（1871）年です。その翌年である明治5（1872）年創業の酒々井郵便局の建物です。画面右端には、道路の起点となるポイントを示した酒々井町「道路元標」があります。左端奥には今でも昔の丸型ポストが置かれています。

11 街（原田製菓）酒々井 1818 昭和50年



旧51号線から朝日橋に向かう途中にある横町の原田製菓の建物です。おいしい饅頭などの和菓子を製造販売していました。手前には酒々井町役場入口の看板が見えます。現在も建物は名残を残しており、近くの朝日神社とともに往時の通りとしての雰囲気を感じさせています。

12 街（島田家）酒々井 1688 昭和50年



右の電柱のある所は、魚屋の「魚藤（うおとう）」さんで、その先の瓦屋根の島田家は、江戸時代に幕府の牧場（佐倉牧）で放し飼いをしていた馬を、毎年集めて取引をした「野馬会所」という所です。明治時代に建て直した建物が残っており、町の登録有形文化財となっています。









## 交通（道路・鉄道）と家並み ⑤

13	街（長谷川家）酒々井 1666	昭和50年		
<p>酒々井上宿で、道路の上方は横町の入口方面です。2階屋の1階のガラス戸を入ると、上がり框（がまち）から畳があり、子ども向けの玩具や駄菓子やめんち（めんこ）やベーゴマが置かれていて、少年の心を躍らせました。現在は、建物の代わりにフェンスと電柱が立っています。</p>				
14	街（八坂神社）	昭和50年		
<p>酒々井上宿にあり、祭神は天照大神（あまてらすおおかみ）の弟である須佐之男命（すさのおのみこと）です。通称「酒々井の天王さま」として知られ、毎年8月16日～18日に祭礼が行われました。氏子は「きゅうり」を食べられないという禁忌が昭和の中頃まで守られていました。</p>				
15	街（筋家）酒々井 1636	昭和49年		
<p>酒々井中宿にあり、旧51号線の上方は佐倉方面です。成田街道の名残を残す建物で、町登録有形文化財の指定を受けています。現在は歩道の確保のために、建物全体を奥に移動させて保存作業をすすめています。</p>				



交通（道路・鉄道）と家並み ⑥

16	街（筋家・伊東家）酒々井 1638	昭和49年	 
<p>酒々井中宿のNo15（筋家）の建物の筋向かいにある門構えが素晴らしい、昔の宿場町の様子を彷彿とさせる由緒ある建物です。現在も立派な門構えが残っていて、往時の雰囲気を感じさせています。</p>			
17	街（吉野商店）酒々井 1596	昭和50年	 
<p>酒々井新宿の並木屋さんの筋向かいにあった通称「吉野屋」です。駄菓子やパンや雑貨もたくさん置いてあり、ガラスケースに入ったきれいなビー玉や飴玉などに、少年は心を奪われました。現在では店はなくなりましたが、近くに洋食屋ができて賑わっています。</p>			
18	街（並木屋）酒々井 1599	昭和50年	 
<p>この店は呉服店でした。重い大きなガラス戸を開けると内部には、洋服や和服や反物がたくさん置いてありました。現在でも、車の交通量が多くなった上本佐倉の交差点のそばで、昔の佇まいを残してはいますが、空き家となっています。</p>			



(2) 人々の暮らし【昭和40(1965)年】①

<p>国鉄酒々井駅</p>	<p>京成宗吾参道駅</p>
	
<p>明治30年1月19日開通          ・成田線（佐倉駅－成田駅間）          ・1日平均乗降客数：約170人</p>	<p>大正15年12月24日開通          ・京成成田線（京成酒々井駅－京成成田駅間）          ・1日平均乗降客数：約800人</p>
<p>国鉄南酒々井駅</p>	<p>酒々井町役場</p>
	
<p>大正3年9月10日開通          ・総武本線（佐倉駅－榎戸駅間）          ・1日平均乗降客数：約1000人</p>	<p>明治26年に中宿に創設。町長・助役・収入役・総務課・税務課・産業経済課・土木課・福祉課・農業委員会・教育委員会等がある。</p>
<p>京成酒々井駅</p>	<p>酒々井町郵便局</p>
	
<p>大正15年12月9日開通          ・京成成田線（大佐倉駅－宗吾参道駅間）          ・1日平均乗降客数：約950人</p>	<p>大正元年12月28日開局。局長1名、事務員2名・業務内容（保険・年金、為替、貯金、電報、電話、郵便・小包・切手・はがき類等）</p>



人々の暮らし【昭和40(1965)年】②

<p>酒々井町診療所</p>	<p>酒々井小学校岩橋分校</p>
	
<p>昭和26年3月1日に創設。医師1名・看護婦1名・事務員1名（内科・小児科・皮膚科・放射線科）午前：宅診・午後：往診</p>	<p>明治16年妙楽寺を仮校舎として岩橋小学校を設置、同18年に新築した。明治41年学制改革により、酒々井尋常高等小学校の分校となる。</p>
<p>酒々井町警察官駐在所</p>	<p>酒々井小学校墨分校</p>
	<p>佐倉警察署管内で、警察官1名を配属し、酒々井町の安全を守る仕事をしている。 正月の交通整理は交通量も多く苦労が多い。</p>
	<p>明治6年2月東伝院を仮校舎として墨小学校を設置、同15年に新築した。同18年尾上小学校と合併。第15番学区公立墨小学校となる。</p>
<p>酒々井町商店街</p>	<p>京成バス</p>
	
<p>郵便局がある三つ角付近に主な商店街がみられる。薬局、肉屋、魚屋、雑貨屋がある。その他、京成酒々井駅付近に商店が数多くみられる。</p>	<p>酒々井町にはとなりの町とを結びつけるバスが通っている。成田行、日赤行、八街行、七栄行、佐倉方面行、千葉行がある。</p>



人々の暮らし【昭和40(1965)年】③


<p>渡し船 (中川)</p>	<p>高須賀製菓 (高須賀パン)</p>
	
<p>小さな舟が5そうほどある。印旛沼に面した酒々井では、重要な交通機関である。東京方面に行く行商のおばさんがよく利用している。</p>	<p>明治30年頃創業。従業員は32名。給食用のパンを作り、富里、和田、根郷、笹引、酒々井の各小学校におろしている。</p>
<p>乳 牛</p>	<p>べんてん醤油</p>
	 <p data-bbox="1193 904 1417 1435">明治40年頃の創業である。昭和40年現在年間10400リットル、600石を生産して、酒々井町近郊、東京都荒川、江戸川方面の佃煮屋におろしている。</p>
<p>農家経営の合理化の一環として、乳牛がある。酒々井では墨地区に多くみられ、20頭も飼育している家もある。</p>	<p>農家ではたらく人々</p>
	
<p>尾上の一農家では60頭も飼育しているという。町では農家経営の改善に養豚を奨励していて、農協を中心に昨年度から始められている。</p>	<p>農家は季節により非常に忙しい時期がある。稲作では、春の田植え、夏は追肥、除草、害虫駆除、秋は稲刈り、脱穀、積み出し等がある。</p>



人々の暮らし【昭和40(1965)年】④

<p>駅ではたらく人</p>	<p>農家の建てかた</p>
	
<p>酒々井駅の一日の乗降客が約170人である。人命をあずかる大切な国鉄で、事故のないように慎重に働いている。</p>	<p>農家は農作業がしやすいように家を作る。広い庭は脱穀や米の俵づめや麦をほしたり、苗床を作ったり、倉庫や牛、豚、鶏小屋などもある。</p>
<p>行商のおばさん</p>	<p>中央青年研修所（現：本佐倉城跡調査事務所）</p>
	
<p>酒々井では、東京方面へ、野菜、たまご、米などを持って行商に行く農家のおばさんたちを見かける。早朝の駅は行商でにぎやかになる。</p>	<p>町の人々が大事な話し合いをする時に使う。農業技術講習会、婦人会の講習など、いろいろなことに利用している。</p>
<p>防風林</p>	<p>忙しいおかあさん</p>
	 <p>農家ではおかあさんも、おとうさんと一緒に田畑で働く。家に帰ってからも、食事のしたく、洗濯など一日中忙しく働いている。</p>
<p>農家の畑のまわりや家のまわりには、たいてい大きな木が植えてあって、寒い風や嵐を防いでいる。</p>	

人々の暮らし【昭和40(1965)年】⑤

<p>新しい道</p>	<p>宗吾への新道</p>
	
<p>上岩橋付近から、成田方面に新しく広い道路ができた。成田へ行く自動車がここに何百台と続く。特に正月、五月、九月が多い。</p>	<p>下宿から柏木にぬけ、宗吾に至る新しい道路がつくられている。京成線の上を通り、印旛沼よりにできているが、複雑な道を通らずにすむ。</p>
<p>大崎にある新道と旧道</p>	<p>トラックによる輸送</p>
	
<p>成田街道の代表的な所で松並木、道路標識、旧道がはっきりわかる。昔、成田参りにこの道をわらじで通った。酒々井は宿場町でもあった。</p>	<p>材木がトラックにより運搬される。町では、農産物、その他でも国鉄を利用することは少なく、ほとんどトラックによる輸送に頼っている。</p>
<p>猿楽場にある新道(藤坂)</p>	<p>交通量の多い道</p>
	
<p>成田街道は交通量が多い。この猿楽場の坂道もカーブであったが、直線にした。地盤が軟らかかったため、4、5年も費やしてできた。</p>	<p>成田街道は交通量が多い。成田市のとりの町であることが宿命的なものである。このため事故防止のため、いろいろと工夫をしている。</p>

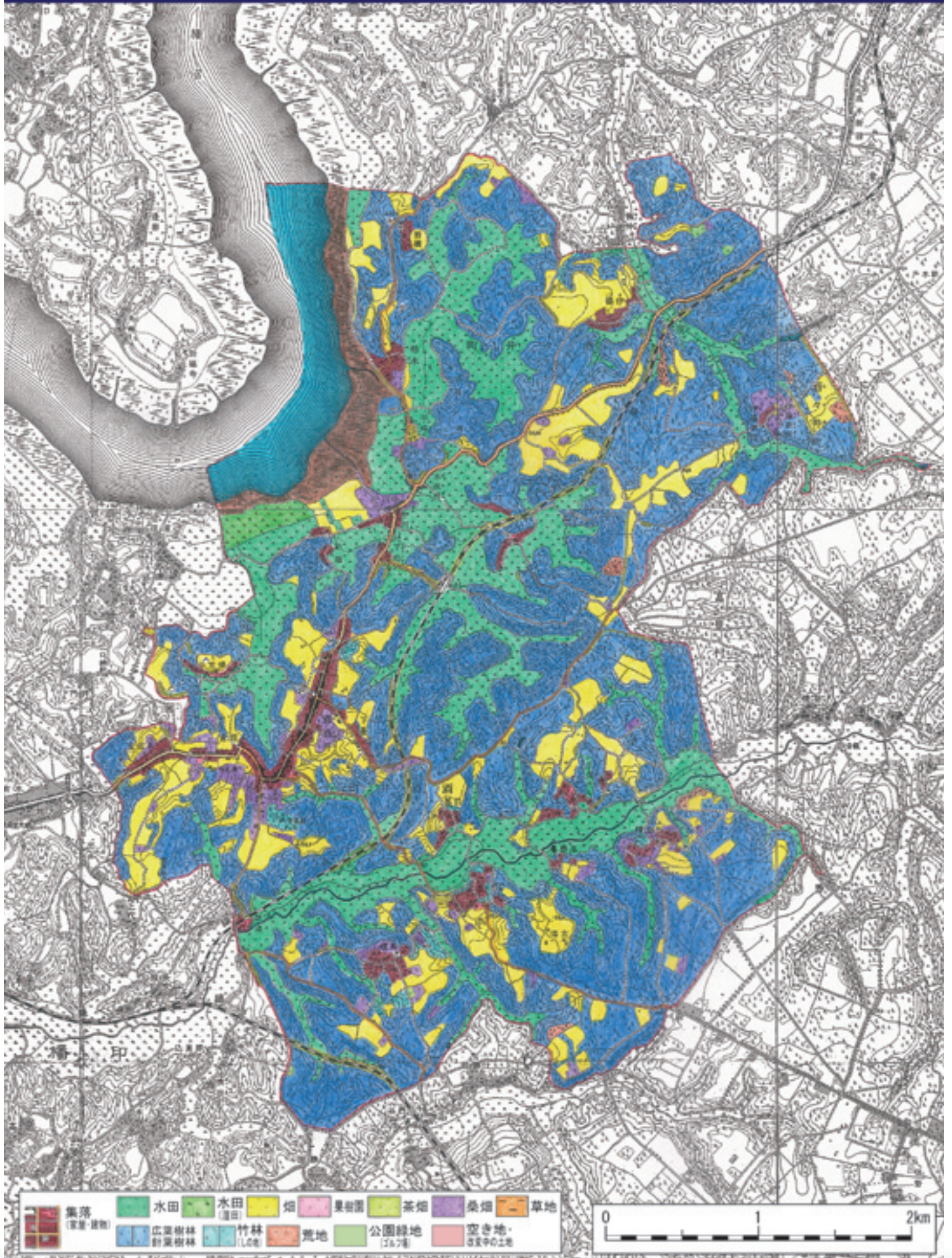


人々の暮らし【昭和40(1965)年】⑥

<p>上岩橋貝層 (根古谷)</p>	<p>古井戸 (酒の井)</p>
	<p>ここは、昔、根古谷城があった所である。この貝層は、成田層の一部で、昔、この辺一帯が海底であったことを物語るものである。</p>
	<p>酒々井という名のいわれがこの古井戸だという。この井戸から酒がわき出たという民話が残っている。</p>
<p>根古谷城跡 (本佐倉城跡)</p>	<p>町を守る火の見やぐら</p>
	<p>今から500年以上前の戦国時代に千葉氏によって落成し、同18年豊臣秀吉の小田原攻めの北条氏滅亡に伴い、9代重胤の時に落城した。</p>
	<p>酒々井町の安全を守るために、火の見やぐらを多く作っている。昭和35年度の調査では、鉄骨製が6基、木製が6基となっている。</p>
<p>中川の渡し</p>	<p>消防団の演習</p>
	
<p>印旛沼の渡しである。最近交通機関が発達してきたが、昔は、この渡しにもぎやかに往来していた。印旛沼から江戸への水路であった。</p>	<p>酒々井町の消防団は町の安全を守るために演習をしている。いつ、どこで火事が起きても正しく機敏に行動できるようにしている。</p>

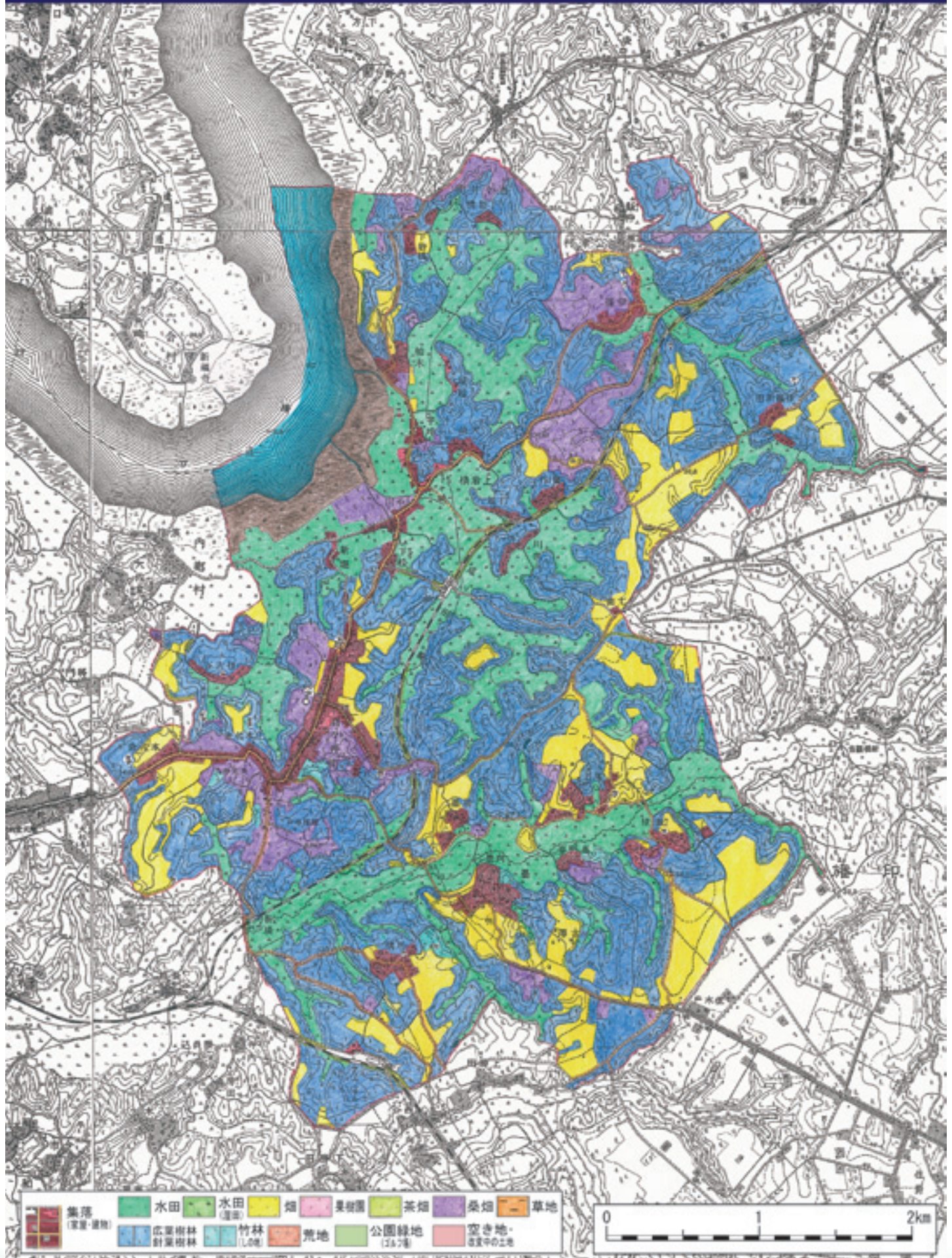


# 1903(明治36)年ころの酒々井町



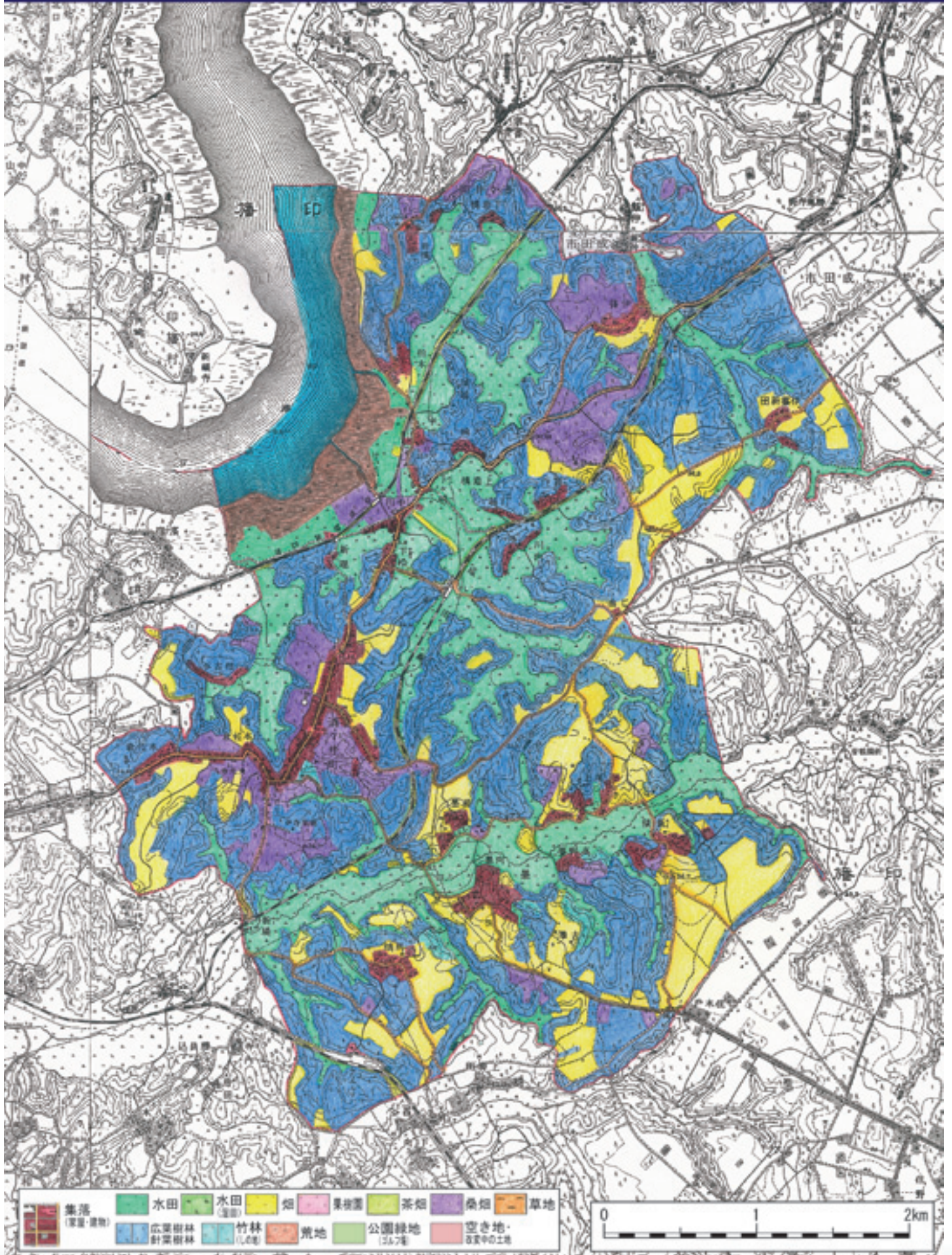


# 1921 (大正 10) 年ころの酒々井町



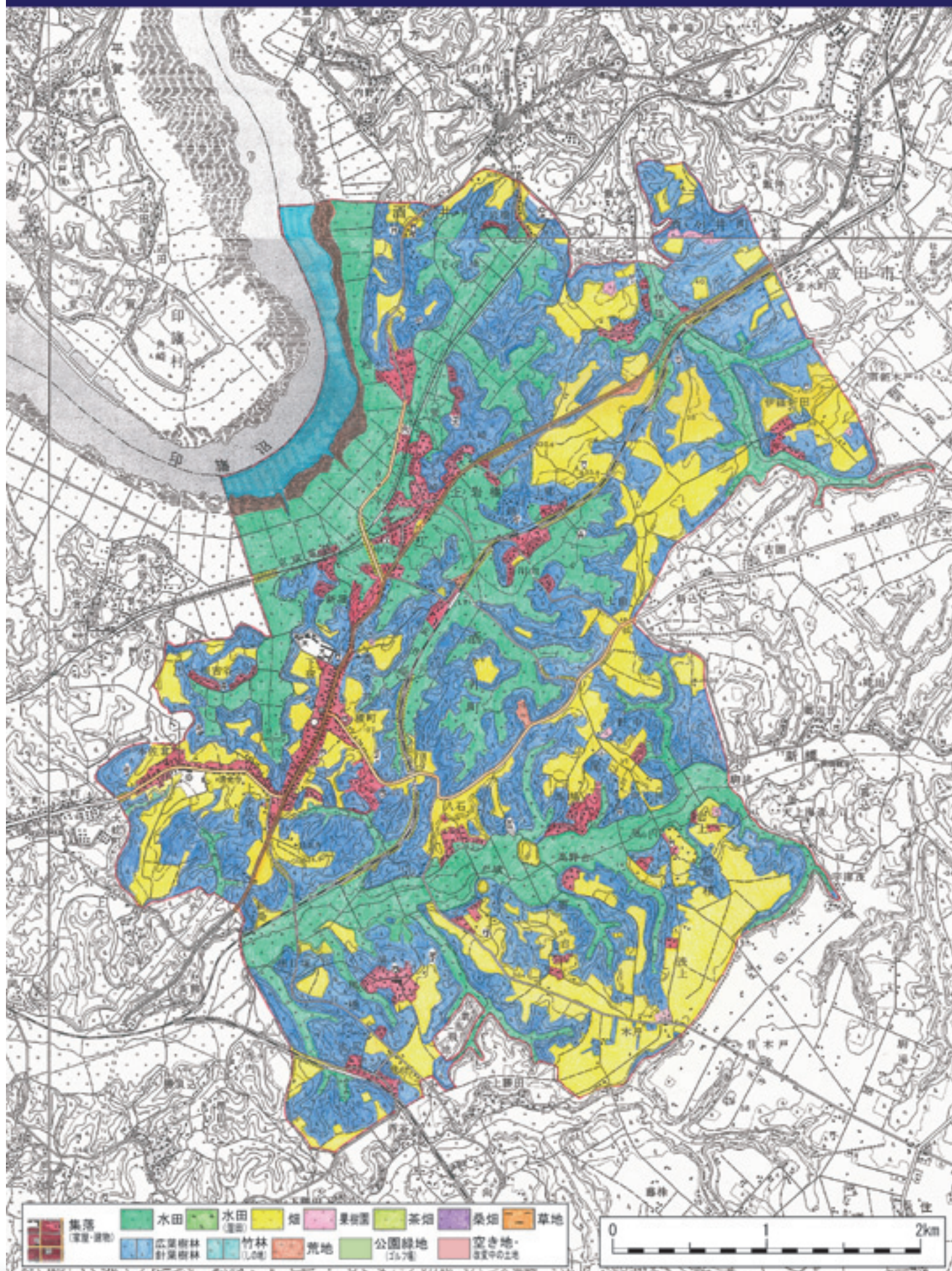


# 1956 (昭和 31) 年ころの酒々井町



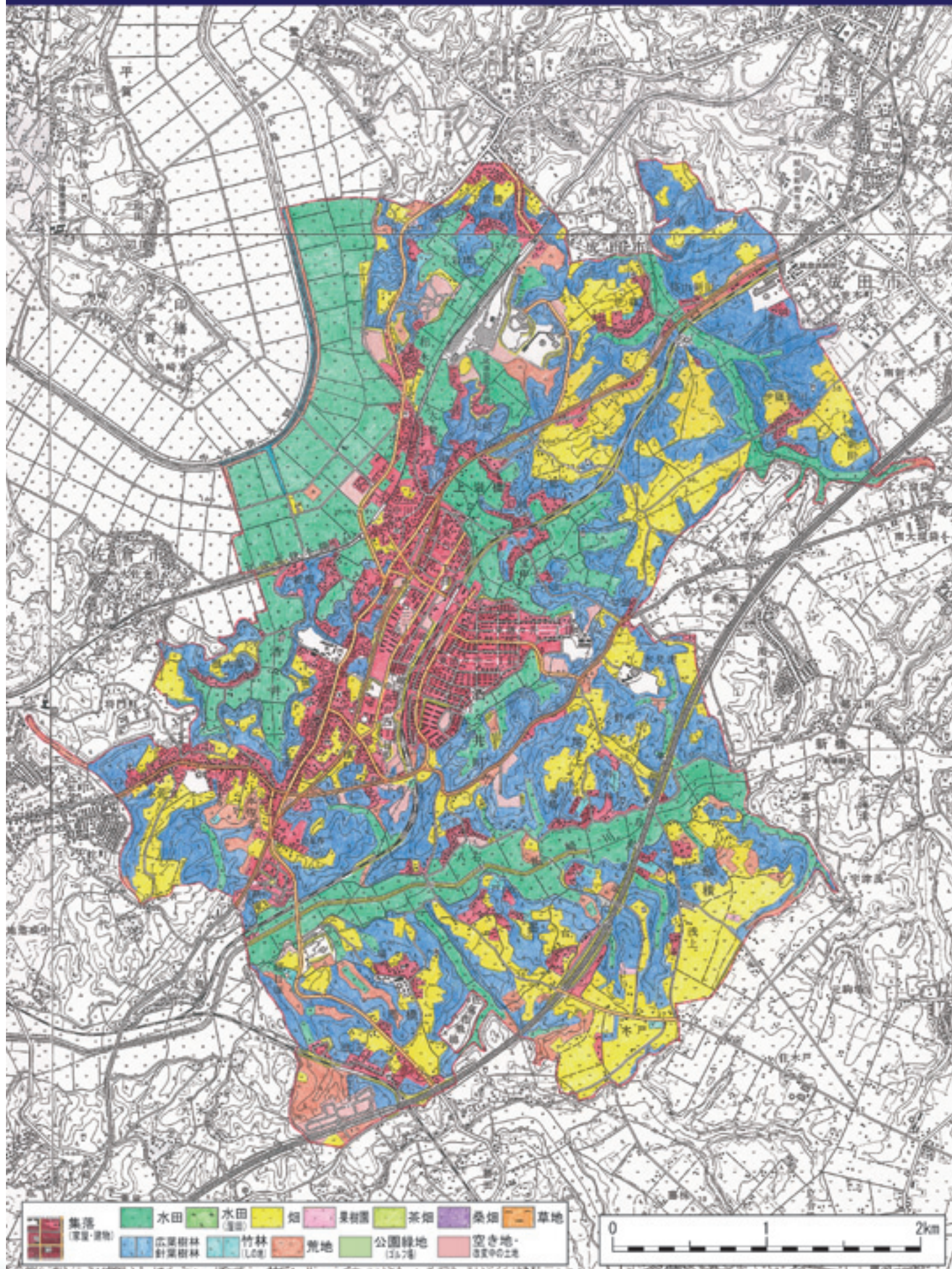


# 1967 (昭和 42) 年ころの酒々井町



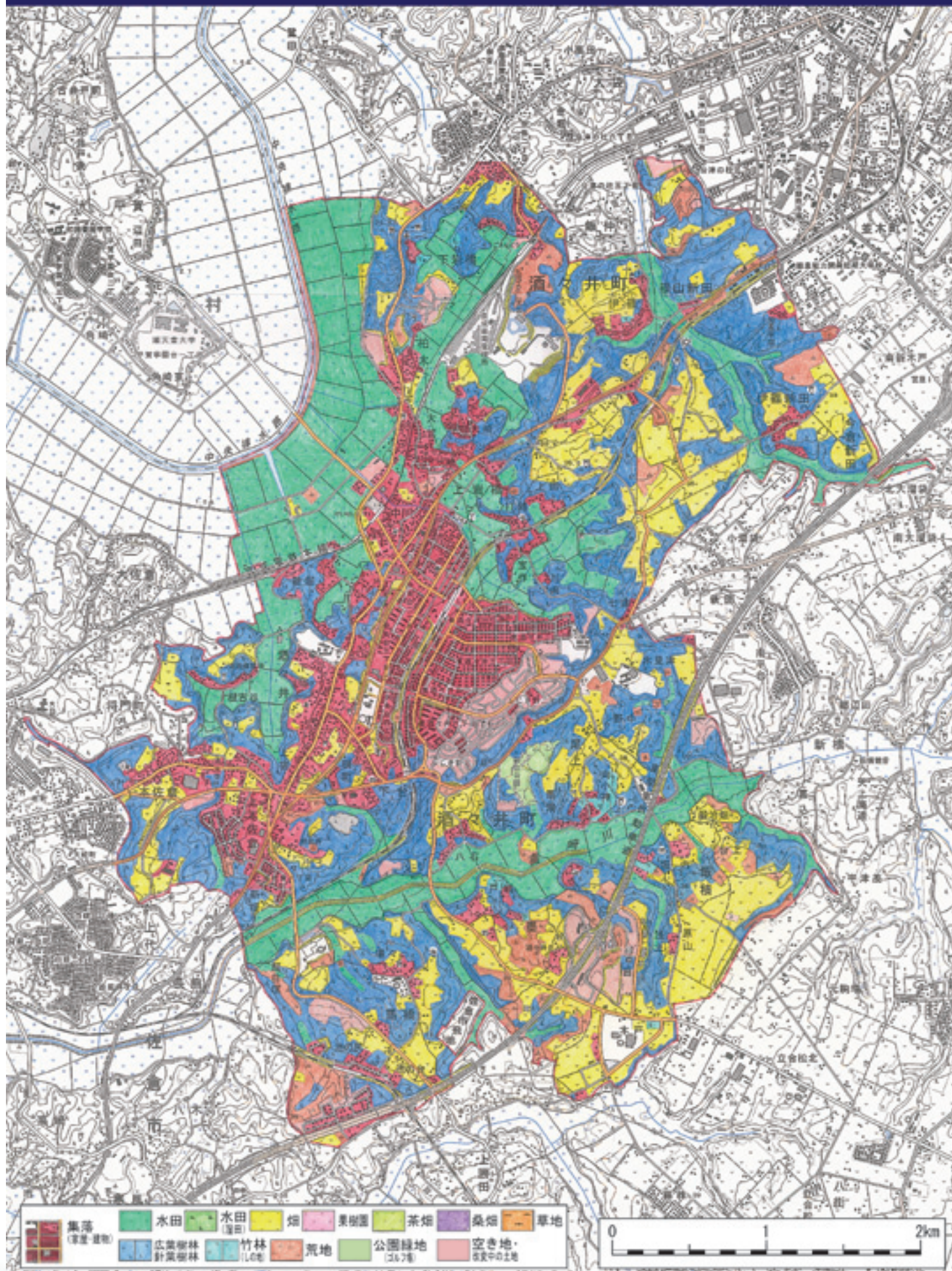


# 1984 (昭和 59) 年ころの酒々井町





# 2004 (平成 16) 年ころの酒々井町





#### (4) 空から見た町の変遷 (航空写真) 【昭和49(1974)年・令和2(2020)年】

昭和49(1974)年発行の町勢要覧掲載の町航空写真で、年表のできごとを確かめて令和2(2020)年の航空写真と見比べることで、町の開発の様子がわかります。

昭和46(1971)年 中央保育園開園  
昭和47(1972)年 現役場庁舎が「中央台4丁目」に完成・東関東自動車道開通  
昭和49(1974)年 東酒々井団地入居開始 【町航空写真撮影】

昭和53(1978)年 中央台団地入居開始  
昭和54(1979)年 酒々井中学校「尾上」に新築移転・国道296号バイパス開通  
昭和55(1980)年 中央公民館完成  
昭和57(1982)年 大室台小学校開校・国道51号バイパス開通  
昭和58(1983)年 岩橋保育園開園・学校給食センター完成  
昭和59(1984)年 保健センター完成





開発中の町の様子

【昭和53年】



造成中の中央台団地

【昭和55年】



工事中の国道51号バイパス

【昭和57年】



国道51号バイパス開通

昭和49(1974)年









(5) 酒々井のあゆみ【昭和54(1979)年】

「SHISUI-TREKKIN'90」の90のエピソードと「図解・なつかしき酒々井の風俗と生活」の学校生活・遊び・生活用具・電灯・電話・水道から、町制施行から90年間にわたる酒々井町の人々のくらしの様子が伝わってきます。

<h1>SHISUI</h1>	町制施行90周年記念 1979 11/3
	
<h2>SHISUI-TREKKIN'90</h2> <p>図解・なつかしき酒々井の風俗と生活</p> <p>女はだれでも スーパー・スター</p>	<p>酒々井昔ばなし</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●酒の井</li><li>●稲荷の藤兵衛</li><li>●カンカンじろ</li></ul> <p>梅の郷讃歌 酒々井・荒軽怒</p> <p>「女のグチ、男のグチ」</p>



1-1



1-2

**1** のんびり、気ままに、豊かな自然の中を旅しよう。時間の流れの中を、行ったり来たり、九〇年の酒々井の歩みを、ゆっくり、のんびり旅してみよう。乗り物類りの観光旅行でもなく、本格的な山登りでもない旅、それがトレッキングの意味なのです。

**2** 東京から成田まで、江戸時代末期からの歴史、市民の成田参詣の歩行は、たいへん盛んでした。当時も信仰と観光を兼ねた旅行であったのは、いつの間にか変わりました。東京から成田まで片道二泊三日もかかりました。

**3** 上本佐倉の養蚕屋、松野、すしや、ばんじよ、酒々井の系図、中尾、大田、佐野、河原、其内、トウの霊跡、御金、木村、上尾、高尾、これらは、成田街道の賑わいし頃の有名な旅籠、水茶屋でもあります。

**4** 台風の影響には日光水が稲穂をさらう。印旛沼の湖水は、随分苦勞させられた。梅田のころ、四五日も雨が降れば水かさが増し、田んぼに流れ込み稲はえたばかりの苗を奪ってしまいます。また台風の影響には、利根川の上流、栃木県地方から日光水という黄濁水が押し寄せ、湖が濁り出しはかりの稲田を一夜にして埋没させてしまったのです。

**5** 印旛沼の干拓は、江戸幕府により三回、明治以後は数回計画され実施されましたが、すべて不成功に終わっています。いずれも水が東京湾に流れて干拓しようというのでした。

**6** 成田街道の道中、土産物屋には、名物、餅の甘藷高、餅のじんぱん、餅の湯あきなどが売られています。これらの品は、東京にまで名をはせていて、餅り土産に旅人たちは必ず買っていました。

**7** このころの最新交通機関は人力車。馬とがごにかわってきそうと登場、明治8年には、すでに48台の人力車の登録がありました。道路がよくなったのに伴い、酒々井の宿場は繁栄し、多数の人力車の往来があったことがうかがわれます。



## このころの最新交通機関は人力車。

**8**

町で最初の公立小学校は、明治六年に創立された中央小学校。明治政府が学制を公布したのは明治五年のことだから、余程早い方です。教員は、生徒は男子三六名、女子一二名。ほかに、この年、豊小学校、岩崎小学校、豊年小学校が開校されています。当地方の教育熱の高まりがうかがえます。

**9**

印旛沼には蒸船が輸送専用船として運行していました。五〇石積みほどの高船は、約一五〇馬力もついていた。東京、駒子間を結んでいました。ほかに、酒、炭、材木、竹材などの酒々井地方の産物を輸送しました。後継船の大型船も可航したため船運は多く利用されました。

**10**

町役場の前身にあたる戸長役場ができたのは明治七年、当時は酒々井町をさむい四か町村連合長役場として設立しました。連合以来日本の行政的連環が全国に整いつつある中で、役場は、酒々井町の石段石門門さんの持家におかれました。下宿職官神社の側でした。

**11**

その日は雨模様。それでも人々の心は晴れていました。明治三年四月一日町制施行。新しい酒々井町、誕生の瞬間。酒々井町、本佐倉町、本佐倉町、下白村、馬橋村、黒村、黒崎村、堀上村、中川村、上野村、伊藤村、伊藤新田、下野村、柏木村が合併しました。当時の戸数七二〇戸、人口三、六四四人。

**12**

町の誕生直時は、今のようには議会と役場設置のものはありませんでした。二二名の町会議員の中から、町民

助役が選任されて、町民、町議が一体となって町づくりを推進したのです。初代町長は平島新五郎氏。第一回町会は明治三年五月六日、午前九時より東光寺にて開かれました。

**13**

初代町長平島新五郎氏は安政元年(一八五〇年)生れ、町長就任当時五歳の若さでした。町議会の議員も、町長が務めました。

**14**

初めての役場庁舎は、実は郵便局を譲り受けられたのです。明治二三年のこと、場所はずな酒々井の移居、以後二二年間、酒々井町役場の移居時代が続きます。

**15**

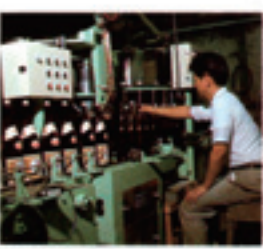
鉄道の開通は、町の経済圏を大きく広げました。明治三〇年、東武鉄道佐倉、駒子間の開通。翌三二年佐倉、佐原間が開通し、酒々井町が開設されました。こうして、東京方面からの成田参詣は、汽車が利用されるようになり、徒歩旅行者相手の旅館、本宿はさびれていき、人力車も時代の遺物となってしまいました。

**16**

運搬の花形として荷馬車が登場します。鉄道の開通に伴い貨車輸送と連動した、農産物、材木の運搬に威力を発揮します。明治中期のころのことです。

**17**

現在は、樹々が生い茂り土塵と空気の外は昔の日の影はほとんどみられない本佐倉城跡ですが、付近には有名な歴史人物の遺跡があります。半井門の受入たつた橋といふそれは美



1-4

しい女性を尊ぶたといわれている橋。佐倉藩が藩士半井門の墓があるといわれている日宮神社など、本町まつわる古人が居ります。

**18**

明治四年、学制が改正されて、義務教育が促されました。従来の四年制が六年制へ。この時、豊、酒々井の三小学校と酒々井高等小学校を合併して、酒々井高等小学校が新設され、豊、酒々井にはそれぞれ分校が置かれることになりました。四三年従来の就学生数は豊高が男子二四〇人、女子三五一人、高等科男子一五人、女子八人。

**19**

米づくり一本やりだった農家が副業として、養蚕を始め、町も養蚕組合の設立や品種改良の奨励が、町内の数か所には信州の方から製糸会社の社員人が定期的に出張してきて、農の発展にありました。

**20**

年間産量は一万余石。醸造といえは、酒々井の酒と醸造はもあまりに有名な。古くから、酒は酒造本家、醸造は手付、製法、山下産業が四方の町のみなさん御用として販路を伸ばしていましたが、戦後、醸造は不況となりまして、酒は、低コストの出荷を誇っています。現在年間産量は一万石二八〇千リットルです。



# SHISUI-TREKKIN'90

**21** 印旛沼はW字形をしていて、  
印旛沼は、W字形で、周  
約六〇キロ、面積は約  
二二平方キロの沼で、  
酒々井町を始めとする七つの市町村  
に跨っていて、周辺には貝塚、古墳等、  
城跡が多く、古くは万葉の歌人にもた  
われ、多くの文人の訪れた所です。

**22** 墨の獅子舞。  
五穀豊穡、干水の雨どい  
の神恵をかねて春祭二回  
区内の神社、寺院などで  
踊りまわっていました。  
す。享保一九年(一七  
三四)以後現在まで続いていま  
足柄入、芝獅子、刺の舞い、旗獅子な  
どが伝承されています。今は毎年七月  
一五日の熊野祭に六所神社と区長宅で  
演じられていて県指定無形文化財にな  
っています。



**23** 通称「模古谷」に  
ある本徳倉城址。  
町内西端、佐倉市との境  
界に近い辺りにありまし  
た。戦国時代に、千葉氏  
がここを本拠とし、百  
年続きました。しかし、小田原之戦に  
加担し、一五九〇年、北条氏と  
もに、秀吉によって滅され、その時以  
来、城を築城されませんでした。

**24** 「大寺の香のけむ  
りはいと細けれど、  
天にのぼりて白けむりと  
なる。」千早ふも神鳥  
居も通るの音息もけがれ  
も地に伏し行けり。」  
志保は実家加賀の八幡宮で  
配なされる。萬福の大獅子の舞の中  
で入られる姿は、昔は獅子舞は

**25** 酒々井専業高等小  
学校は、現在の酒  
々井小学校の前身にあた  
ります。明治四二年度の  
増築が行われ、さらに大  
正元年には専業高等さん  
り講堂が寄贈されました。  
講堂のある小学校といふは珍らしく、  
町の自慢の講堂でした。

**26** 大正二年、徳倉駅、  
宗善まで兼合自動  
車の運行が許可されま  
した。これにより酒々井地  
は時速二二キロ、その他  
は時速一九キロ以内で走  
ることになっていました。なお、徳倉  
から、家の中で、自動車の音がきこ  
えたかたといつてあつた外にゆた  
として、車の音にかけ寄ることな  
いよう、道徳が静かに立ち止まってい  
ることにあります。



**27** 大正四年、一度め  
の庁舎引越。酒々井  
警察官の酒々井小神地  
へ移転しました。今の青  
年館跡のあるあたりで  
す。ここには三年間、  
開業前、昭和初期の経済危機によ  
る大不況、調子事、日支事案など大  
事件が舞を絶つことと押し寄せてき  
た歴代町長の苦心の結晶でした。

**28** 印旛沼沿岸農民の悲願、  
安食岡門完成。  
こうしん

大正十一年、台風期に利根川の水が逆流することによる増水は、防ぐことができるようになりました。ところが、内水がでて田畑に浸水するようになってしまいます。内水による被害は、ポンプ場がでるまで続きます。



**29** 夜なべ仕事にラン  
プは欠かせない時  
代。ガラス製の、丸い  
油燈による火事が数件  
あつたを覚えて、大正六  
年には、金属製の、らん  
ぷ油燈、を使用するようになり、という  
通知が各戸にされています。

**30** 京成成田線が開通  
大正一五年。  
よまでの国鉄酒々井駅  
を中心とする人々の流れ  
が、列車運行回数が多い  
京成電車へと切り替わつ  
ていきます。一時は、商業地域として  
の広がりを見せていた国鉄酒々井駅も、  
昭和四年九月一日、とうとう無人駅  
となつてしまいました。

**31** 西瓜を満載したる如  
くに入粟の調が、  
大正二年九月一日開業  
「第一は大儲けがぞいま  
した。酒々井駅、南酒々  
井駅には、三日頃から酒々井の通商が  
みられるようになり、列車は、酒々井  
は列車からあふれ出し、列車は、酒々井  
機、機関車の前後より屋根上まで一面  
になじりついでいたと云えます。  
人々の移住のため、町の活況大、青年  
団員などが活動し、夜食を忘れるほど  
の盛況にあたりました。

**32** 鎮の初パーセント  
が豊饒に。  
大正時代の町の賑はひ  
パーセントくらいまでが  
豊饒になりました。商の  
繁盛は、酒々井町の中  
心の存在になっていました。この繁盛  
全盛時代は五〇年あまり、昭和中期ま  
で続きます。

**33** 昭和一三年と一六  
年の大水害。  
こと一六年はひどい水  
害でした。徳倉三〇数戸  
が床上浸水、京成酒々井  
駅は泥水、機路は水と浮  
かき、船で家々を往来しました。

**34** 「夜等の町は印旛  
湖の 広き望めに  
長くも 明治の帝  
の御野立所、千歳  
に連る史跡あり」  
これに昭和一三年に作ら



れた酒々井町酒造歌の一番の歌詞です。  
この歌は二番まで続き「家業を諦め  
業をなし、水に安んずる若せん、いやや  
喝へん諸君に、酒々井の町の風を」  
でしめくくられます。中には、水は  
鉄砲の五分間、標のうちに打ち込み  
という現在にも通じる文句も含まれて  
います。

**35** 二度めの引越。三  
度めの校舎  
に替ったのは昭和一五年。  
馬場沼の酒造家久松さんが  
土地を酒造町寄りに  
寄贈されたのです。二  
階建ての和洋折衷式のモダンな建物を  
した。

**36** 昭和一六年、小  
学校は国民学校と改  
称され、学校は、教育の  
場へより、皇国民権  
の場と変換します。戦  
況不利となる一八年頃  
からは、生徒は学習よりも食料生産の  
担い手となり、さらに、校舎の一部が  
臨時兵舎に借用されるようになります。

**37** 第二次世界大戦の  
ころ、町の人口は  
約六、〇〇〇人では  
した。このうち出征者六九  
五人、戦死して八〇西  
八、戦没者は二六人の  
多数に達しました。戦争にいったもの  
のうち、およそ六人に一人が帰らな  
かつたわけでした。昭和二〇年、八月一五  
日の戦争終結の日を、人々は待ち望ん  
でいたのです。

**38** 敗戦の日を境とし  
て、あらゆる分野  
において、個人主義、民  
主主義が叫ばれます。  
学校界においても、律  
身・地理・歴史などの授  
業は抑えられます。





**40** 一反歩の田が五〇〇円で、  
戦後、古河軍による民主化政策が次々に実行されるが、そのうちのひとつ、農地改革は、町にも大きな影響を与え、田畑もとあわせて四四八町歩あまりが解放され、小作農民の大部分が自作農になり、このとき、一反歩の田は五〇〇円前後の価値を下げられていますが、酒々井地方の現代化の大切な節目であったといえます。

**39** 国営印旛沼干拓事業着手、昭和二十一年、毎年毎年、同じ被害を繰り返していた印旛沼三年に一度ほどしか水が流れないという困窮、むとも土地は肥沃なものですから、こんな状態をいつまでも続けていくわけにはいきません。時は戦後の食料難のころ。



**44** 新砂二五トン、  
内水の解消のために、砂水ポンプが不可欠で、三四年、印旛新水機場九五トン、四二年、大和田新水機場(二二〇トン)が完成しました。このポンプのおかげで、印旛沼の水害は完全に解消されたわけですが、このポンプは酒々井地方の心臓です。

**42** 昭和二八年、印旛沼土地改良区(印旛沼流域五市九か町村)が設立されました。以来、昭和五〇年までの歳月をかけて、灌漑用砂水の整備、圃場整備が行われました。



**41** 六・三制の義務教育法が施行され、二三年四月酒々井小は、これ志々の国民学校の校舎をそのまま使用、酒々井中は各地に新築、開校のはじめとなりました。

**48** 酒々井小学校に初の体育館ができたのは昭和四五年のこと、鉄筋造り、床面積六二八平方メートル、四八年には、鉄筋コンクリート三

**47** 印旛沼流域の開発が進むにつれて、印旛沼の水質が汚染し、かつての清流、昭和四三年、印旛沼流域の水質調査事業が認可され、以後、六市四町二村の広域事業が始まります。下水道への取り組みは全国でも早い方です。

**45** 二本の国道の舗装は昭和三八年ごろ、五二号線は町内五、七七〇メートル、二九六号線は四、二五〇メートル、沿道住民を悩ましていた砂塵公害も、これで一気に解消、町の道路交通の利便がますます整います。



**53** 高橋きん、と呼ばれ、べびあんなが張り向く、というのほらよと大喧嘩ですが、酒々井町の地では高橋きんが一番多くて、五二村、昭和五〇年の調査で、一役の砂水は酒々井に、二役の砂水は酒々井に、三役の砂水は酒々井に、四役の家増地は酒々井に集中しています。また、長い歴史のある町ですので、古村の方

**51** 夏祭り、盛大な盆踊り大会や花火大会は夏の暑さをふっ飛ばすほどのエネルギーを注ぎ込まれる祭です。子供たちは虫取りにはしゃぎ、大人たちは踊りに酔い、興奮の渦に巻き込まれます。

**50** 現在の宮崎正徳町長は、歴代三五代めの町長、一人て何人も務める場合もあるのに、酒々井町の町長の椅子には、これまで二三人の方がすわっています。應援は、藤氏のめだちます。歴代五人の町長がいま

**49** 四度めの役場が今の庁舎です。昭和四三年完成、跡米町の人口増加を反映して、役場機能を十分に発揮できるよう鉄筋コンクリート三階建ての広い建物が、中央官地造成地の南端に位置していて、庁舎の屋上の眺望がからは、団地が一望できます。



**52 団地にシンボルマーク**

があるのも珍しいのではないのでしょうか。東酒々井団地のシンボルは、団地の入口に建っています。若い芽・双葉のイメージ……とても好評なんです。



**56** ハワイアン・サンキ  
フライン、サンキ  
成田空港開港にもなつて、美会話歌がなまりました。世界に聞かれた酒々井の町民から、美会話らしいことをせなぐちで、というので、美国フロリダ州へ留学経験のある宮田先生を講師に、会歌のイロハから始ります。

**55** 風の子、若竹、トケ崎、そよ風、おもしろ、若草、なまじ、つくし、太陽、船の木、若葉、はやぶさ、あじさい、太陽、青空、竹の子、これらの美詞歌は何でしょう。酒々井町民なら、知っているはず。町の子供会の名です。子供会村長の球枝大会も今年で、年々、ますますハッスルしている子どもたちです。



**54** クリーム色と茶色のワートンカラー……  
……といえは、通称「おれおれ」が完成のスカイライン、上野と成田空港をノンストップ一時憩い、ついで、和紙、緑葉が黄白色に色づき始め、田んぼの中を一直線に走るその姿は、なかなか絵になる風景です。



# SHISUI-TREKKIN'90

**57** 静かな町なんです。騒音のない町としては、国際空港に最も近いんです。羽田に、国際空港があつたときより静かになつたみたい、よその国にもこんな国があつたら結構都市に……なんてどうかしら?

**58** 町民が一年で一番興奮する日。11月3日文化の日を中心に繰り広げられる町の祭典、町民文化祭には、町内の文化団体は総参加、また、町民運動会には多勢の約1,000人の町民が集まり、会場は熱気と歓声につつまれます。



**59** 国道が二本、鉄道駅は国鉄、私鉄合わせて四駅もある町といえは、かなり交通便に恵まれているといえます。しかし、その半面、国鉄は通交運賃が多く、鉄道は特急、快速が通らない……といった苦情も。

**60** 東酒々井出地の夏祭り。古い伝統のある地区は遠い、今生活している人々が、歴史の跡を踏み出しているのです。わがふるさと

に、祭りばかりではなれないもの、いろいろな土地から集めてきて、酒々井でひとつに集めよう、それが祭りの具、御覧をかつくけあに力がついてます。



**61** 役場の職員の平均年齢が若いのは、酒々井町村には若者なつたのですが、去年から、酒々井、津安町に抜かれて、朝霞、あなみ、現在の平均年齢は、二六・一〇歳、歴史は古い、若きあふれる町のひとこの象徴です。

**62** 伊藤入口から成田市へ向つての国道五二号線の南側、田成田街通り沿いに、城鉄八〇〇メートルの植樹帯が続く。伊藤の植樹帯、松は日通リ幹廻り四メートルほど、樹高三〇・二五メートル、樹齢は二〇・二五〇年とらわられています。夏は涼しい木陰を求めて、昼寝をしている人もちらほら。



## 63 ゲタ箱のある駅舎

国鉄の南酒々井駅は、雑誌にも紹介されたりしてちょっぴり有名。それは、駅にゲタ箱があるからです。昔、通勤客がどろんこ道を、長靴をはいてきて、駅で皮靴にはきかえて通勤していました。今でも当時のゲタ箱が残っています。線路わきには桜並木の続く美しい駅です。



**64** 一万人めの町民はきやかちゃん。人口は、六、〇〇〇人君が長い間続いていたが、近年の土地開発によって、人口が一万人を突破したのは五三年六月三日、午後四時二五分、この記念八ヶ赤ちゃんの名は「きやかちゃん、無地無主正統、静江御夫妻の次女です。

**65** すばらしい自然に恵まれ、理想的な教育環境を長いこと提供してくれてきた聖母学院が、昭和五〇年四月本校に統合され、閉校されました。教育委員のこの地には、記念碑が建てられています。

**66** 小学校の給食室が改築。五三年九月に、従来の二階の広さで、近代施設を備えた立派な給食室が完成した。二、五〇〇食の調理可能となりました。

**67** 子どもの遊び場、山あり川あり広場あり。遊歩道と子どもが遊ぶところを整えて、賛否両論が沸きおこっているのが都市とは異なり、酒々井には



**68** 豊かな緑、続けるような青空に、レインボウの屋根がひときわ映えます。真白環境にマッチした明るい建物——これこそ学校のイメージ、酒々井中のモダンな建物です。従来の小中学校が同じ敷地にあつたのですが、五四年四月、新校舎の全面移転を行いました。今後の人口増をみこして、二四クラス、約一、〇〇〇人の生徒が学べる予定です。

**69** 中学校体育館は、日本武道館の八角形なゆとりある設備は県下一とも日本一ともいわれます。一方、従来の中学校体育館は町民に開放されています。



**70** 町では、佐倉市他二町の常備消防と、町内二三地区の組織による消防団によって町内の消火活動に力を注いでいます。住民の消防に対する意識が高まっているとみえて、近年、火災発生件数は極めて少ないのですが、交通事故、急病などにより、救急車出動回数が増えています。

**71** 酒々井の頃は、ゆるやかな起伏があるのに、戦、野馬が身を出し始めるころは、若草色があましく広がっています。裏庭に、ヒバリがさすります。

**72** 酒々井の水はうまい……地名に「酒」の字がつくところからもうかがえます。今、わたしたちの飲める水は九〇年前の水といわれています。そのままだと飲料水としての水質基準をみならず、念のため塩素殺菌をして各家庭に給水しています。町の人口三万人ほどはおいしい地下水すべてまかなえるといえます。

**73** 消火栓、貯水機、カーブミラー、街灯など、防火、交通安全施設は、町内どこでも歩いて見かけられることができるほど普及しています。消防団は三分団、二〇五枚、各分団にポンプ車、積載車が配備されています。



## 74

**防災は町のかなめ。**  
去災の多いにそなえ、毎年夏暑のせて夏季訓練が行われます。住民の安全を願って、団員はみな汗ひつり、ずらりとまわった消防車の前に、団員たちの点呼の音がひびきわたります。もう、たのしいかきりです。

## 75

**じやり道は道路でない」とまでいわれ、舗装には、力を入れてきた本町。舗装率は従って増え続けていて、主要道路は二〇〇パーセント、その他の道路でも四二パーセントの舗装率です。**



①-①

## 76

**このあたりは、即湯沼流地下水道に含まれていて、下水道はかなり普及しています。現在の普及率は四六パーセント。(団地内は二〇〇パーセント) 昭和七〇年を目標として、五四ヘクターの整備を進めます。**

## 77

**ご存知ですが、ホームヘルパー。ひとり暮らしや寝たきりのお年寄りの身の回りのお世話をするホームヘルパーが二名います。ほほ、お年寄りと話して、食事づくり、**



①-②

## 78

**三つの輪、タートリンピック。長寿・健全・友愛。三つの輪をかかげ、タートリンピックが毎年秋に開催されます。若いちゃん、おばあちゃんたちが、普段より二〇歳も若くなって、運動場をころ快しと走りまわります。スライムレース、アベック旅行、けつあつ運動など、楽しいゲームがいっぱい。**

## 79

**現在、町にも老人クラブは一八、町に初めて老人クラブが発足したのは昭和四〇年のこと。以来、各地区に増えて、それぞれユニークな活動をしています。踊り、謡曲、手裏、ゲートボールなど、またまた、万年青年の活躍があらわされてみられます。**



①-③

## 80

### 酒々井町とともに90歳のお誕生日

を迎えたのは、上岩橋にお住まいの木村たかさんただひとり。おめでとうございます。明治22年9月10日のお生まれ。酒々井町より一歳先輩は青木ふじさん(酒々井)、小原照治郎さん(上岩橋)、小別覚はるさん(酒々井)の三人。そして町内最年長者になる青木とみさん(中川)は明治20年生まれの92歳。みなさんまだまだ本町にお若い。いつまでもお元気で。



①-④

## 81

**全国に市町村は数々あれど、酒がづくのは山形県酒田市。わが酒々のふるさとだけですが、ま、しすい」という地名は、熊本県熊野郡にあり、(酒田)と書きます。この電話番号は0968332111。試しにダイヤルをまわせば、ハイ、こちらしすい町は通ず。という声がきこえるかも。**

## 82

**酒は地元の人がちが管理——青年館。青年館のシステムは、地域の人の自主的活動の中核を担っていて、必要ならに寄りあつて使う場所です。職員自主管理です。公民館とは性格が異なります。いつでも利用でき、地域コミュニティに大いに貢献しています。**

## 83

**現在、町に住んで一〇年以上にならる方々、五年未満の方々の人口がほぼ同じ。歳があふれんばかりの酒々井暮らしは、一度休養をとるとたまらなくなるにつつまれて、一生みたく楽しんでますね。**

## 84

**鎮の中の七つのプール。ちびっ子天国は、夏になると、家裏つれて大変な賑いになります。ななても、自然の池を利用し**



①-⑤

## 85

**伊達合渡遺跡は町内最大。七、〇〇〇年前の縄文式土器、石鏡、一、〇〇〇年前の土師器が含まれています。そのほか、伊達の台地のほとんどこが古代遺跡のあつたところ。土の下に、古代人の生活の息づきがわわつていると思ふと、ちょっと胸が熱くなりますね。**



## 86

**酒々井総合公園が、藤・尾上地区に建設されます。十二、四ヘクターの規模で今年中には着工の予定。全天候型のテニスコート四回、年内には完成します。すべての町民が、休養、遊び、運動できる施設をめざしています。**

## 87

**中央公民館が設備庁舎の増りにてきます。現在、青年館、コミュニティセンターが二カ所ありますが、その第五棟にあたります。スライムのある大講堂、会議室、図書室などの施設がそろい、年内には着工の予定**



①-⑥

## 88

**ツバメのお宿。青年館併設の多目的室、毎年ツバメが巣をつります。初夏のころ、どのかともなくやってくるツバメたち、酒々井生まれのツバメたちは、元気に育つて、また来年、お宿に帰ってくるのかな。**

## 89

**役場庁舎の脇を工事している国道五号線のバイパスは昭和五十九年に開通する見込み。これによって五号線の交通渋滞が緩和され、八坂神社の夏祭り復活し、一歩り復興、おぼれ復興となるつかしいふるさとの街りが帰ります。**



①-⑦

## 90

**酒々井九〇年のトレッキング。いかがでしたか。そしてあなたの夢がやってきました。90周年、ここはあなたの項目です。**





風俗と生活

# 学校生活

## つかしき酒々井の

●子どもたちは、ボーズ頭にカスリの着物を

小学生はみんなカスリの着物を着て、男の子は丸ボーズ、女の子はオカッパ頭でした。

冬は、ももひきとたびをはき、着物を着て、その上に綿入れを着こんで学校へ行きました。高等小学校の生徒（今の中学生にあたる）は、木綿の着物、へこ帯、はおりで、帽子をみなかぶっていました。

女子校の生徒は、着物の上のエビス茶のほかまをはいていました。

学用品とお弁当はふるしきにつつんで、男の子は腰にまいて、女の子は手にもって学校へ行きました。

ところで、昔は、「鼻たれ小僧」が多くて、筒そでで鼻をふくので、いつもそでが光っていたようです。今は、もうすっかり、「鼻たれ小僧」なんて、いなくなりましたね。

### ●雪の子どもたちは歩くのが早かった

中学校と女学校（旧制）は佐倉にあったので酒々井の子どもたちは、片道四kmの道を歩いて通いました。交通が発達していなかったせいか、足が丈夫で、歩くのも今の子どもたちとくらべると、とても早く、片道一時間くらいしかかかりませんでした。冬はつめたい風が吹きさらす中を歩くのですから、自然と足も早くなったのでしよう。

今の国道51号線酒々井の坂道は、通称「下り松」といわれ、人家も人通りもないさみしい所でした。学校へ行くには、必ず下り松を渡るなければならず、夕暮れになってから帰



つてくるときは、恐くて、たまたまなかった。もうです。何度か遅いほぎが出たこともあって、女学校へ通う子どもをもつ親は、学校が終わる頃、娘さんを遠えに行きました。

大正時代頃には、自転車通学をする人もでてきました。でも、ほとんどの子どもが歩いて通っていたのです。

### ●学校で何を勉強したのでしょうか

小学校の科目は、読み方、書き方、算術、修身、図画、唱歌、体操などがポピュラーなものでした。書き方で習う文字は、最初にカタカナ、次にひらがな、最後に漢字でした。唱歌は時代によって変わり、鉄道がかった頃には鉄道唱歌、日露戦争の頃は軍歌が多かったのです。「ここは御国の何百里、離れて遠き……」と、得意になって歌っていました。学用品は、大正時代までは紙が少なかったので、20枚くらいの平紙をコヨリでとじて作った「草紙」が、ノート代わりでした。まっ黒になるまで、何度も何度も重ねて書いて、大切に使いました。

教室では、今とちがってノートを使わず、石版と石筆を使って算術の計算をしていました。

中学生になって、初めて鉛筆とノートを使いました。先生はとでもキシクテ、授業の時は竹の根をのばしたムチを持っていて、いたづらをする、そのムチで打たれることもありませ





風俗と生活

# 遊び

## 図解・なつかしき酒々井の

●遊びは、もっぱら自然の中で

明治から昭和初期までは、自然の中で水や土を使って楽しむ遊びがほとんどでした。おとなはみんな働いていましたから、子どもたちは妹や弟を背負って、子守りしながら遊びました。

●松かさ合戦＝松かさを投げっこする。  
●ねんぼう＝木の先を細くけずって、地面に思いきりつき立てる。相手のつきさした。ねんぼう。を倒したら勝ち。  
●兵隊ごっこ＝山で竹の穂をかついで走りまわる。特に目黒、目黒戦争の頃に流行。  
この他に、道具が必要な遊びもあります。道具は子どもたちの手作りで、できた遊び道具は、子どもたちの大切な宝物だったのです。

●竹馬＝二本の竹に足をのせる横棒をつけて、乗って歩く。  
●めんち＝絵が書いてある丸い厚紙を、思いきり地面にたたきつけて、相手の「めんち」をひっくり返したり、ワタから追い出すと勝ち。絵は八幡太郎とか、弁慶、その他物語りの主人公などが人気あり。  
●水鉄砲、紙鉄砲、杉鉄砲＝水をかけあつたり、紙玉や杉玉をうちあう。

●風あげ＝凧、四角凧が主で、お正月には盛んでした。  
●コマ＝昭和になってからは、もっぱらべいゴマがはやる。  
●ふっちめ＝小鳥をとるワナのひとつで、首がはさまるしかけになっている。  
女の子は、羽根つきと、歌いながらお手玉やマリつきをして遊びました。

●山の手、川の手は、子どもたちにとってあんなに楽しい遊びは、ありませんでした。  
●山の手、川の手は、山菜、梅、山イチゴ、山ブドウなどは、採るのも楽しみでしたが、おやつがない頃だったので、そのおいしさに舌づつみをうちました。  
●毎年、春と秋には印旛沼が増水してはらんし、水田にまで魚がやってきます。そうすると子どもたちは大喜び。さつそく蘆竹に糸をつけて作った、つりざお。を持って、フナつりにかけつけます。  
●昔の小川は蛇行していたので、上流の水をせき止めて川を干し、ウナギ、フナ、ナマズ、カニなどをとるのも子どもたちの楽しみでした。  
●中川は川幅が広がったので、おとなもいっしょになって、大がかりな川干しを楽しんだようです。



●山の手、川の手は、子どもたちにとってあんなに楽しい遊びは、ありませんでした。

●山の手、川の手は、山菜、梅、山イチゴ、山ブドウなどは、採るのも楽しみでしたが、おやつがない頃だったので、そのおいしさに舌づつみをうちました。

●毎年、春と秋には印旛沼が増水してはらんし、水田にまで魚がやってきます。そうすると子どもたちは大喜び。さつそく蘆竹に糸をつけて作った、つりざお。を持って、フナつりにかけつけます。

●昔の小川は蛇行していたので、上流の水をせき止めて川を干し、ウナギ、フナ、ナマズ、カニなどをとるのも子どもたちの楽しみでした。

●中川は川幅が広がったので、おとなもいっしょになって、大がかりな川干しを楽しんだようです。

●村じゅうの人々が興奮した様子の日。今とちがって娯楽が少なかったため、夜食のしようこん祭、宗吾堂の御持夜、酒々井の夏まつりなどは、村じゅうの人々の最高の楽しみでした。  
●特に、日露戦争以後は、活動写真、小唄がけ、けんお、玉乗り、手品、相撲、草競馬などで大にぎわいでした。  
●人形合戦はお社の行事のひとつで、ワラや針金で人形をつくり、紙に色をつけたよろいを着せて、子どもたちがたたきあう遊びです。朝早くから、子どもたちは眼目をこすりこすり、人形を持ってかけつけるのです。





図解・なつかしき

酒々井の

風俗と生活

# 生活用具



●冷蔵庫  
上、下段があり、上段に氷を入れて下段を冷やします。大きさは、今の冷蔵庫より冷蔵庫くらい。昭和初期。



●湧水器  
足踏み式ポンプで汲水しました。ホースの太さは今の家庭用湧水器くらい。昭和初期。

●うどん打ち  
後ろの容器に、練ったうどん粉を入れ、ハンドルをグルグル回すと、うどんの太さの溝のある二本のローラーの間から、うどんが出てきます。戦前のもので、



●のこぎり  
幅の広い板をひくときに使った木製鋸で、大木を角目もかかって切り、使いました。戦前まで使用。

●ハエ取り器  
ガラス製で底面の輪の部分に水を入れ、ハエ取り器の中心（真下）にエサを置くとハエが集ってくるが、上に昇ると出られず、水に落ちて死ぬ。戦前まで使用。

●炭火アイロン  
まっすぐに熨いた服を中に入れて、炭火を熱して使います。昭和10年ころまで使用。







風俗と生活

# 電灯・電話・水道

つかしき酒

## 図解・な

●はじめに電灯がついたのは大正5年  
上本佐倉、酒々井、中川、トヶ崎ま  
での田街通沿いに、はじめに電灯がつ  
きました。大正5年のことです。  
一般家庭では12・5Wの電球をせい  
ぜい1灯か2灯使うくらいでしたが、  
それまでの石油ランプにくらべると、すばら  
しく明るかった。のです。ところが、どの  
家庭でもすぐに電灯にとびついたという  
そうではありません。なぜなら、ランプより  
高価で、しかも時々停電したからです。  
今のようにならぬ電灯がつくのではなく、  
夕方から翌朝までだけでした。

昭和10年頃には、かなり普及しましたが、  
一番多く使う商店でも、一か月に20〜50度程  
度の消費量でした。  
昭和30年以降は、電機製品の普及と経済の  
安定によって、一般家庭の1か月消費量は30  
〜40度くらいに上昇し、電力のない生活は考  
えられなくなりました。

### ●昭和4年、役場にはじめての電話

酒々井最初の電話は、昭和4年2月13日に  
酒々井町役場に設置されたものだといわれま  
す。その後、昭和17年前後に高半蔵宅、飯沼  
本家、松本村木店、福田商店、松本製材所な  
どにも電話がひかれましたが、莫大な工費費  
がかかるので、一般の人には高価の花でした。  
昭和30年、30数戸の商店が電話設置。  
32年、20戸の加入者をもって有線放送協会



発見  
42年、電話の自動化なる。  
48年、有線放送の廃止。  
54年現在、町内の加入人口数は三、二二二口  
で電話普及率は90%を越えています。  
●水で苦勞する酒々井には暖にやれない  
水が生活に不可欠であることは、昔も今も  
変わりません。

江戸時代から昭和初期までは、井戸が水の  
供給源でしたが、地区によって様子がずいぶ  
ちがいました。  
上本佐倉と酒々井地区は家が密集している  
ため、5戸から13戸くらいの人たちがひとつ  
の井戸を共同で使っていました。井戸から  
手桶にくみあげるのも大変で、さらに井戸か  
ら自分の家までふたつの手桶を天秤棒で運ぶ  
のが、またまた大変。おまけに夏は湯水する  
ことも多く、水はとても貴重でした。

「水で苦勞する酒々井には暖にやれない」な  
どという言葉がさかんに使われていた程です。  
一方、中川、上野橋、桶木などの印旛沼周辺  
は、水に恵まれ、一般には大変に珍しい。実  
は、水がふき出していました。  
江戸時代には、成田参詣者にこの井戸が非  
常に珍重されていました。

昭和初期には手押しポンプが普及しました  
が、故障が多くて苦勞しました。  
戦後、小型のモーターポンプが自家水道に  
利用されるはじめ、とても便利になりました。  
昭和43年には、全額の水道が引かれました。  
当時の水道普及率は58・3%でした。  
昭和54年現在の普及率は、87・9%にまで  
のびています。

## ファッションのうつりかわり

●明治時代



●大正時代



●戦時中



●現代





#### 4 スライド資料「酒々井の歴史物語」

酒々井学プログラム「酒々井の歴史物語」で使用しているスライド資料です。使用方法としては、郷土史年表と併用して次のような学習を展開することができます。

1. 歴史学習のまとめとして全体を使用する。
2. 歴史学習で教科書（中央史）の単元に対応させて、地方史として部分的に使用する。

**酒々井学プログラム**  
**酒々井の歴史物語**

令和2年11月25日・27日  
酒々井町長 **小坂泰久**

国指定史跡 本佐倉城跡（城山郭）

**しすいまち**  
**酒々井町**

町制施行	明治22年 [131年]
人口	20,682人 (R2.10.1現在)
面積	19.01 km <sup>2</sup> (千葉県で2番目に小さい)
高齢化率	32.19% (R2.10.1現在)

酒の井伝説をモチーフにした  
JR酒々井駅前のモニュメント



酒々井町には、3度の誕生日があります。

- 一、延徳2 (1490)年 本佐倉城に居城した戦国大名千景宗家が城下の町立てを行なった。  
(誕生日は8月12日とされる。)
- 二、天正19 (1591)年 徳川家康の町割り
- 三、明治22 (1889)年 町村制施行による誕生  
⇒ **本年131年**

町の起こりは平安時代  
地名の初見は応永14年 (1407年=今から613年前)

「須々井」と呼ばれて6百年余

## 町名の由来【酒の井伝説】

『昔むかし、印旛沼の近くの村に年老いた父親と孝行息子が住んでおった。父親はたいそう酒好きでな、親思いの息子は毎日一生懸命働いて父親に酒を買っていたんじゃ。ところがある日、どうしても酒を買う金がつくれずに、とぼとぼ歩いて家に帰ろうとしていた。その時、道端の井戸から何とも良い香りが「ふうん」としてきた。井戸の水をくんでなめてみると、それは本物の酒だったんじゃ。さっそく帰って父親に飲ませると、「こりゃうまい酒だ。ありがたい、ありがたい」とたいそう喜んだ。息子はそれから毎日、毎日井戸から酒をくんで飲ませたんじゃ。ところがこの酒は、親子以外の人が飲むと、ただの水になってしまうんじゃな。「きっと、孝行息子の真心が天に通じたに違いない」とみんながほめたたえた。この酒の話しが広まり、村もいつか「酒々井」と呼ばれるようになったということじゃ。』



円福院神宮寺の境内にある「酒の井の碑」

このほか酒々井町には、カンカンムロや稲荷藤兵衛をはじめ160を超える民話が残されている。



## ～ 町の歴史 ～

旧石器時代～縄文時代	1. 歴史の始まりと森の恵み
弥生時代～古墳時代	2. ムラの誕生と香取の海
奈良時代～平安時代	3. 古代東海道と文化
平安時代～中世	4. 房総平氏と印東庄
中世	5. 関東八館・戦国大名千葉氏と本佐倉城
江戸時代～近世	6. 酒々井宿と野馬会所・野馬牧
近現代～現代～いま	7. 「日本で一番古い町」のはじまり

旧石器時代～  
縄文時代

### 1 歴史の始まりと森の恵み



**酒々井には人類最古のムラがある！**  
—旧石器時代の酒々井町—



～3万4千年前、そこには人々の交流拠点があった～

**日本人のふるさとのもち**

**しすい**





酒々井町の旧石器時代遺跡

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 墨古沢遺跡    | 10 下岩橋芝栗毛遺跡 |
| 2 墨木戸遺跡    | 11 伊羅台畑遺跡   |
| 3 墨新山遺跡    | 12 伊羅大日遺跡   |
| 4 墨総合公園内遺跡 | 13 伊羅白幡遺跡   |
| 5 尾上平台南遺跡  | 14 上岩橋岩崎遺跡  |
| 6 飯積原山遺跡   | 15 本佐倉大堰遺跡  |
| 7 飯積上台遺跡   | 16 本佐倉北大堰遺跡 |
| 8 上本佐倉上宿遺跡 | 17 北大堰遺跡    |



(『日本の歴史』学芸研究社より転載)

全国でも最大級・最古級  
墨古沢遺跡



約3万4千年前の集落跡  
日本最大級の環状ブロック群  
推定直径 67m × 60m  
関東ローム層から4,383点の石器が出土



令和元年10月、国史跡指定!

国史跡指定の内示を受けたことを記者会見で報告

(令和元年6月17日 中央公民館講堂)





# 町内で発掘された主な遺物

旧石器時代の石斧



墨木戸・墨新山遺跡より出土。

縄文時代の石器



墨木戸・墨新山遺跡より出土。

縄文時代のヒスイ大珠



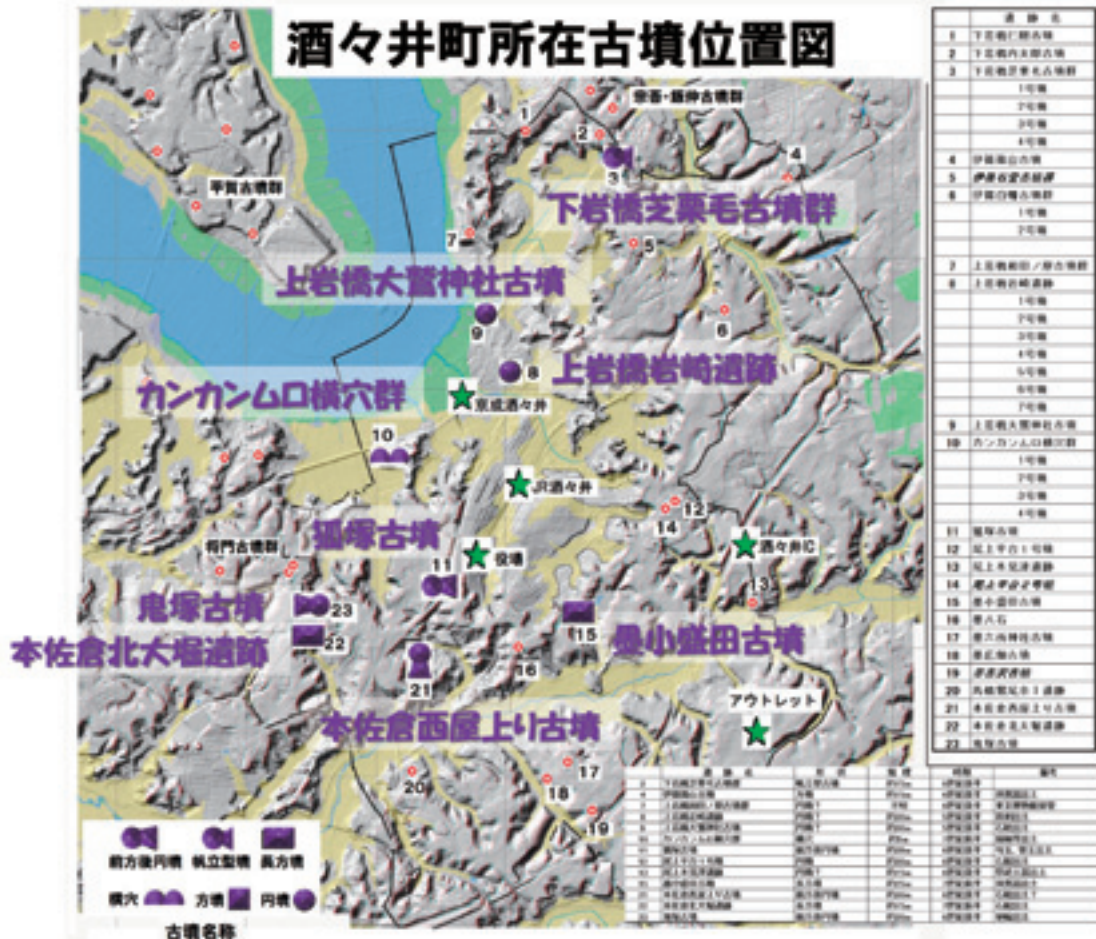
約5,000年前、縄文時代中期。祭祀用の装身具。伊藤台畑より出土。

縄文土器



約5,000年前、縄文時代中期。墨木戸遺跡より出土。

## 酒々井町所在古墳位置図





## 2 ムラの誕生と香取の海

弥生時代後期、酒々井町にも水田耕作・弥生文化が広まります。

そして、印旛沼・香取の海の水路を通じ文化は徐々に伝わり、古墳時代の半ばには利根川下流地域の文化圏として、特徴的な遺跡が出現します。



「上岩橋大鷲古墳」

低地に立地する5世紀前半の円墳。死者を弔うための“常総型石枕”が発見される。



「鬼塚古墳」

上本佐倉字向台に所在し、全長30メートル高さ3メートルの前方後円墳で、円筒埴輪や形象埴輪が出土している。後方部が大きくて高い形状から古墳時代後期(6世紀後半)の所産と考えられる。

(写真左側の建物は、酒々井町隣保館)



「墨小盛田古墳」

総合公園建設に伴い確認調査された後に復元整備された。墳丘の形状は、平面が長方形で断面は台形である。周溝を四方に巡らせており、規模は墳丘の長辺30メートル、短辺23メートル、高さ3メートル、周溝は幅2メートル、深さ1.6メートルを測る。築造された年代は出土した須恵器より古墳時代の終末期の7世紀末から8世紀ごろと考えられる。



### 3 古代東海道と文化

#### 『地の利』・『交通の要衝』



#### 印東庄 (いんとうのしょう)

京都の仁和寺成就寺が領主である荘園（私有地）のことで、仁和寺の依頼により菅原定隆が管理していました。

実際に現地で支配していたのは、房総最大の武士団、上総氏の一族**印東氏**です。

#### 印 旆 郡

##### 印西荘

国衙領  
下総国司の管理

##### 印東庄

本家	成就寺領（仁和寺 京都）
預所	菅原定隆（菅原道真の子孫）
庄司	平常澄（武士団 上総氏）

酒々井町の岩橋（石橋）には荻田成家、尾上（小上）には藤原弘里など各村々には古代からの有力者がおり、地区を治めていたことがわかります。

岩橋の長福寺には、このころ造られた「阿弥陀仏坐像」が現在に伝わっています。



## 印東氏（いんとうし）



桓武平氏一族。下総国印旛郡印東荘を領したことから、地名を名字とする。桓武平氏良文（将門の叔父）流。上総権介平常澄の二男、印東次郎常茂（常義）を祖とします。上総広常は常茂の弟にあたります。

鎌倉幕府の御家人として活躍しますが、房総平氏の総領であった上総広常が謀反の疑いで誅されたことにより印東氏の勢力は減退し、代わって千葉氏が房総平氏の総領となり、その被官となることを余儀なくされます。

宝治元（1247）年の宝治合戦では上総千葉氏（千葉秀胤）と共に三浦氏方に与したため、所領の多くを失うこととなります。

その後、北総では印東氏を名乗る一族は見当たらず、印東氏は千葉一族（三谷氏・立沢氏・中沢氏）に吸収されたと考えられます。

また、執権北条氏の家臣（鎌倉幕府官僚）となる印東氏がいます。鎌倉幕府滅亡後は鎌倉公方足利氏と鎌倉府奉公衆里見氏へ仕えたことが記録から伺えます。

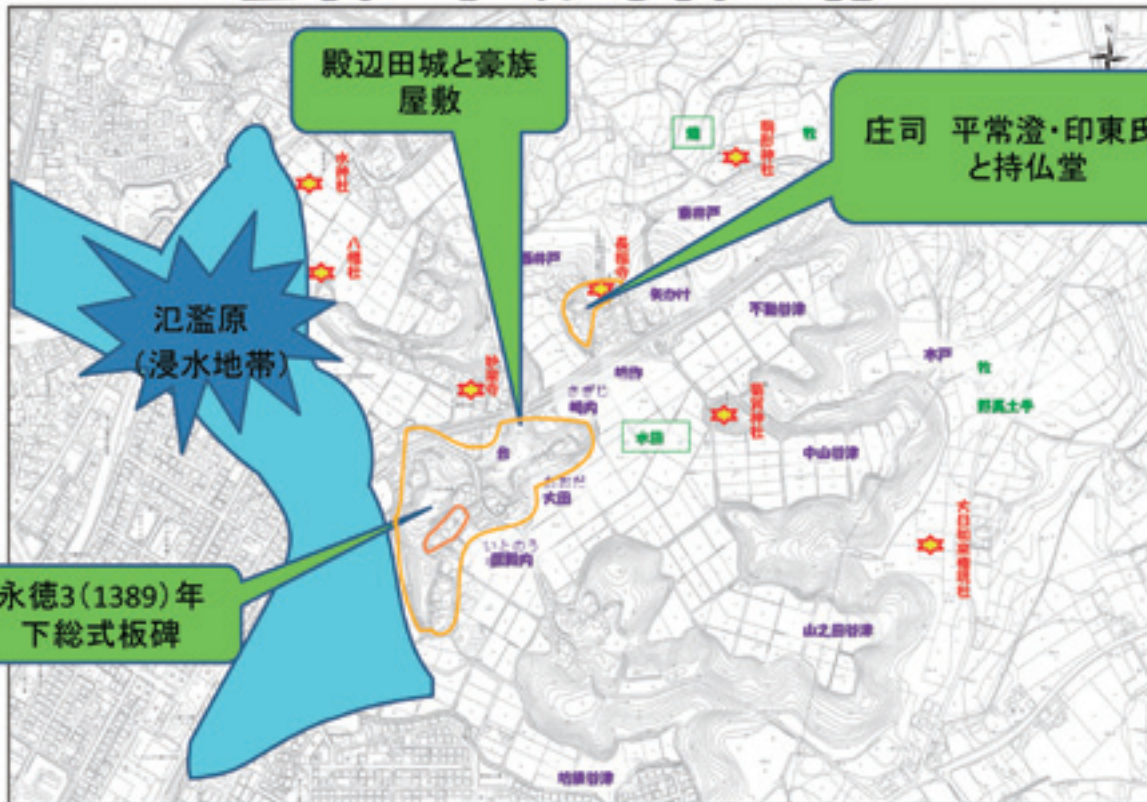
江戸時代には喜連川藩や南部藩、前橋藩（松平家）、佐貫藩、上総久留里藩（黒田家）、薩摩藩（島津家）の藩士として印東氏が見えます。

江戸時代の小説、「南総里見八犬伝」で有名な里見氏の家老印東采女も印東氏の子孫です。





# 古代・平安時代の村



# 殿辺田城と豪族屋敷











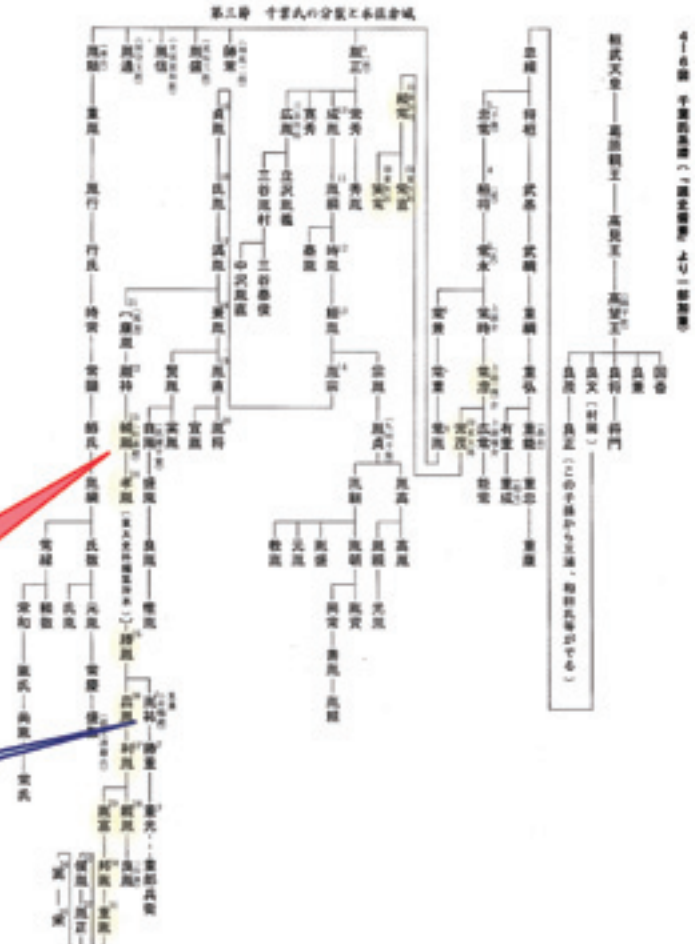
(岩橋殿)

岩橋輔胤

(岩橋殿)

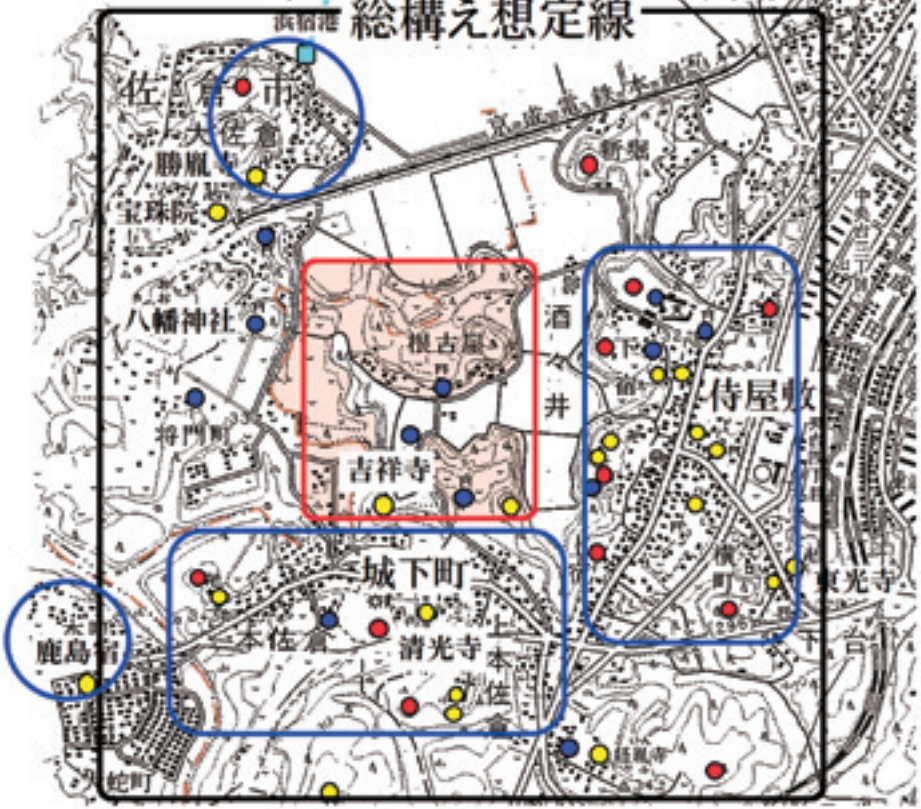
木村加賀守

(勝胤五男)



旧印旛沼

総構え想定線







### ▲茶臼

茶葉を挽いてお抹茶にするものです。茶の湯は当時、客人などをもてなす時にたしなまれていました。



### ▲龍朱印

8代当主邦胤は北条氏政の娘を妻に迎えました。邦胤が使用していた朱印は、後北条氏の影響を受けたと言われています。



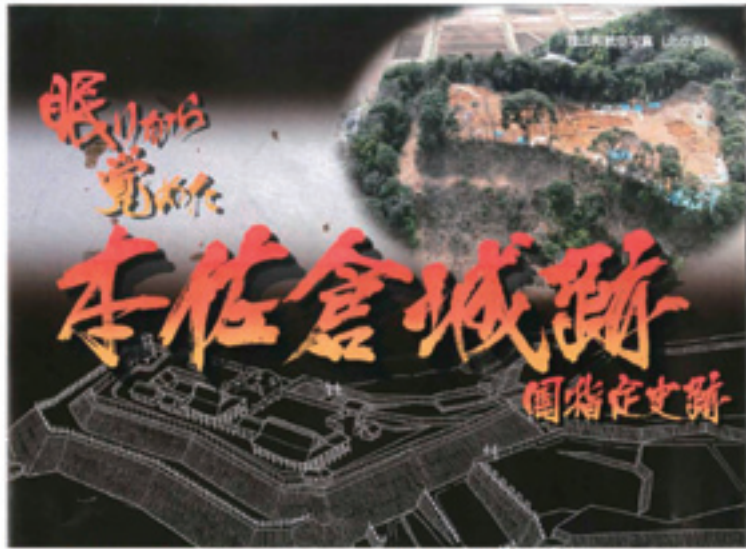
### ◀天目茶碗

瀬戸産の茶碗でお茶道具のひとつです。茶臼で挽いたお抹茶を点てて、このお茶碗で客人をもてなしていたのでしょうか。



### ▲かわらけ

城山郭で最も多く出土する素焼きの土器です。宴会などで使用された食器と言われています。小田原城から出土したものと同じ特徴があります。

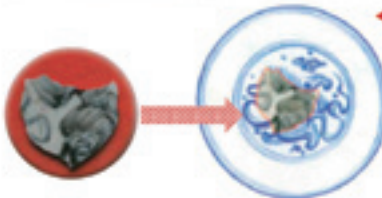


### ▲永楽通宝

戦国時代を通じて使われた代表的なお金です。中国の明から大量に輸入して、日本全国に流通した渡来銭です。

### ◀五取獅子図紋皿

戦国時代に中国で生産され日本へ輸入された陶磁器。見つかったのはちょうど皿の中央に描かれた獅子の顔の部分の破片で、図はその全体像を復元したものです。



国史跡本佐倉城跡



Shisui



重要な文化財として1998年に国の史跡に指定され、さらに2017年には「続日本100名城」にも選定される。





# 千葉氏の滅亡と酒々井



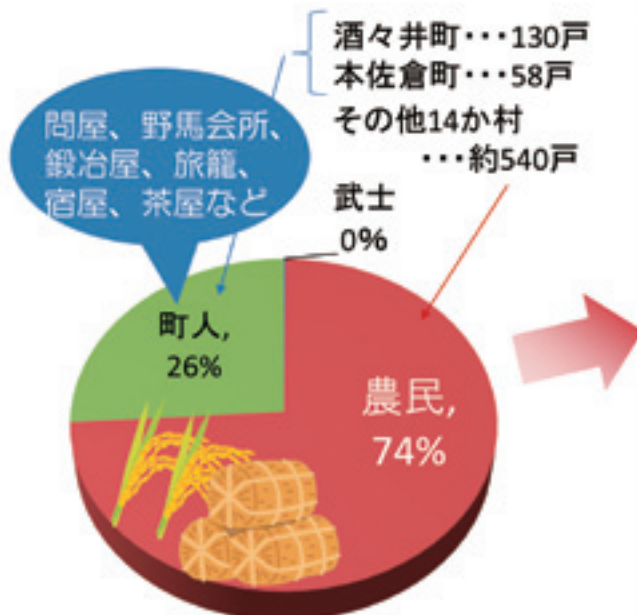
侍屋敷があった酒々井は、上・中・下の宿場へ大改竄が行われました。



これが今の  
上宿・仲宿・下宿

## 江戸時代の 酒々井の民の暮らし

◆千葉氏滅亡後、下級武士層(地侍)は帰農し、近世の町・村を形成



### 農民の自治の仕組み

【地方三役】

- 名主 1人 → 今の町長?
- 組頭 2人
- 百姓代 1人 (百姓の代表)

4人の合議体

※長百姓(名主を務めるなど村の相談役、有力者)を含めると5人

惣領制...男女の別なく最初に生まれた者が家督を相続する。



## 成田街道と酒々井<sup>しゅく</sup>宿

天正19(1591)年に徳川家康によって町割りが行われた酒々井。成田山や宗吾霊堂、芝山不動尊への参詣客の宿場町として、多くの人々にぎわっていました。今でも、町並みに当時の面影が残されています。



中川の景 三代目広重画



酒々井駅の図「成田参詣記」



Shisui

伝  
統  
獅  
子  
舞

町内3地区(上岩橋、馬橋、墨)では、笛や太鼓の音に合わせ、五穀豊穡や家内安全などを祈願して演舞される獅子舞が無形民俗文化財として残されている(墨地区の獅子舞は、県の無形民俗文化財)。

これらは江戸時代から続く「三匹獅子舞」で、それぞれの地区の個性があり、今なお地元の方々により伝承され、「獅子舞の里」の見どころとなっている。

(伊篠・中川・尾上にもあった。)



# 6 酒々井宿と野馬会所・野馬牧

## 千葉氏の野馬牧と徳川幕府野馬会所





# 清光寺



清光寺本堂 天和(1681~1683)年中 佐倉藩主大久保加賀守忠朝が寄進

**名称** きたくさん 亀沢山 孤峰院 清光寺 酒々井町唯一の浄土宗寺院  
**所在** 酒々井町上本佐倉字清光寺作206 本佐倉城の南、総構えに位置する。  
**宗旨** 浄土宗智恩院末  
**本尊** 銅造阿弥陀如来立像及び両脇侍立像

## ポイント

- ・了学和尚(1538-1634)は、徳川家菩提寺、芝増上寺の十七世となる。
- ・徳川家康の父、松平広忠の徳分骨墓がある。
- ・2代将軍徳川秀忠手植えの大イチョウが境内にある。
- ・令和2年、徳川家康や2代将軍徳川秀忠関係の文書が見つかる。

この文章は、『甲寅紀行』の記事を脚色したお話です。『甲寅紀行』とは延宝2(1674)年、水戸藩主水戸光国が祖母と継母の三十三回忌供養のため、水戸から鎌倉に出かけたときの日記です。この中に酒々井宿のことが書かれています。



## 水戸光国と旅

地藏院とは…

地藏院は延命山地蔵院といい酒々井横町の東光寺の下寺でした。江戸時代の絵図には中宿の東に地藏院とあります。

元禄2(1689)年10月19日、名寄帳には「地藏院屋敷」、寛延3(1750)年佐倉藩御用日誌には、野馬奉行「旅宿酒々井地藏院」とありますが、天明6(1786)年以後の野馬奉行の宿は、勝蔵院に替わっています。

おそらくこの間に地藏院は取り壊されたのでしょう。今は小さな地藏堂が建っています。



# 青樹堂

かつて酒々井町に  
実在した寺子屋

**石井平兵衛** 文化3(1806)年～明治11(1878)年

平兵衛は文化3(1806)年7月28日、屋号「常陸屋」という商家に生まれたが、学問好きのため、当時江戸では仕立業をしながら塾を開いていた近江権之丞に師事し、学問と仕立業(足袋、股引など)を習得した後に酒々井に帰り、仕立業のかたわら寺子屋を開いた(「石井家伝」)。

後年、塾生が多くなると宅地内の観乗院(廃寺)跡付近に二階建ての塾舎をつくり、教室として弟子の養成に専念した。塾生は付近町村からの入門者で、延べ300余人に達したという。

明治5(1872)年の入門者は男50人、女30人であった。

小学校児童を対象とした  
土曜日の教育支援

**こども青樹堂**

として復活



近現代～現代～いま

## 7 「日本で一番古い町」のはじまり



当時の印旛郡

明治22(1889)年 4月1日町村制施行

(市=0、町=43、村=315、計358)



## 酒々井の鉄道と駅舎

京成



大正15(1926)年12月 9日  
酒々井駅として開業  
昭和 6(1931)年11月18日  
京成酒々井駅に改称

JR



明治30(1897)年 1月19日  
成田鉄道(私鉄)の酒々井駅として開業  
(写真は国鉄時代の駅舎)

明治二八(一八九五)年か  
ら百二十五年間の時を刻む  
古時計(鉄道工事の責任者  
が宿泊し、そのお礼として  
贈られたと伝わる。)



貨物軌道

## 戦争と酒々井国民学校



昭和8年5月の酒々井小学校正門

校門には衛兵が立ち、校舎の一部も兵舎  
となったため、教室不足となり、経胤寺、東  
光寺を借用し、仮校舎として分散授業を行  
うようになった。

明治41(1908)年酒々井小学校創立

昭和16(1941)年4月

戦時体制が敷かれ、小学校は国民学校  
に改称される。

昭和18(1943)年～

戦局が不利になり、敵軍の本土上陸に  
備え、国土(九十九里浜)防衛のため、  
酒々井国民学校に「第52軍司令部」の本  
部が置かれる。



経胤寺におかれた戦時中の仮校舎



## 戦争の記憶 伊藤に墜落したB29

(昭和20年1月27日)

昭和19年7月、日本は絶対国防圏の要としたマリアナ諸島で大敗北し、これを占領したアメリカ軍は大型爆撃機のB29による日本本土への空襲を開始する。昭和20年1月27日、B29の76機が東京三鷹の中島飛行機武蔵工場を目標にマリアナを出撃した。しかし悪天候により目標を変更。56機が東京市街地を、他の6機が代替目標を爆撃した。午後2時頃、日本橋と銀座に爆弾を集中投下、特に有楽町駅は大型爆弾直撃を受け、地下鉄、ガード下に避難していた市民87名が即死、80名が重傷。葛飾区、江戸川区、王子区などで300人以上が亡くなる大惨事となった。



1月27日夕刻 有楽町駅での負傷者救助の様子



轟島地域に墜落したハレーズ・コメット号の同僚機(手賀沼上空)

東京の中心を襲ったB29の編隊は千葉県船橋方面に向かって帰路についたが、日本軍の対空砲火と航空機により5機が撃墜された。

この撃墜された1機である、機体のニックネーム「Haley's Comet(ハレーズコメット)」は千葉県船橋・八千代市上空で陸軍戦闘機「屠龍」の体当たりを受け機体が損傷、その後は胴体・エンジン付近から炎の尾を引きながら徐々に高度を下げ佐倉町大蛇付近の上空で左主翼が折れ、旋回しながら酒々井町伊藤上空で空中分解、成田線東側一帯(宇白幡)に落下した。



陸軍二式複座戦闘機「屠龍」

茨城県水戸飛行場を飛び立った常陸教導飛行師団第二飛行隊所属の複座戦闘機屠龍(とりゅう)の小林軍曹(20歳、操縦士)と鯉淵兵長(19歳、通信・射撃)はB29爆撃機へ体当たり攻撃後、八千代市神久保(いものくぼ)に墜落。機体と搭乗員1名の遺体が長らく水田の下に眠っていたが、平成8年に発掘され手厚い供養を受け、その機体は、現在航空自衛隊入間基地に保存されている。



想像図(船橋西図書館所蔵)



### 伊篠区の記憶

伊篠上空で空中分解したハレーズコメットの機体は、白幡神社付近を中心に、約500メートルの範囲に散乱し落下した。午後3時半ころ、酒々井小学校に置かれていた陸軍第52軍司令部(九十九里防衛)の部隊が初期の現場警戒にあたる。その後、佐倉の東部64部隊、憲兵隊、警察、警防団が処理にあたった。機体は1昼夜にわたって炎上した。B29の機体とともに墜落した搭乗員は7人、遺体は現場付近で火葬され埋葬された。



また、昭和19年12月末、焼夷弾が新堀に投下され、小屋が焼失！

### 戦争の記憶 上岩橋へ爆弾投下

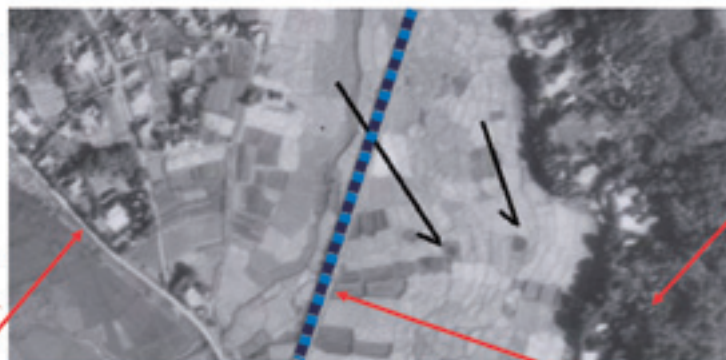
(昭和20年2月19日)

昭和20年2月19日、B29の150機が東京三座の中島飛行機武蔵工場を目標に出撃した。しかし、悪天候により目標を東京葛飾区に変更。午後1時20分、81発の爆弾と1万発を超える焼夷弾が落とされ、24人が死亡。区役所や寺、病院が焼かれ、貨物線は3箇所壊された。区東部の細田では55発の爆弾が投下され、3人が犠牲となる。

同日、B29爆撃機9機が八千代市米本地区を空襲。250kgキロ爆弾約70発を投下、10棟の家が破壊され、疎開していた子どもを含む死者11名を出した。帰還するB29が機体を軽くするために、たまたま通りかかった米本地区に爆弾を投下したのではないかと、言われている。

この日、上岩橋にも爆弾が投下され、母屋一棟及び長屋門が全焼。近隣で倉庫、家畜小屋が火災となる。柏木境の田んぼにも爆弾が投下され、大穴があいた。

柏木地区



上岩橋ヘルシータウン

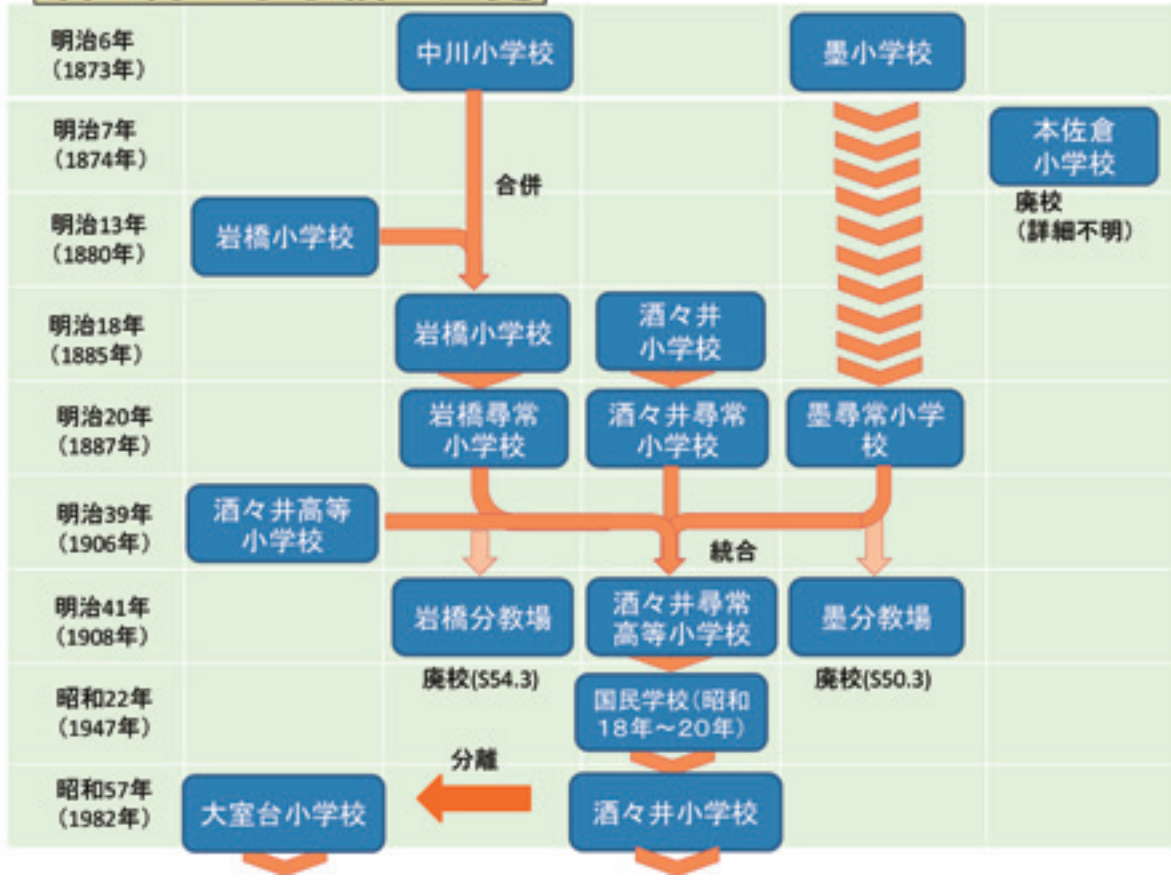
上岩橋 城ノ越地先

京成電鉄線

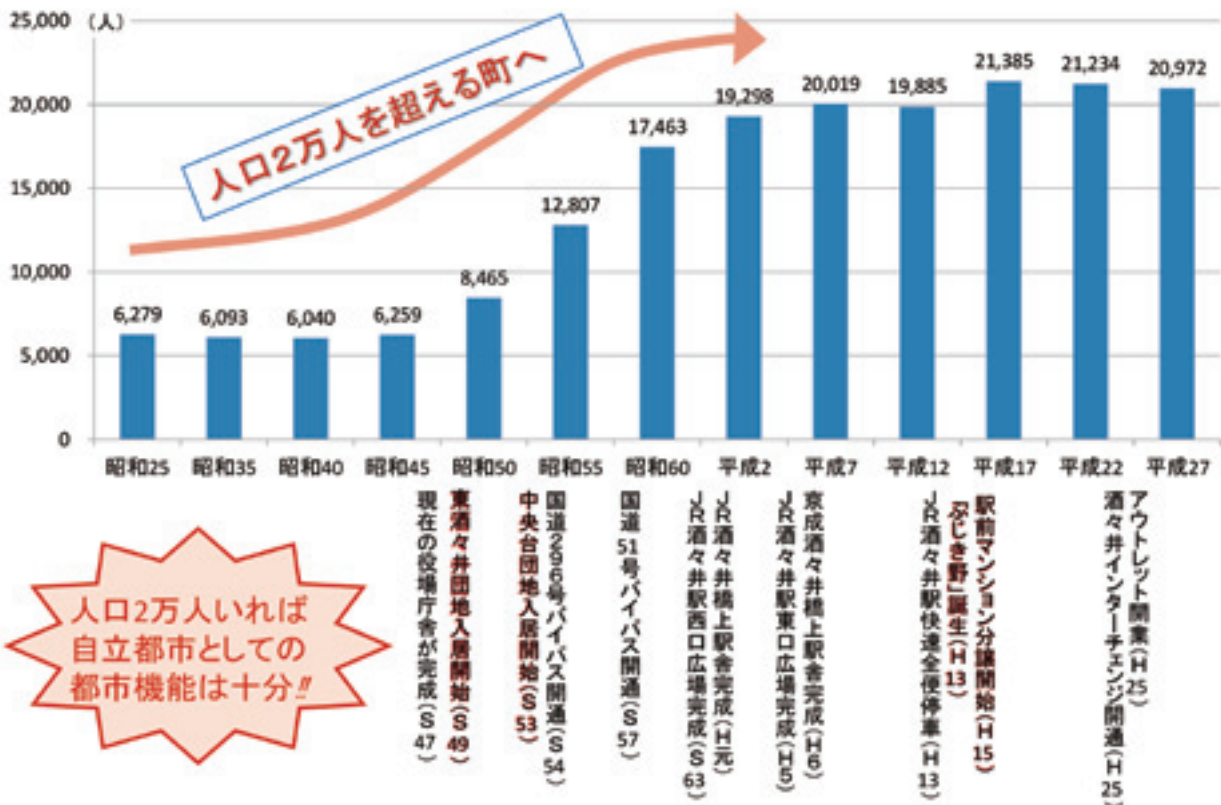
→ 昭和20年3月10日 東京大空襲(無差別攻撃)…死者10万人とも



## 酒々井の小学校の歴史



## 戦後のまちづくり ~農業中心のまちから住宅都市へ





5 町発行リーフレット（墨古沢遺跡・本佐倉城跡・酒々井宿・酒の井の碑等）

広報ニューしすい・議会だより	町政便覧・くらしの便利帳	酒々井ガイドマップ
		
<p>広報ニューしすい 町のくらしに関する情報 議会だより 町議会に関する情報</p>	<p>2019年発行 町の概要や歴史、観光、行政と町民のくらしに関する情報がわかる。</p>	<p>2016年改訂 町の代表的な歴史と文化と自然に関する解説と見学ポイントが地図でわかる。</p>
ことりっぷ	酒々井暮らし	千葉県酒々井町じゃらん
		
<p>2017年発行 町の紹介・行事・観光・グルメ・歴史さんぽ・おみやげ等の情報がわかる。</p>	<p>2017年発行 おでかけ10分の町内の106の店や施設と観光スポットの情報がわかる。</p>	<p>酒々井観光ガイド（グルメ・ショッピング・レジャー・土産）を電車&amp;散策編とクルマ編に分けて紹介している。</p>
酒々井町推奨品	酒々井町郷土史年表	すみふるさわいせき 墨古沢遺跡
		
<p>2017年発行 町内で作っている13品の農産物や代表的な食べ物に関する情報がわかる。</p>	<p>2019年発行 町・県・日本・世界（ドイツのドルフェン市）の年表について比べて見ることができる。</p>	<p>2019年発行 国史跡である約3万4千年前の旧石器時代の遺跡について解説している。</p>



<p>尾上木見津遺跡と二彩椀 <small>にさいわん</small></p>	<p>国指定史跡 本佐倉城跡</p>	<p>国指定史跡 本佐倉城跡</p>
		
<p>奈良時代の尾上で「<small>えん</small>莊園」と呼ばれる農地の開発をしていた土地から出土した遺物について紹介している。</p>	<p>城の構造を鳥かん図の復元画と城郭用語を使って解説し、城の歴史について簡単に解説している。</p>	<p>本佐倉城の歴史（年表）・千葉氏の歩み・城のつくり・城下町・城下のなごりについて解説している。</p>
<p>関東の名族千葉氏</p>	<p>本佐倉城跡散策マップ</p>	<p>眠りから覚めた本佐倉城跡</p>
		
<p>本佐倉城跡はどんな城？という質問に対して、城の始まりから終わりまでの歴史について解説している。</p>	<p>国史跡である本佐倉城跡の守りの構造を知るための20ポイントを散策ルート図と写真で解説している。</p>	<p>本佐倉城の城主がいた場所と考えられる城山の様子を画像上で復元し、建物の配置を示している。</p>
<p>旧酒々井宿を歩く</p>	<p>酒々井町の民家</p>	<p>酒々井の由来 酒の井</p>
		
<p>江戸時代の酒々井を描いた絵図や絵と現在の同じ場所の写真とを見比べて、昔の様子をイメージできる。</p>	<p>現在も残る野馬会所<small>のまかいしょ</small>であった島田家の建物について明治時代の「日本博覧図」の絵を通して解説している。</p>	<p>「酒の井」伝説の紹介と伝説に関する歴史、「酒の井の碑」の板碑<small>いたのい</small>についてくわしく解説している。</p>



国史跡

～日本最大級の環状ブロッック群～

# 墨古沢遺跡

日本人のふるさと 千葉県印旛郡酒々井町の旧石器時代



## 墨古沢遺跡と“日本人”の誕生

墨古沢遺跡に旧石器時代のムラがあった時代は、人類にとって激動の時代でした。気候は寒冷化しながら大きく変動し、海抜は現在よりも80mほど低く、本州・四国・九州は陸でつながり一つの島になりました。北海道も大陸と陸続きになっていました。一方、本州がより陸と陸続きになることはありませんでした。そして、この時代には私たちの祖先ホモ・サピエンスが海を越え日本列島に到来・定着した“日本人”誕生の時代です。ホモ・サピエンスは30万年～20万年前にアフリカで誕生し、8万年～5万年前にアフリカから世界中に拡散して行きます。6万5000年前にオーストラリアへ、4万5000年前にヨーロッパに、日本列島には3万8000年前に朝鮮半島から海を越え到来しました。(なお、ホモ・サピエンスの起源については今日も科学的な研究が続けられており、これらの年代についても今後の研究成果により大きく変わることが予想されます。)



◆お問い合わせ先  
酒々井町教育委員会 生涯学習課  
〒235-0912 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-10-1  
TEL:043-498-5334 (直)

◆発行/酒々井町 2018.3発行 2018.3改訂  
<http://www.town.ihara.chiba.jp/>

墨古沢 遺跡





## 墨古沢遺跡とは

墨古沢遺跡は今から3万4000年前の後期旧石器時代前半期に属する遺跡です。この遺跡は、「石器ブロック」と呼ばれる石器の分布が集中する場所が、円筒状に配置された「竈状ブロック」と呼ばれるもので、円筒部の大きさが南北70m、東西60m、4586点の石器を発見し、未発掘の石器を含めた総数は1万点に迫ると予測される日本最大級の規模を誇ります。図の灰色の丸で示した石器は発掘によりすべて取り上げ、現地に残っています。北側および東側で見つかった赤丸で示した石器はすべて現地に発見時のまま残されており、遺跡の6割強が保存されています。



平成27年度調査航空写真

## 石器ブロック

石器ブロックは旧石器時代の人々の生活の痕跡です。墨古沢遺跡では現在のところ61ヶ所が発見されています。



平成27年度調査発掘出土石器ブロック  
※発見された石器は上のタワーマーの跡に残っています。



平成29年度調査発掘出土石器ブロック

## 様々な地域からもたらされた石材

墨古沢遺跡では広範囲の地域から集まってきた人々により、群馬県産のガラス質黒色安山岩、信州・神津島・栃木県産の黒曜石、東北産の硬質頁岩など様々な地域の石材が持ち込まれています。



墨古沢遺跡出土 黒曜石  
(注：左側は信州・神津島産、右側は栃木県産)

## 石器の接合

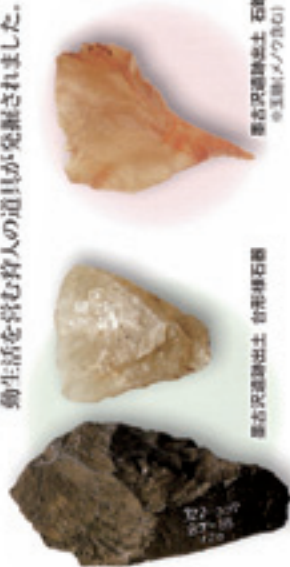
墨古沢遺跡では石器の接合が多く見られ、人々が石材を共有し、石器を一緒に作るなど同時期に共同生活していたことを物語ります。



墨古沢遺跡出土 カラス野黒色安山岩 (見取写真)

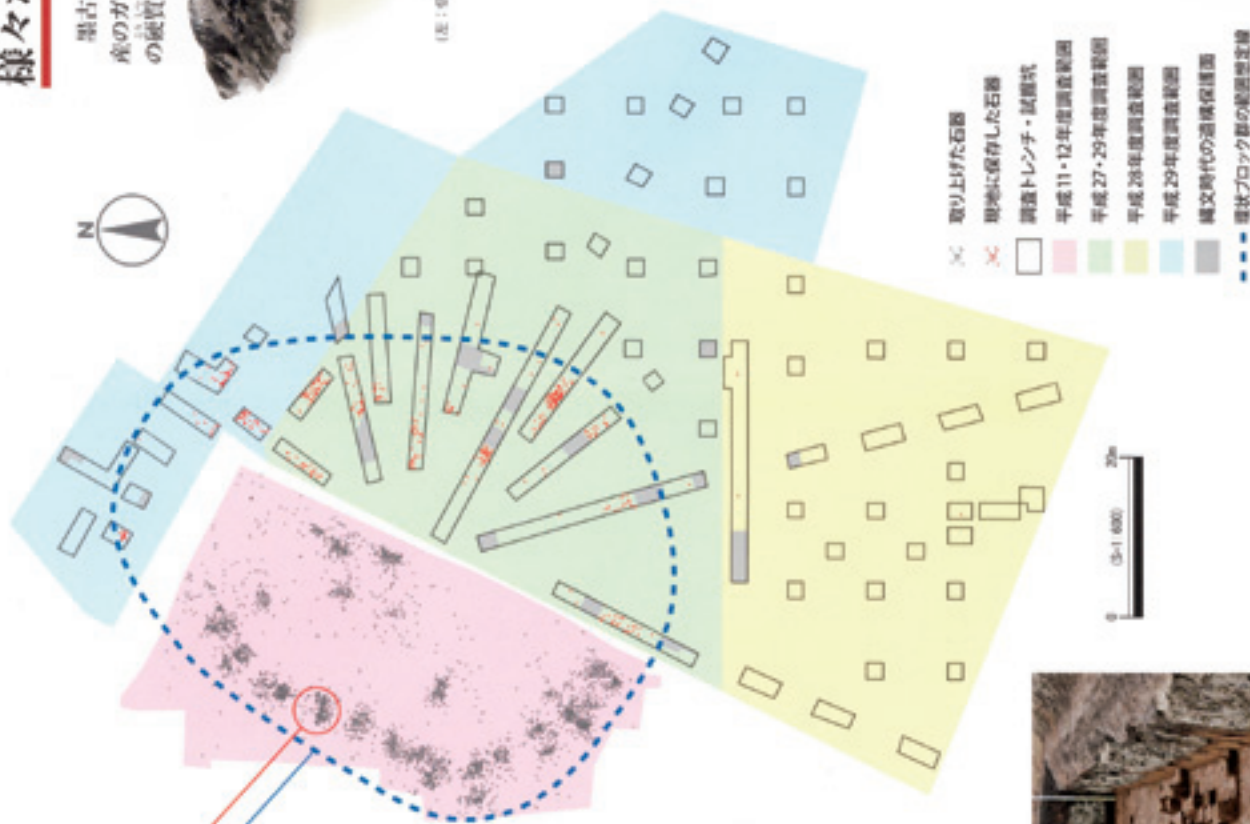
## 狩人の道具

墨古沢遺跡からは、槍の先に使ったナイフ形石器や台形縁石器、毛皮などを加工するための削器や石鏃など、遊動生活を営む狩人の道具が発見されました。



墨古沢遺跡出土 台形縁石器

墨古沢遺跡出土 石鏃  
※玉筋(メノウ)製



## 墨古沢遺跡発見石器分布図



国指定史跡

# 本佐倉城跡



平のなにかしと申たてまつりて  
弓馬の家にすくれ威を入州にふるい  
諸道に達して政を両総におさめ中にも  
大和歌に心をよせて作念と申地にとさきくさ  
のたねをまき給

永正十一年「雲玉和歌集」より



栗上・向根古谷地区は未指定地区

## 国史跡本佐倉城跡案内図

所在 千葉県印旛郡酒々井町本佐倉・佐倉市大佐倉  
交通 京成大佐倉駅 徒歩10分  
京成大佐倉駅 徒歩20分  
JR酒々井駅 徒歩25分

## ●お問い合わせ先

### 酒々井町教育委員会 生涯学習課

〒285-0922  
千葉県印旛郡酒々井町中央台4-10-1  
TEL.043-496-5334

### 佐倉市教育委員会 文化課

〒285-8501  
千葉県佐倉市海濱寺町97  
TEL.043-484-1111

## 飛行 / 酒々井町・佐倉市

<http://www.town.shikura.chiba.jp/>  
<http://www.city.sakura.lg.jp/>









### 千早氏の歩み

尾道が下郡の支配者となった時期は戦国の中であり、頼朝や二代平頼朝は古河公方足利氏と連携して関東管領と杉氏や大田道康、武蔵千早氏と戦いを繰り返していました。居城が母屋敷に置かれた水運交通の要衝である「保倉」に移ると城下に市場や町屋が集められました。千早の子である藤屋の時代(16世紀後半)は軍事の緊張の中で浜田藩風寺などを建立して城下の整備を行うほか小田原らと連歌会を営むなど社会的な発展を遂げていました。弘治元年(1553)までに伝統的領域であった古河公方、管領上杉氏や後北条氏により排除されると後北条氏は千早氏の取り込みを図ります。

弘治三年(1557)に六代城主の藤屋が城の中で暗殺される事件が起きて以降、千早氏は後北条氏の強い影響を受けます。

この中で頼朝を継いだ藤屋は頼朝の支配を併発的に進め、後北条氏とともに上杉謙信、里見氏と戦うなど千早氏の勢力の保持に努めました。天正十三年(1585)に八代城主の藤屋が城内で家臣によって殺されると後北条氏の支配下に置きます。藤屋の子重直は人質として小田原城に送られました。天正十八(1590)年、豊臣秀吉による小田原攻めにより、千早氏は後北条氏とともに滅び、本佐倉城は千早氏の居城としての役割を終えることとなります。



大塚公園説明  
「ふるさと歴史館の館」(国史事変記寺町)  
020-85411500



本佐倉城跡位置図



●お問い合わせ先

酒々井町教育委員会 生涯学習課  
〒285-0922  
千葉県印旛郡酒々井町中央台4-10-1  
TEL.043-496-5334

佐倉市教育委員会 文化課  
〒285-8501  
千葉県佐倉市海岡寺町97  
TEL.043-484-1111

発行/酒々井町

<http://www.town.uhisuul.chiba.jp>



## 本佐倉城跡鳥瞰図(部分)



## 本佐倉城の歴史

本佐倉城は文明年間(1469~1486)に千葉氏の居城として千葉頼通によって築かれた。頼通は享徳三年(1454)に始まる同家の動乱による千葉式内給の中下能守千葉氏の家督を継いだ人物で、千葉氏代々の居城であった「千葉城」が戦場となり荒廃したため、「本佐倉城」を築いて新たな千葉氏の居城とした。以後百余年、天正十八年(1590)に豊臣秀吉により千葉氏が滅ぼされるまで、当主丸代が居城し下能の首領として繁栄した。その保存整備が盛められている。

年号	西暦	本佐倉城跡 略年表
享徳三年	1454	千葉氏内紛により千葉城廃上。直風等多占で居城。
文明年中	1469	本佐倉城を築城。
明高五年	~ 86	平胤、白月城を攻める武蔵千葉、太田道重らと戦う。
永正五年甲寅	1496	佐倉「中城」にて家臣某謀殺される。
天文五年甲申	1546	千葉妙見宮古蹟され、本佐倉城内に妙見宮遷座する。
弘治五年	1557	頼通、本佐倉城を大改修す。直須に静風寺開創。
永禄二年	1573	頼通、城の南に城域を拡大。
天正十八年	1590	頼通、城内妙見宮で暗殺される。頼通が弟出陣。
文禄元年	1592	頼通、城を離れ、家督を継ぐ。
元禄四年	~ 12	直風、後北条氏とともに武田信玄、上杉謙信、平見氏・正木氏等と戦いを繰り返す。
元禄五年	1573	本佐倉城、水原により廃上。直須、城跡遺構を合す。
天正十二年	1585	平胤、城中佐倉にて殺害される。大塚秋吉城跡組。
天正十八年	1590	秀吉、小田原北条氏を攻める。千葉氏小田原へ引兵。
文禄元年	1592	五月本佐倉城降城。七月小田原城降城。千葉式内設置。家康五男、武田信玄佐倉を拝領。神原を構える。

## 本佐倉城のつくり

本佐倉城は内郭、外郭、内郭に何かうと大規模で堅牢な郭。土郭・削石など特徴に配置されており戦いのための城郭であったことが理解できます。過去に実施された歴史文化財調査では多くの建物跡とともに削石・石垣などの中国陶磁器や石石、天目茶碗、銀式用の杯など当時の物語る遺物が多く発見されています。



遺址と奥ノ山(石)



セツナイ山



遺跡地の遺跡(かわらけ)



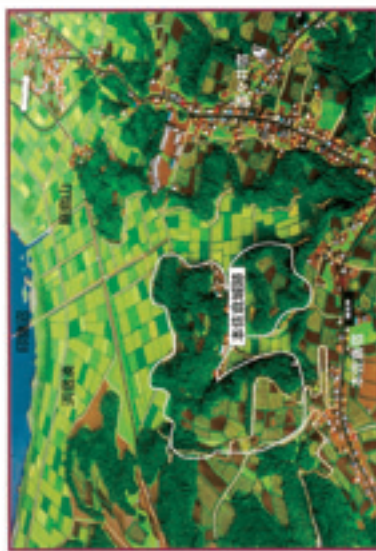
天目茶碗

## 本佐倉城とその城下町

本佐倉城は現在の地名では印巻郡酒々井町本佐倉と佐倉市本佐倉に所在しますが、中世では城の周辺を下能守印巻郡印巻荘佐倉といいました。

城は印巻沼に接する標高約36mの台地に築かれ、その範囲は東西約700m、南北約500m、面積35万平方メートルに及びます。現在に残る城跡は規模の拡大を極めた戦国時代末期の最も発達した有様を伝えています。

城の周囲には、東に「酒々井沼」、南に「本佐倉沼」、西に「龍島沼」、北に「酒巻沼」が所在し城下町を形成していました。周遊でも各所に開帳名所などが伝承されています。



## 城下のなごり

戦国時代本佐倉城下には「市、酒屋」のほか数多くの寺社がありました。新神寺としての真言五ヶ寺(文殊寺、吉祥寺、東光寺、大仏蓮寺、宝珠院)、城主御所の静風寺、妙見寺、家臣所縁の長勝寺などの寺院や千葉氏の氏神である妙見社、赤の神である八咫神社、赤松社、護守である麻賀多神社など寺院が20ヶ寺、神社が17社(合祀社含まず)確認でき戦国時代の城下町の規模を想定することができます。



新神寺(新神宮)



静風寺(妙見宮)



八咫神社(赤の井)



麻賀多神社(龍島沼)



**▲かわらけ**  
城山郭でもっとも多く出土する素焼の土器です。大量に作られ、宴會などで一度に大量に使用し、一回で捨てられた使い捨ての食器といわれます。そのため比較的きれいな状態で出土します。また燗明皿として使われたものもあります。小さいもので径6cm、大きいものは15cm位のものもあります。

**▲常滑壺**  
常滑産（現在の愛知県常滑市一帯）の壺の胴部と口縁部の破片です。壺は水や食料などを備蓄するためのものです。

**▲天目茶碗**  
瀬戸産の茶碗でお茶道具のひとつです。茶臼で挽いたお抹茶を点ててこのお茶碗で客人をちていたのでょうか。

**▲小札（上）**  
鉄の板に2列14孔があいていて、甲冑を作る材料です。

**▲鉄砲玉（下）**  
直径12.3mm、3発玉です。本佐倉城跡は一度も戦いの場にはなりませんでしたが、世は戦国時代、有事への備えは怠ってはいなかったたのでょうか。

**▲永楽通宝**  
戦国時代を通じて使われた代表的なお銭です。中国の明から大量に輸入して、日本全国に流通した渡り来銭です。

**▲磁石**  
建物の柱を建てる時の土台になった石です。写真に写っているすべてが一つの穴から見つかりました。磁石にはつづらと柱を立てた跡が残っているものもあります。これを見ると柱は一辺15～20cmの角柱のようです。また、茶臼も丸山の磁石の破片とともにばらばらになった状態で見つかりました。

**▲瀨戸丸皿**  
瀨戸産（現在の愛知県瀬戸市一帯）の丸皿の破片です。大量に生産され、日本全国に流通した陶器です。美濃の陶器の上につづら色の釉薬がかかったものです。当時の食卓や宴會などで多く使われ、重宝していたのではないでょうか。

**▲瀨戸すり鉢**  
瀨戸産のすり鉢です。壺とともに台所道具のひとつです。現在のすり鉢より目が粗く作られていて、底に近いほうは磨滅して目が無くなっていきます。長く、大事に使われたのでょうか。

**▲貿易陶磁器 染付皿**  
中国や韓国、朝鮮、東南アジアなどで生産され、日本国内に輸入された陶磁器です。これは藍色の染料で描かれた玉取獅子図文皿の破片です。ちよつと皿の内側に描かれた獅子の顔の部分です。

**▲茶臼**  
茶葉を挽いてお抹茶にするものです。茶の湯は当時、客人などをちてなす時にちなまれました。本佐倉城跡の会所や茶室（推定）でも茶の湯が行われていたのでょうか。  
▲この茶臼は上下の面目に目がないタイプのものです。

城山郭跡航空写真（北から）

# 眼から見た本佐倉城跡

## 園指定史跡

### 本佐倉城跡が発掘されました！

発掘調査の中心は須山郭です。本佐倉城跡の十の郭のうち5の1の郭であり、城主のための空間と考えられる重要な郭です。ここでは、その城山郭の発掘調査について速報をお伝えします。

本佐倉城跡は今から約500年前（西暦1470年前後）に造られた中世戦国時代の城跡です。城主は千葉氏一族です。9代（約1470年頃）の城主が本佐倉城跡を本拠地とし、下総国（現在の千葉県北部と茨城県南部）を治めていました。

発掘調査は平成16年から始められ、城山郭からは城主が執務や接待をする空間と考えられる主殿や会所と推測される大形の独立柱建物跡、櫓跡、門跡、塀跡が見つかりました。また、城山郭の入り口部である虎口から建物群が建つ内部まで、郭全体を調査しましたので城山郭の全貌が分かると伺います。

発掘調査の終了後、城山郭は同じく調査の進む東山虎口から城山郭へ至るルートを含めた史跡整備へと移行していく予定です。皆さんも見学される際は、ここにご案内がございましたら、想像しながら歩いてみてください。

園指定史跡 本佐倉城跡 散策マップより既掲載

所在 千葉県市川市須山 散策マップより既掲載  
 交通 千葉駅南口徒歩約20分  
 東山虎口徒歩約10分  
 須山虎口徒歩約10分  
 本佐倉城跡徒歩約10分  
 須山虎口徒歩約10分

お問い合わせ先  
 市川市教育委員会 生涯学習課  
 〒225-0022  
 TEL 043-464-5284（直通）  
 休務所教育委員会 文化課  
 〒225-5503  
 TEL 043-464-6192（直通）

発行 須山町  
<http://www.town.sakurabayashi.jp/>

# 遺物

城山郭から出土した遺物は、ごらんのとおり破片のものが大多数を占めます。本佐倉城が廢城となった時にきれいに持ち去られてしまったのでょうか。



### ③ 城山門跡

門跡と堀跡、木橋方向と城山内部に進入する方向に分かれる通路跡が見つかりました。

参考：埼玉県 鉢形城

### ② 城山虎口

城山に進入するための唯一の出入口施設です。門と堀の跡が見つかっており、門は主柱と控柱が付くものです。

参考：青森県 根城

### ① 大堀切

城山と奥ノ山を分ける堀切です。門と堀の跡が見つかっています。通路は砂で舗装されたものでした。また、大堀切には城山と奥ノ山を行き来する木橋が架かっていたと思われま。

参考：東京都 流山城

### ④ 木橋跡(推定)

城山と奥ノ山を繋ぐ木橋の跡が確認されています。

### ⑤ 主殿跡

城山郭のなかで最も大きな建物です。東西15.14m、南北11.4mの東西棟です。建物東隅から地鎮具と思われるかわらけがみつかっています。

### ⑥ 会所跡

城山郭のなかで最も大きな建物です。東西15.14m、南北11.4mの東西棟です。建物東隅から地鎮具と思われるかわらけがみつかっています。

### ⑦ 庭跡

この庭は園池、築山、景石、砂利などで構成されていたと思われま。園池跡の範囲は砂が張られていました。また、その砂の範囲に沢山の不整形の穴がみつかり、景石の抜き取り跡と推定されています。庭は現在のところ、おそらく水を使わない枯山水式のものだと推測してま。城山は、親しい客人とともに会所から庭を眺めながら夏会をしていたのでし。

### ⑧ 建物4棟

この4棟の建物は主殿や会所に比べて小規模に作られています。会所とは間仕切りの扉によって区別されています。

参考：青森県 根城

### ⑨ 櫓跡

櫓跡 3.9m×3.8m  
柱は一辺3本ずつ、計8本です。  
櫓の周りには扉の柱穴がみつかっています。

参考：愛知県 足助城

### ⑩ 土蔵跡

土蔵跡のほぼ真ん中で、左の写真のように合子状になってみつかりました。

参考：岐阜県 江馬長崎跡



# 張利初台 鉢形城跡 城山郭

◆ 地元参考写真協力：八王子市・寄居町・小淵市・福井市・豊田市各教育委員会・八戸市博物館  
 ＊注意：写真上に表示している本佐倉城跡の復元案は現時点（2012.3.31）での想像図です。今後検討を重ね、変更される場合があります。







# 散策ルート



QR このマークがある見字ポイントにはQRコードが設置されています。

**ポイント5 大堀切**

大堀切は城山と奥ノ山を分ける堀切です。両郭との高低差は6m程あります。スロープを登りきった場所が平らになっていて、門跡が見つっています。

**ポイント6 城山通路**

ここは城山へ登るための唯一の通路です。通路幅は180cm、砂によって舗装されていました。勾配の急な坂道は何度も蛇行して登るのは、敵が攻めてきた時に、登りつらくなる工夫です。

**ポイント4 IV郭虎口**

ここはIV郭虎口です。現道となっている堀虎道を登って行く、上りきった所は堀跡と、堀跡の先には門跡が見つかりました。写真は発掘調査当時のもので、推測で堀と門を復元しています。

**ポイント1 東山虎口と南奥ノ山**

本佐倉城跡の北側(印旛沼側)に広がる東光寺ヒョウを経て、城の玄関口となる東山虎口に至ります。虎口内部の発掘調査では、通路跡や門跡・柵列跡が見つっています。

**ポイント2 東山虎口**

東山虎口は2つの門と蛇行した狭い通路、内折(うちまがり)形の長方形の空間によって、非常に敵重に守られているのが分かります。東山虎口を抜けると左側に東山馬場が広がります。

**ポイント3 ヒューポイント**

ここは遠くには筑波山まで望める、見張りには絶好の場所です。印旛沼は当時、京成線のすぐ北側までできていました。沼から城までの間は湿地になり、敵の侵入を阻んでいました。

**ポイント7 城山虎口**

城山へ入るための出入り口施設です。通路は登り坂、門を入ると目の前は土の壁にぶつかり、直角に左へ曲がります。このように虎口を左折れ虎口といえます。

**ポイント8 城山門跡**

発掘調査により門跡や堀跡、通路跡が見つかりました。この門を入ると、ようやく城山内部へ進入できる最後の門です。ここで来るのにはいつの門をくぐったか覚えていらっしゃいますか？

**ポイント9 城山**

城山郭は城主のための空間です。主殿で来客を迎えたり、会所で昼を賑わしながら、宴会を催したりしていたことでしょう。その他の建物として、台所や倉庫があったと推測されます。

本佐倉城は中世から現代まで、早くからの旅行運動も功をそうし、多くの観光客を迎え、高層の城が築かれ、多岐にわたる歴史を刻みつけました。私達はこれからの財産を守っていくか、それとも、どうぞ、むやみに地形をくずしたり、自生している草花をふんだりせず、マナーを守って保持し、よく歩いていただきますよう、お願いいたします。

**本佐倉城跡内郭群**

荒上 酒の井の畔 酒々井宿 本佐倉宿 佐倉根小屋 吉林寺 神明社 井天社 向根古谷 雙の理 双体連祖神 妙見神社 諏訪神社 禰宮神社

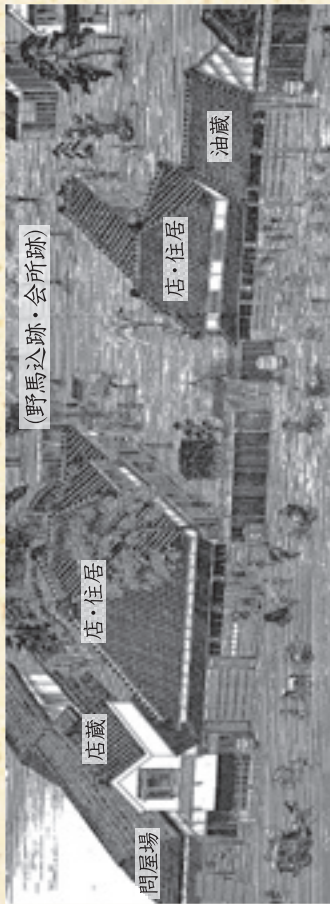


10 酒々井仲宿 島田本家・分家 (酒々井町登録有形文化財)

酒々井宿の歴史的な雰囲気形成する建造物として、酒々井宿の中央、仲宿に島田本家(長右衛門)・分家(政五郎)があります。  
 島田家は江戸時代を通じて幕府野馬(のま)御用を勤める牧士(もくし)の家で、かつては宅地裏に野馬会所(のまかいしよ)と野馬払い場、北隣には問屋場、南隣には野馬会所に勤める家々が続いています。  
 江戸時代の建物は存在していませんが、島田本家・分家は旧宿場の中央に位置する明治時代前期の建物で歴史的な景観を形成する貴重な商家建物であることから酒々井町登録有形文化財となっています。



左 野馬込  
酒々井町村鹿絵図  
右 嶋田長右衛門  
御役屋鋪惣体荒増  
墨引絵図  
島田家文書



島田長右衛門家 島田政五郎家



最寄りの駅(JR酒々井駅 京成酒々井駅)から徒歩10分程度  
 \*旧酒々井宿は東道137号線沿いにあるため車面が多く通行していますので事故等に十分注意してください。  
 制作 酒々井の顔づくり委員会  
 参考 酒々井町HP、酒々井ふるさと歴史読本3  
 問合せ先 酒々井町教育委員会生涯学習課文化財班  
 ☎043-496-5334 E-mail syougaku@town.shisui.chiba.jp  
 平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業)を受けて作成しました。

成田道佐倉城下 旧酒々井宿を歩く



酒々井の地名の由来は「酒の井」、村として中世末に誕生したと伝わり、中世を通じて上総印東氏・千葉氏をはじめとした武士たちが活躍した土地で戦国時代には千葉氏の城下町でした。

酒々井宿は天正19(1591)年に徳川家康の命により千葉氏城下町を再編し宿駅として町づくりが行われ成立しました。

この時期に一里塚(旧成田信用金庫跡)から麻賀多神社まで長さ約750m、幅約150mの区画整理が行われ上宿、中宿、下宿、横町の町割りが設定されました。

江戸初期に「酒々井」にあった佐倉藩の城は鹿島(佐倉市)に移転しますが酒々井宿は佐倉城の城下町として機能しており、江戸中期には芝山街道の三差路から中川境の桜山(梁山)までの街道筋に幕府野馬会所、勝蔵院を中心とした現在の町割りが整いました。明治初期まで戦国時代からの競馬をはじめ、年に三度の祭礼が行われていました。酒々井宿には近隣の人々が大勢集まると伝わっています。

現在、江戸時代の建物は寺院以外には残っていませんが、町割り、寺社、屋敷・屋敷林、石碑などの地域を象徴する建物・構造物が酒々井の町並みに溶け込んでいます。

また明治半ば素封家等を紹介した『日本博覧図』に酒々井宿の助家、島田本家・分家が描かれており、現在でもこの家々は現存し明治時代の町並みの雰囲気が伝わります。

約400年余りにわたる町並みや神社仏閣と街道が一体となる景観が伝わる全国的にも稀な事例となっています。

至 成田

至 佐倉

酒々井町村鹿(七)絵図 (江戸末期)



酒々井の地名由来伝説の地です。正式には「酒々井山円福院神宮寺」といいます。



6 下宿 円福院神宮寺 酒の井

成田の姉不動と呼ばれる勝蔵院の不動明王の像は武田信玄の像と取り違えたとの逸話があります。



5 仲宿 處宝山勝蔵院 不動明王坐像

1 左 新宿 芝山道標  
小さな道標があります。



右 芝山道標

造立者は江戸品川の和国屋、東京駒込の石屋酒井八右衛門。現在、芝山仁王尊へ移設しています。



2 新宿 一里塚

旧成田信金跡佐倉横町札の辻(新町交差点)から一里の場所から一里江戸時代



には塚に芝を植え、榎が植わっていました。(図の左)  
(出典：古今佐倉真佐子)



7 左 下宿 麻賀多神社

酒々井村の鎮守、平安時代中期に建てられました。



8 下がり松(中川台)の眺望  
成田道で一番眺望のよい場所です。

8 下がり松(中川台)の眺望  
成田道で一番眺望のよい場所です。

3 上宿 宿の鎮守 八坂神社

成田参詣記(1858年)の八坂神社  
上宿と仲宿の境にあります、主祭神は須佐之男命(すさのおのみこと)、伊邪那岐命(いざなぎのみこと)、江戸時代までは「天王様」とよばれていました。



明治時代までは大佐倉八幡神社の神輿の御仮屋が高礼場の前に建てられていました。(酒々井町役場入口交差点)



4 下宿 高礼場跡 酒々井町村庭(子)絵図の高礼場



9 左 桜山(通称 菜山)

旧佐倉藩の御林で印旛沼、甚平渡し、筑波山、男体山が一望できます。

右 明治天皇駐蹕碑

この地には明治天皇が4回、ご休息されました。





水戸黄門も眺めた印旛沼の景色

延宝二年（1674年）、水戸光圀は水戸城を出発し房総を経て鎌倉へ向かいました。その途中、酒々井で一泊しています。伊篠、中川を経て宿泊所の酒々井仲宿の地藏院へ向かう途中に印旛沼を臨み、みたと記録には書かれています。



◀イメージ「黄門様印旛沼を眺めるの図」

下がり松にまつわる酒々井むかしばなし「百とらず」昔この場所には二、三の祠があるだけで両側は堤防のような崖で大小の木々がうっそうと茂り、昼なお暗く追いはぎが出たらしいので、人々は恐れて夜に通ることを控えていた。ある夕暮れ時にここを通った村人が道端に百文の銭を見つけたおととしてその方向を見ると首つりの死者が木からぶら下がっていた。村人は驚き我を忘れてしまい、銭を拾うのを忘れて家に戻った。それを聞いた村人たちはこの場所を「百とらず」と呼ぶようになったという。 イメージ「むかしばなし 百とらず」▶



ご注意：「下がり松」印旛沼眺望名勝地には駐車場がありません。ご来訪の際には徒歩でおいでいただけますようお願いいたします。

- ◆所在地：酒々井町酒々井 697-9
- ◆アクセス  
京成酒々井駅より 徒歩10分  
JR酒々井駅より 徒歩15分
- ◆お問合わせ先  
酒々井町教育委員会 生涯学習課  
〒485-0922 千葉県印旛郡酒々井町中央4-10-1  
TEL.043-496-5334 (直)
- ◆発行/酒々井町  
<http://www.town.shizuichiiba.jp/>

下り松の展望  
酒々井町北の方一坂を降り右折すれば下り松と称するところに出づ 地形優雅近く印旛湖を眺み遠く波山の吃立せるを觀四時の展望絶だ佳なり・・・  
天保元年正月村人何某此の地の風景を賞し樹を伐り荆棘を抜き好位置を占して一茶亭を開設し以て衆客の觀光を便す  
『印旛郡誌』大正2（1913）年

# 下がり松

## 印旛沼眺望名勝地





下がり松は酒々井宿の北のはずれにある印旛沼に向かって視界がひらけた眺めのよい場所です。

印旛沼に浮かぶ高瀬舟や漁師の小船、遠くには筑波山まで眺めることができます。

天保元（1830）年正月、村人がこの地の風景をいとおしみ、下がり松周辺を切り開き茶店を開いたことよって、成田山への参詣客などたくさんのお客がこの風景を眺めるのに最適な場所となりました。



▲「下総印旛ぬま」『諸国名所百景』  
歌川広重（2代）元治元年  
【東京都江戸東京博物館所蔵】

▶「中川臺より印旛沼を望むの図」  
『成田参詣記』安政5年  
【佐倉市教育委員会所蔵】

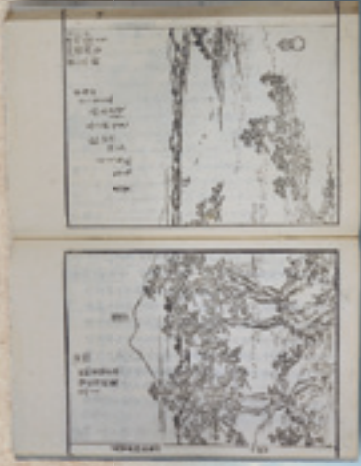


江戸時代に高瀬舟が往来した印旛沼は、ほ場整備により大部分が水田へと姿を変え、当時と比べて水域が大きく減りました。下がり松から眺める景色も変わりましたが、今でも冬の空気の澄んだ日には遠く筑波山が望め、広大なパノラマを展開しています。

下がり松は酒々井でも眺めの良い場所ですが、昔は2つ3つの祠があるだけで、また宿はずれとは神様や妖怪の住む山との境界とされていきましたから、たださみしく恐ろしい場所だったようです。江戸時代の終わりに成田山への参詣者が多く通るようになると、宿はずれも人が住み、怖い場所ではなくなりました。

下がり松からの風景は、酒々井の景勝地として江戸時代の終わりにから明治時代にかけてたくさんの浮世絵や、地誌、紀行文などに描かれました。

その景色はいまでも眺めることができ、酒々井町のビューポイントとなっています。



▲下がり松三山碑  
奥州出羽三山に参詣した記念碑、馬頭観音、庚申塔が祀られている。





## 詳説 「酒の井の碑」



高：94cm 幅：70cm 厚：12cm  
石材：雲母片岩（波石）

種字部 拓木

「酒の井の碑」は、鎌倉時代から室町時代にかけてつくられた下総型板碑と呼ばれる供養塔です。今でも碑面には、真ん中に蓮花の台座と阿弥陀如来を表わす種字（キリーク）が刻まれているのが確認できます。



キリーク 蓮台



## 酒々井の由来

# 酒の井



～ふるさと酒々井の歴史と伝説～



伝説 酒の井(復元)▶



伝承 酒の井から



## 「酒の井」伝説

今は昔、この地に孝行息子が住んでいた。家は貧しく父母は年老いていたが息子は良く両親に尽くしていた。その父親は酒好きであったので、息子は毎日働いて銭を稼いで父に酒を買って帰っていた。息子は酒を父親に飲ませ、父親の満足そううれしそうな顔を見るのが一番の楽しみだった。だが酒を買う銭を稼ぐのは苦勞なことだった。

この地には古い井戸があった。その日、息子は酒を買う銭がつかず、このまま帰れば父親の楽しみを無くしてしまふ、こんな親不孝はない、どうしようかと思案しながら家路を歩いていた。そのとき、あの井戸から酒の香りが「ぶぶん」としてきた。息子は不思議に思いながら井戸の水を汲んでなめてみると、それは上等な酒だった。息子は喜び、急ぎ家に帰って父親に飲ませた。これより先、息子は無理に銭をつくらなくても、井戸から酒を汲んで飲ませるようになったという。この話が近隣に広まると「孝行息子の真心が天に通じたに違いない」ということになった。そしてこの井戸を「酒の井」と呼び、村も「酒々井」と呼ぶようになったという。

出典 印旛郡誌 大正一（一九一三）年

伝説酒の井碑

## 解説

「酒の井」伝説は「孝子酒泉（養老）」伝説と「地名由来」伝説、更に「伝承碑」伝説の三つからなる珍しい伝説です。

印旛沼に面する、この土地は古来より酒き水の井が多く、水量も豊富であったことから「しゆい（出水）」と呼ばれていました。文字には音（おん）が同じ「酒（しゆ）」をあて、吉祥富貴の意味を込めて酒の文字を重ねて「酒酒井（酒々井）」と書きました。

鎌倉時代のおわり、この地を訪れた僧侶から「孝子酒泉」の説話が流布されると、鎮守麻賀多神社の神酒を造っていた酒々井山田福院神宮寺の井戸が酒泉とされ、養老伝説と地名由来からなる「酒の井」伝説が成立しました。

さらに室町時代のはじめに、この寺に覆つた板碑（板石塔婆）が有力者により造立されましたが、豊臣秀吉によりこの地の大名である千葉氏が滅ぶと有力者も絶え、板碑は忘れ去られました。江戸時代となり、寺は小さくなり井戸も埋まりましたが、傍らの板碑がいつしか伝説を記念する「酒の井の碑」であると語られるようになりました。

江戸末期の国学者が古い書物にある酒が涌くという「盃の井」の場所を探したとき、「酒の井」伝説の残る「酒の井の碑」を「盃の井」であるとして書物で紹介しました。

「酒の井」と「酒の井の碑」には長い歴史と成り立ちがあります。

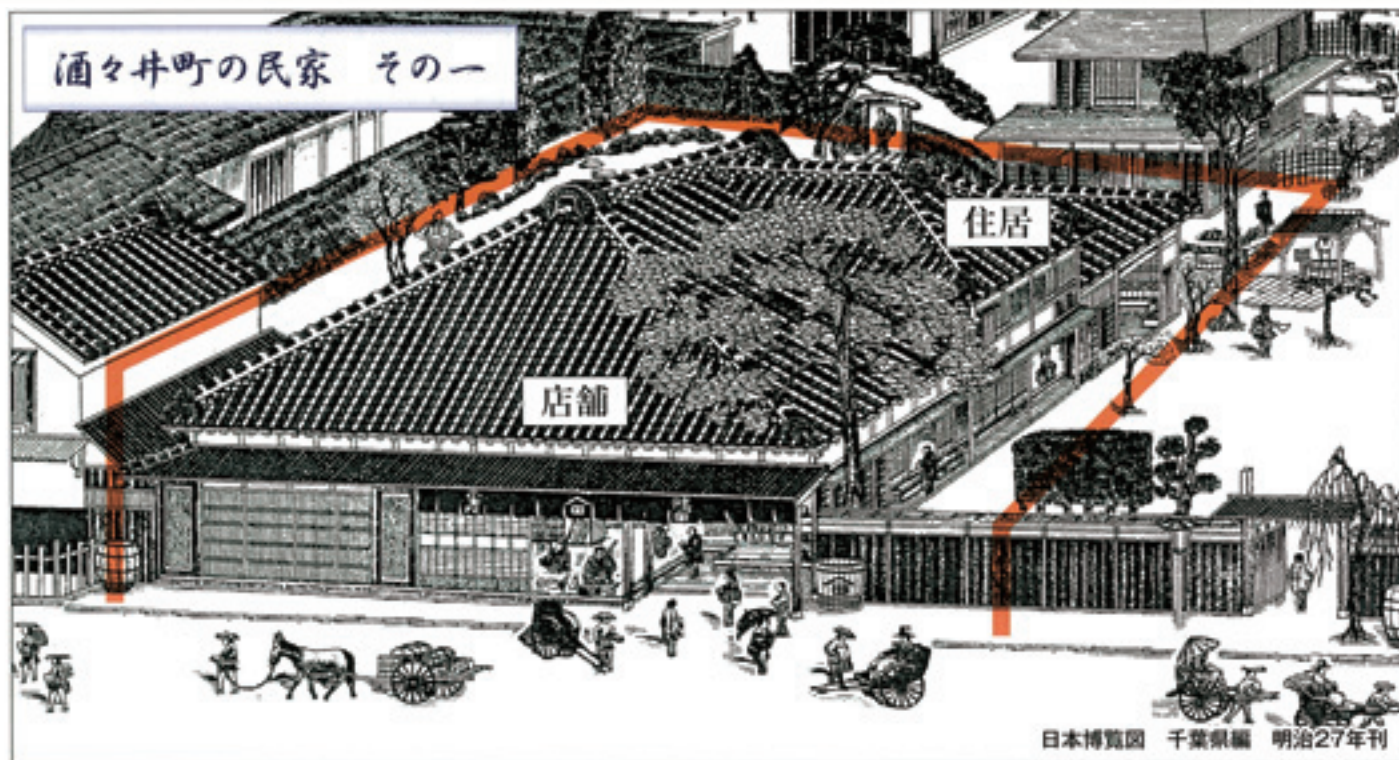
なによりも豊かに清水が湧き出るふるとこの話と親を大切にする孝行息子の話が人々の心に残り語り継がれてきたのです。

「酒の井」所在地 千葉県印旛郡酒々井町酒々井二二七

酒々井町教育委員会  
酒の井の碑広場管理委員会



酒々井町の民家 その一



しすいまちとうろくゆうけいぶんかざい しまだちょうう えもんけ  
酒々井町登録有形文化財 島田長右衛門家

店舗兼住宅一棟 木造一部二階建て 寄棟棧瓦葺 出桁造り

島田長右衛門家は江戸時代を通じて幕府野馬御用を勤めていた家で、かつては宅地裏に野馬会所と野馬払い場が続いていました。

長右衛門家は明治政府になっても野馬御用を勤めていましたが、明治7（1874）年に野馬御用を辞し、呉服・太物・足袋の小売問屋を開業しました。この建物は明治10（1877）年前後に店舗兼住宅として建築されたもので、道路に面する店舗部分は南北棟で住居は店舗と直交する町屋づくりとなっています。建物の建具等に改変が見られますが屋根、軸組、小屋組み、間取りは建築時の意匠を留めています。

明治初期の旧酒々井宿を物語る商家であり、景観に寄与する貴重な建物であることから酒々井町登録有形文化財となっています。

酒々井町教育委員会

見学者の皆様へ

本建物は個人の所有物であり、無断で敷地内・建物内に入ることはいけませんので、ご協力をお願いします。



## 島田家と佐倉牧

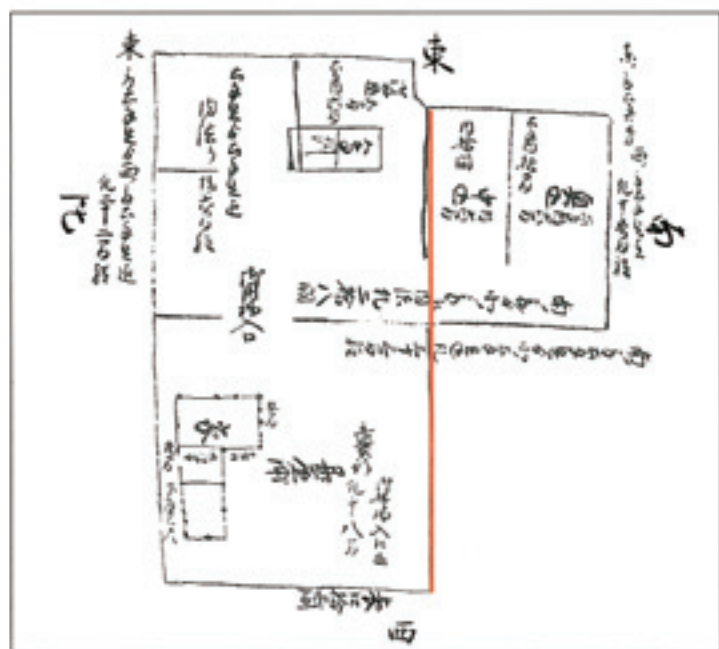
島田家は明治時代の前半に長右衛門家と政五郎家に分かれ商業を営んでいます。島田家は江戸時代を通じて佐倉牧と呼ばれる徳川幕府の野馬会所（管理事務所）の運営にあたる牧士（もくし）の家柄で長右衛門家には数多くの貴重な古文書が伝わっています。

牧士の由緒を物語る古文書には慶長四（1599）年以前から島田長右衛門らが馬牧の管理運営にあっていたことが書かれています。

佐倉牧は南北35km、面積約180km<sup>2</sup>（山手線の内側の約3倍）の広大な土地に野馬が約三千頭おり、毎年、献上馬を除く百数十頭が駄馬や農耕馬として売買されていました。また材木、薪・炭材、山菜や飼料用の草などが野馬会所を通じて払い下げられており、酒々井町の繁栄の基盤となっていました。



島田長右衛門家と政五郎家の敷地は、江戸時代の島田家の屋敷地と野馬御用場・会所敷地を明治七年に払い下げを受けて分割したものです。



左図

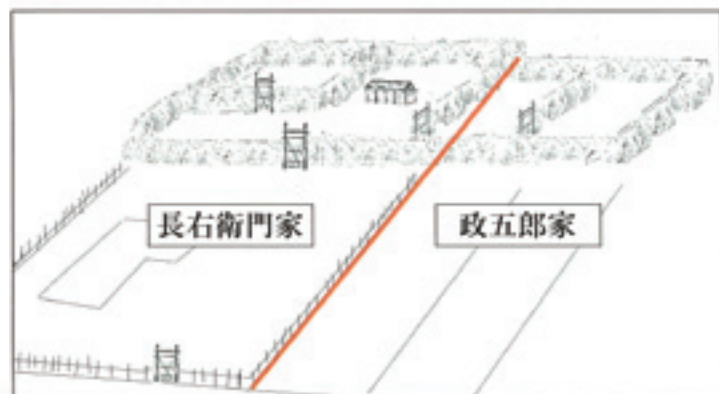
### 島田長右衛門御役屋舗図

間口13間、奥行18間の敷地に106坪の屋敷が建てられ、奥に野馬込めと会所がありました。（酒々井町町史史料集二）

左下図

### 野馬会所・野馬込場想像図

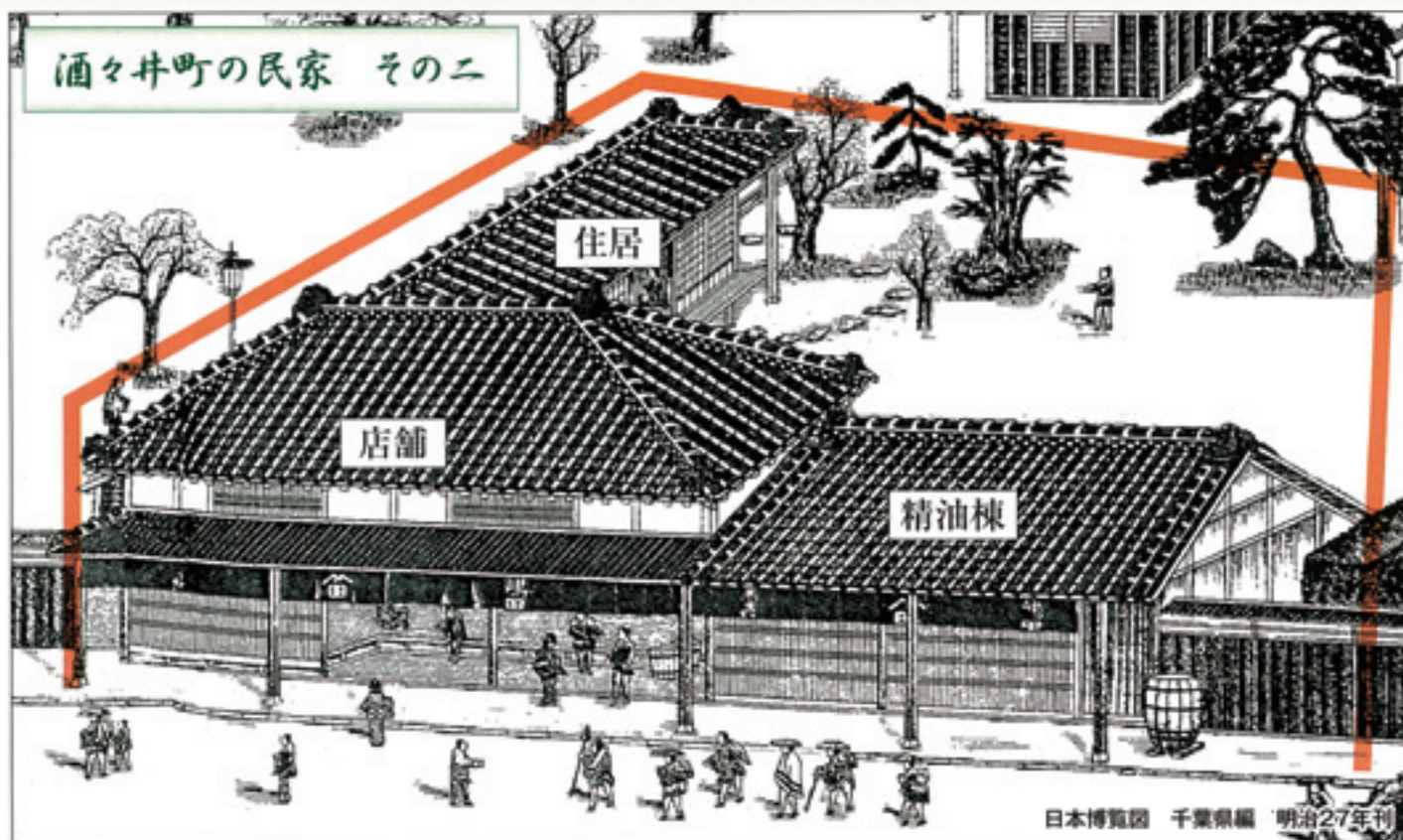
島田長右衛門御役屋舗図を基にした想像図。



### 問い合わせ先

酒々井町教育委員会生涯学習課  
285-0922 酒々井町中央台4-10-1  
TEL.043-496-5334 FAX.043-496-5323  
E-mail syougaku@town.shisui.chiba.jp





しすいまちとうろくゆうけいぶんかざい し ま だ ま さ ご ろ う け  
**酒々井町登録有形文化財 島田政五郎家**

店舗兼住宅一棟 木造店舗部分厨子二階建て 寄棟棧瓦葺 出桁造り

本建物の所在する酒々井地区は、江戸時代に城下町、宿場、野馬会所の地として栄えた場所です。現在では江戸時代の建物は存在していませんが、島田政五郎家は旧宿場の中央に位置している明治時代前期の建物で島田長右衛門家と同様に歴史的な景観を形成する貴重な建物となっています。

島田政五郎家は明治前期に島田長右衛門家から分家し灯油の製造を行っていました。明治26（1893）年に描かれた日本博覧図では、道路に面する店舗は南北棟で住居は店舗と直交する町屋づくりで漆喰塗り込めの防火造りの精油棟を付設しています。現在、住宅・精油棟の内装に改造が見られますが屋根、軸組、小屋組み、間取りは明治前期の意匠を留めています。

明治前期の旧酒々井宿を物語る商家であり、景観に寄与する貴重な建物であることから酒々井町登録有形文化財となっています。

酒々井町教育委員会

**見学者の皆様へ**

本建物は個人の所有物であり、無断で敷地内・建物内に入ることはいけませんので、ご協力をお願いします。



## 酒々井宿の商家

酒々井町は江戸時代初期に佐倉藩がおかれ城下町の中心でしたが、佐倉城が鹿島(現在の佐倉城)に移転した慶長16(1611)年以降は城より一番遠い城下町となります。

新しい佐倉城より一里(約四キロ)にあり、街道の分かれ道で宿場に指定されていたこと、幕府の野馬会所が置かれていたことから独立した町場を成り立たせていました。

現在では宿場の面影は残っていませんが、古い資料からは問屋、宿屋、そば屋、茶屋、豆腐屋、大工、口入屋(職業紹介屋)、馬医がいたこと、伝承からは屋根屋、桶屋、井戸屋、餅屋、足袋屋、煎餅屋、馬鞍屋、馬具屋、甘酒屋、油屋、こんにゃく屋、あんま屋などがあったと伝えられています。また仲町の南側、野馬会所の並びには会所に勤める捕手たちの家々が並んでいました。

これらの家々は街道に沿って短冊形の土地に街並みを形づくっていました。

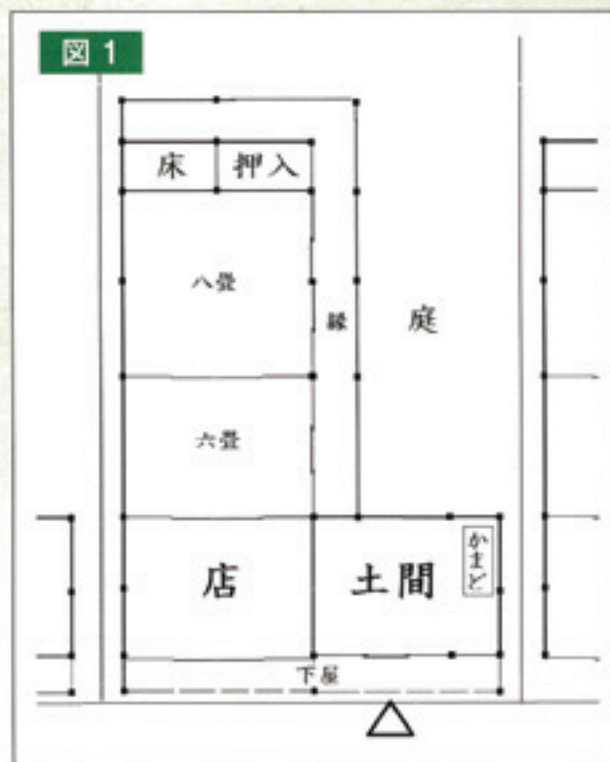


図1 図1は宿の中央にあった間口4.5間の商家の復元図、L字形の家をしており街道に面して平入り棟に店と土間、奥に住居の棟がありました。  
(出典 古写真からの復元)

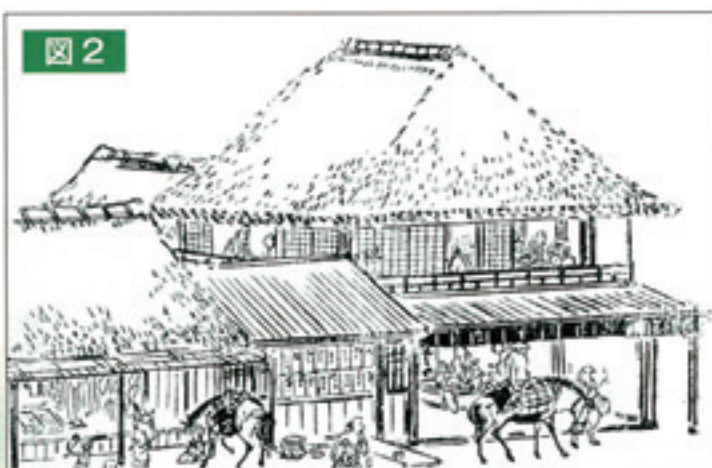


図2 図2は宿の鎮守八坂神社の脇にあった江戸末期の宿屋「中屋」、妻入りの宿屋の奥に住居・台所と考えられる付属の棟が見えます。  
(出典 成田参詣記)



図3 図3は宿の中央、高札場前にあった商家「山屋」、間口9.5間の商家でL字形をしており街道に面して二階建て平入り棟に店と土間、北側に土間・台所・住居の棟がありました。  
(出典 川島俊彦氏所蔵写真)

### 問い合わせ先

酒々井町教育委員会生涯学習課  
285-0922 酒々井町中央台4-10-1  
TEL.043-496-5334 FAX.043-496-5323  
E-mail syougaku@town.shisui.chiba.jp



## 6 里山図鑑

撮影・文 新谷秀一郎氏

酒々井町の里山等で見られる主な生物の画像です。各種の和名と説明文は、図鑑や資料等を基にして、観察調査による生態や印象なども含めて記載しています。

野鳥や一部の昆虫の生息地については、行動範囲が広く近隣の地域も含まれるため、町周辺という表現を使用しています。希少植物は、約11年間の調査データを基に毎年確認して、町内で絶滅が心配される植物については【希少種】、減少し続けている植物については【準希少種】と希少レベルを表記しています。



梅の花とメジロ（酒々井町の木と鳥）

里山図鑑1・2（希少植物：野草1・2）  
里山図鑑3（希少植物：樹木）  
里山図鑑4・5（昆虫：チョウ1・2）  
里山図鑑6（昆虫：トンボ）  
里山図鑑7～9（昆虫：甲虫1～3）  
里山図鑑10（昆虫：カメムシ）  
里山図鑑11（昆虫：セミ・ハゴロモ・ヨコバイ）  
里山図鑑12～14（昆虫：ハチ1～3）  
里山図鑑15・16（昆虫：アブ1・2）

里山図鑑17（昆虫：ハエ・カマキリ）  
里山図鑑18・19（昆虫：バッタ1・2）  
里山図鑑20（昆虫：バッタ3・ナナフシ）  
里山図鑑21・22（昆虫：ガ1・2）  
里山図鑑23（小動物：クモ）  
里山図鑑24～27（鳥類：野鳥1～4）  
里山図鑑28（鳥類：野鳥5・哺乳類）  
里山図鑑29（両生類・爬虫類）  
里山図鑑30（淡水魚・巻貝）



里山図鑑1 (希少植物：野草1)

春	チゴユリ	春	カタクリ	春	イカリソウ
			名の由来は、葉が「ユリ(百合)」に似ていて花が小さく可愛いことから。山地の明るい林内に生育する。町では限られた場所に数株を確認した。【希少種】	名の由来は、「カタカゴ」から「カタコユリ」に、更に「カタクリ(片栗)」に変化。山地の東向き斜面に生える。町では1個所に小群生がある。【準希少種】	名の由来は、花の形を「船の碇」に見立てる。太平洋側山地の落葉樹林内に生育する。町では限られた場所に数株を確認した。【希少種】 薬用植物
春	ニリンソウ	春	フデリンドウ	春	ホタルカズラ
			名の由来は、一株の茎に花が前後して二輪咲く。山麓の林縁に生育する。町では2個所に小群生があるが年々少なくなっている。【準希少種】	名の由来は、蕾(つぼみ)の形が筆の穂先に似る。日当たりのよい山野に生育する。町では限られた場所に小群生がある。【希少種】	名の由来は、花色を「ホタル(蛍)」の光に例える。日当たりのよい丘陵地の斜面に生育する。町では雑木林の急斜面数個所に数株を確認した。【準希少種】
春	ジロボウエングサク	夏	キツネノカミソリ	夏	ヤマホトトギス
			名 of the origin is, children call the flower 「次郎坊」 and play together. Incidentally 「スマレ」 is 「太郎坊」. In town, there are 3 locations where small groups exist, but they are decreasing year by year. 【準希少種】	名の由来は、白く細長い若葉を「キツネ(狐)」に化かされて剃刀(カミソリ)に見える。山野の林縁に生育する。町では1個所に数株を確認した。【希少種】	名の由来は、花模様が同名の鳥「ホトトギス」の翅模様に似る。山野の林内に生育する。町では2個所にあったが、1個所で不明になった。【希少種】



里山図鑑 2 (希少植物：野草 2)

夏	ツリフネソウ	夏	ウツボグサ	夏	ツリガネニンジン
			名の由来は、花を「帆立船」に見立てる。湿地や水辺に生育する。町では1個所に小群生地があるが、年々少なくなっている。【準希少種】	名の由来は、花穂が「弓矢」を入れる「鞆(うつぼ)」を連想。日当たりのよい山野に生育する。町では1個所に小群生がある。【希少種】 薬用植物	名の由来は、花が「釣鐘」形で根が「朝鮮人参」に似る。草原や土堤などに生育する。町では数個所に複数株または小群生がある。【準希少種】 薬用植物
夏	ツルニンジン	夏	チダケサシ	夏	ヤマユリ
			名の由来は、蔓性植物で花が「釣鐘」形で、根が「朝鮮人参」に似る。山野の林縁に生育する。町では数個所に1株から数株を確認した。【希少種】 薬用植物	名の由来は、茎が細く強いので食用茸「チチダケ(乳茸)」を刺して運んだことから。山野の草地などに生育する。町の公園に復活した。【希少種】	「ユリ(百合)」の名の由来は不明。日本の固有種。山地の林縁に生育する。花が目立ち盗掘に遭い易い。町では年々減少している。【希少種】 薬用植物
秋	キバナアキギリ	秋	サラシナショウマ	秋	ヤマトリカブト
			名の由来は、花が「キリ(桐)」に似ていて秋に咲くことから。山地の日陰に生育する。町では限られた場所に複数株を確認した。【希少種】	名の由来は、根は漢方薬の「升麻(しょうま)」。葉を水に晒し菜っ葉のように食した。山地の林縁に生育する。町では数個所に数株を確認した。【希少種】 薬用植物	名の由来は、花が舞楽の冠に似て、主に山地に生育することから。毒にもなるが貴重な薬草になる。町では2個所に数株を確認した。【希少種】 薬用植物



里山図鑑3 (希少植物：樹木)

春	テイカカズラ	春	ハンショウヅル	春	エゴノキ
			漢字名は「定家葛」だが、名の由来は不明。山野の木や岩に絡みつき生育する蔓性常緑樹である。花は風車のような形状である。町の里山にはやや多い。		
名の由来は、花が火事などを知らせた「半鐘」形で蔓性の低木である。山地の林縁に生育する。町では限られた場所に1株のみ確認した。【希少種】			名の由来は、果実が <u>えぐい</u> 味。山野の雑木林内に生育する。昔は果実を「お手玉」や「麻醉剤」に、枝は粘り強く「箆」などの生活用具に利用された。【希少種】		
春	ウグイスカグラ	夏	センニンソウ	夏	ネムノキ
			名の由来は、果実が甘く、「ウグイス」などが食べに来る「狩座(かりざ)」が訛った。町では日当たりのよい雑木林で限られた場所に少数生育する。【希少種】		
名の由来は、果実に毛が有り仙人の髭を連想させる。日当たりのよい林縁に生育する蔓性低木。有毒なので注意を要する。町では数個所で見られる。【準希少種】			名の由来は、夕方に葉をたたみ眠ったように見える。日当たりのよい山野や川岸に生育する。花は糸束のようだが豆の仲間。町の里山に1株を確認した。【希少種】		
花期 夏	ヤマブドウの実	花期 夏	クサギの実	花期 秋	クコの実
			名の由来は、山に生える「ブドウ(葡萄)」。山野の林縁に生育する。淡黄緑色の小さな花を多数つける。果実は食用や薬用、蔓は「箆」などに利用されている。【希少種】		
名の由来は、葉や枝を切ると強い臭いがする。山野の林縁に生育する。風車のような白い5弁の花を多数つける。果実は美しく勲章のように見える。【希少種】			名の由来は不明。日当たりの良い山野や河原などに生育する。5裂の白色から紫色の花を多数つける。果実は甘く、食用や薬用として利用されている。【希少種】		



里山図鑑4 (昆虫：チョウ1)

4～ 12月	アサギマダラ (♀)	6～ 7月	オオムラサキ(♂) <b>【国蝶】</b>	6～ 12月	ルリタテハ
			マダラチョウの仲間。春に沖縄で生まれ、数回世代交代しながら東北地方から北海道まで北上し、秋の終わり頃一気に沖縄をめざして南下する。	タテハチョウの仲間。国の準絶滅危惧種であり、簡単に見ることができない。町周辺では11年前に「房総風土記の丘」で一度だけ出会えた。	タテハチョウの仲間。平地の森林周辺で生活する。この仲間は樹液を好み、飛ぶのが早い。町でも里山を素早く飛び廻っている。
5～ 10月	アカタテハ	5～ 8月	コムラサキ (♂)	5～ 11月	キタテハ (夏型)
			タテハチョウの仲間。山地から平地の人家近くでも見られる。樹液の他に花蜜も好み、町中でも見ることが多い。湿った土や砂利から吸水する。	タテハチョウの仲間。幼虫は「ヤナギ (楊)」の葉を食べるので、蝶は河川周辺に多い。町では「クヌギ (櫟)」や「コナラ (小楮)」の樹液に集まる。	タテハチョウの仲間。翅表に黒斑があるが、翅裏の模様が「ヒョウモンチョウ」とは異なる。この種の中では最も個体数が多く、どこでも見られる。
6～ 10月	ミドリヒョウモン	5～ 9月	イチモンジチョウ (♀)	3～ 5月	ツマキチョウ (♂)
			タテハチョウの仲間。翅に動物の「ヒョウ (豹)」のような黒斑があるので、この仲間は「ヒョウモンチョウ」とも呼ばれる。幼虫は「スマレ」類の葉を食べる。	タテハチョウの仲間。低山の広葉樹林や草原に生息する。成蝶は花の蜜や腐った果汁を好む。翅裏は赤白模様のコントラストが美しい。	シロチョウの仲間。里山の林縁や溪流沿いの開けた場所に生息する。初春に発生し産卵、蛹で夏から冬を越す。全国的に個体数は少ない。



里山図鑑5 (昆虫：チョウ2)

4～ 8月	ジャコウアゲハ (♀)	4～ 10月	ナガサキアゲハ (♀)	4～ 9月	カラスアゲハ (♂)
					
アゲハチョウの仲間。幼虫は天敵から身を守るために、毒草「ウマノスズクサ」の葉を食べて体内に毒を蓄える。成蝶になっても毒は残っている。		アゲハチョウの仲間。幼虫は「ミカン」類の葉を食べるので、その周りで生活する。日本では沖繩の「オオゴマダラ」の次に大きな蝶である。		アゲハチョウの仲間。翅色は黒く見えるが、雄は明るい場所では艶のある美しい青色に変化する。この個体は老齢で尾状突起を失っている。	
6～ 12月	ムラサキシジミ (♂)	6～ 12月	ウラギンシジミ (♂)	5～ 12月	ゴイシシジミ
					
シジミチョウの仲間。平地の林や林縁で見られる。成虫は何を食べて生きているのか不明。翅の青紫色は雄の方が多い。雌雄共に翅裏は茶色である。		シジミチョウの仲間。山麓や里山などで見られる。雌の翅表は赤い部分が白色になる。雌雄共に翅裏の全てが白色である。		シジミチョウの仲間。山地から平地の笹藪などで見られる。幼虫は肉食で「タケツノアブラムシ」を食べ、成虫は同虫の出す汁を餌とする。	
7～ 8月	ジャノメチョウ (♀)	5～ 9月	ナミヒカゲ (♀)	4～ 8月	ギンイチモンジセセリ (♂)
					
ジャノメチョウの仲間。明るい草原の林縁や道端などをゆっくり飛んでいる。翅模様は「ヘビ(蛇)」の目に似て、天敵を驚かせて身を守るのに役立つ。		ジャノメチョウの仲間。名の由来は、普通の「日陰蝶」という意味。薄暗い林中に生息し見つけ難いが、木漏れ日で日光浴する時がチャンスである。		セセリチョウの仲間。草原や河川敷などの限られた場所で見られる。全国的に個体数が少なく、国の準絶滅危惧種に指定されている。	



里山図鑑6 (昆虫：トンボ)

6～ 9月	チョウトンボ (♂)	5～ 9月	ハラビロトンボ (♀)	6～ 9月	コシアキトンボ (♂)
					
トンボ (科) の仲間。植生が豊かな池沼に生息する。後翅が大きく「チョウ」のように飛ぶ。翅には艶があり、雌は黒褐色。千葉県準絶滅危惧種である。	トンボ (科) の仲間。池や湿地周りの背丈の低い草むらに生息する。腹部が広い。雄は黒色で腹部は青白い粉で覆われる。千葉県の絶滅危惧種である。	トンボ (科) の仲間。池沼の周りに生息し、雄は縄張りをつくる。腹部に白色 (雌は黄色) の帯模様があり、腰が開いているように見える。			
6～ 11月	マイコアカネ (♂)	6～ 10月	オニヤンマ (♂)	4～ 10月	ギンヤンマ (♂)
					
トンボ (科) の仲間。植生が豊かな池沼の湿地帯に生息する「アカトンボ」の一種。秋に雄の腹部は真っ赤になるが雌は背中の一部だけが赤くなる。	オニヤンマの仲間は、この一種のみで、日本の「トンボ」では最大である。水の綺麗な小川沿いの森林に生息する。前翅と後翅を交互に使い自由自在に飛ぶ。	ヤンマの仲間。湖沼や池、水田の水域に生育する。飛翔能力は抜群で、「トンボ」の仲間では最速である。幼少の頃は一度も捕獲できなかった。			
5～ 6月	ヤマサナエ (♀)	6～ 9月	ウチワヤンマ (♀)	4～ 9月	アサヒナカワトンボ (♂)
					
サナエトンボの仲間。平地から低山地の流れのある小川の水域に生息する。町では田の湧水路の周りで見られるが、個体数は極めて少ない。	サナエトンボの仲間。平地から丘陵地の池沼や湖の周りに生息する。雌の腹部は太く、先端の団扇状突起は小さい。杭頭に水平に留まる。	カワイトンボの仲間。平地や丘陵地の水生植物の豊かな清流に生息する。国の絶滅危惧地域個体群に指定されている。町でも見られることに感動した。			



里山図鑑7 (昆虫：甲虫1)

6～ 8月	ミヤマクワガタ (♀)	5～ 8月	コクワガタ (♂)	5～ 8月	カブトムシ (♂)
					
<p>クワガタムシの仲間。ほぼ日本全土に生息していたが激減している。町では5年前に見たのが最後で、今その場所は病院の駐車場となっている。</p>		<p>クワガタムシの仲間。ほぼ日本全土の「クヌギ」や「コナラ」の木がある場所に生息する。この仲間は自然環境悪化度を知るための指標になる。</p>		<p>コガネムシの仲間では最大である。雄は立派な角を持つ。昼は樹木の根の枯葉や腐植土の下で休み、夕方から樹液を求めて採餌活動を始める。</p>	
5～ 8月	コガネムシ	6～ 8月	カナブン	7～ 8月	クロカナブン
					
<p>コガネムシの代表格。成虫は「サクラ」や「クヌギ」などの葉を食べる。昔は童謡にも歌われた。町でも普通に見られたはずだが、今は絶滅寸前である。</p>		<p>コガネムシの仲間。雑木林の中やその周りで生活する。「コガネムシ (黄金虫)」類と違って硬質の前翅を立てずに後翅を脇から出して飛ぶ。樹液を好む。</p>		<p>コガネムシの仲間。「カナブン (金蚕)」との見た目の違いは、体が真っ黒の他に胴長で扁平に見える。「クヌギ」や「コナラ」の樹液を好むのは同じである。</p>	
6～ 8月	コフキコガネ	5～ 9月	シロテンハナムグリ	4～ 11月	シラホシハナムグリ
					
<p>コガネムシの仲間。大型で前翅に細かい黄灰色の毛が密集している。木の幹に留まっていることが多く、樹皮の色に溶け込んで見つけ難い。</p>		<p>コガネムシの仲間。雑木林やその周辺で見られる。「クヌギ」や「コナラ」の樹液と果汁や花蜜を好む。名の由来は花に潜って蜜を吸うことから。</p>		<p>コガネムシの仲間。「シロテンハナムグリ」とは白点の位置や形、数が異なる。食べ物は樹液のみである。飛び方は「カナブン」と同じである。</p>	



里山図鑑8 (昆虫：甲虫2)

6～ 8月	アオドウガネ	6～ 8月	ウスバカミキリ	5～ 11月	クロカミキリ
					
<p>コガネムシの仲間。中部地方以西に生息していたが、気候温暖化で関東地方にも進出している。多種の植物を食害する。緑青色から銅色と変化が多い。</p>		<p>カミキリムシの仲間。大型種。夜行性で日中に見られる機会は極めて少ない。「クヌギ」や「コナラ」の樹液に集まる。</p>		<p>カミキリムシの仲間。大型種。「マツ」などの針葉樹に集まる。夜行性であるが森林内では日中でも活動する。「クワガタムシ」のような大顎を持つ。</p>	
5～ 9月	ノコギリカミキリ	6～ 8月	ゴマダラカミキリ	5～ 8月	ホシベニカミキリ
					
<p>カミキリムシの仲間。大型種。夜行性であるが森林内では日中でも活動する。がっしりした体は力が強そうだ。「クヌギ」や「コナラ」の樹液を好む。</p>		<p>カミキリムシの仲間。中型種。体中に白い斑紋があり、美しいので子ども達に人気がある。果汁を好み、特に「イチジク（無花果）」の果実に集まる。</p>		<p>カミキリムシの仲間。中型種。「ベニカミキリ」と混同されるが前翅に黒い斑紋が複数ある。「タブノキ」の葉や枝を食べる。町で見る機会は少ない。</p>	
4～ 10月	オオヒラタシデムシ	4～ 10月	エゾカタビロオサムシ	4～ 10月	ナガヒョウタンゴムシ
					
<p>シデムシの代表格。「シデムシ」の漢字名は「死出虫」。小動物の死骸に集まってくる。イメージは悪いが、いなければ地上は生き物の死体だらけになる。</p>		<p>オサムシの仲間。「オサムシ」の漢字名は「歩行虫」。この仲間は小動物の死骸などを食べ、自然の掃除屋と呼ばれている。</p>		<p>オサムシの仲間。胸と腹の接続部がくびれて「瓢箪」のように見える。地面を這い回り、小動物の死骸を食べるので、翅は退化して飛べない。</p>	



里山図鑑9 (昆虫：甲虫3 △危険種)

4～ 8月	シモフリコメツキ	5～ 7月	シロコブゾウムシ	6～ 8月	アオゾウムシ
			<p>コメツキムシの仲間。「コメツキ」の漢字名は「叩頭虫」。敵に襲われると胸と腹の間接をパチンという音とともに弾けさせ、飛び上がりながら草むらに転げ落ちる。</p> <p>ゾウムシの仲間。「ゾウムシ」の漢字名は「象虫」。動物の「ゾウ」に似て鼻が長い。初めて出会ったとき、自然は奇妙な生き物を創造すると思った。</p> <p>ゾウムシの仲間。夜行性で日中は葉の陰で休んでいる。触ると死んだふりをして草むらに転げ落ちる。「ミズナラ」などの葉を食べる。</p>		
6～ 9月	ヤマトタマムシ	6～ 8月	ウバタマムシ	5～ 8月	△ マメハンミョウ
			<p>タマムシ（玉虫）の仲間。体全体に金属光沢があり虹色に光る。前翅は奈良「法隆寺」の国宝「玉虫厨子」の装飾に使用されている。</p> <p>タマムシの仲間。「マツ」類の葉を食べるので、この木の幹にいることが多い。樹皮の色模様に同化して見つけにくい。</p> <p>ハンミョウの仲間。捕まえてみたくするような甲虫だが、体内に猛毒をもっているため素手で触れないように要注意である。農野菜を食べる害虫でもある。</p>		
5～ 8月	キンボシハネカクシ	5～ 8月	マルガタゲンゴロウ	3～ 11月	コガムシ
			<p>ハネカクシの仲間。前翅は小さく後翅は折畳み式で、翅を隠しているように見える。斑紋のような物は金色の毛束である。成虫は生物の死骸を食べる。</p> <p>ゲンゴロウの仲間。水生の甲虫。以前は田圃などにたくさんいたが、今は見つけることが難しい。腹部下に空気を貯めて潜水する。水草を食べる。</p> <p>ガムシの仲間。水生の甲虫。水田などでよく見られたが、今は殆ど出会えない。腹部下に空気層を作り長時間水中活動する。水草を食べる。</p>		



里山図鑑10 (昆虫：カメムシ △危険種)

6～ 8月	アカスジキンカメムシ	6～ 8月	アカスジカメムシ	3-5・ 8-10月	クサギカメムシ
					
<p>先の尖った鋭い口器を持ち、植物に突き刺して多種樹木の汁を吸うが、害虫扱いはされていない。美しいので郵便記念切手の絵柄にもなった。</p>		<p>植物の花蜜や種子の汁を吸うが、農作物を食害したという情報はなく、悪臭も出さないようである。黒と赤の縞模様が美しい。</p>		<p>多種樹木の汁を吸う他、果実や豆類などの農作物を食害する。越冬時に人家に入り込み、悪臭を放つので衛生害虫にもされている。</p>	
5～ 10月	エサキモンカメムシ	4～ 10月	ナガメ	4～ 10月	ノコギリカメムシ
					
<p>両肩が棘状に突き出し、背中に黄色のハート形紋様がある。農作物への食害はないが、触れると強烈な悪臭を放つので衛生害虫にされている。</p>		<p>幼虫・成虫とも「アブラナ」科植物を好む農作物の害虫である。集団で生活するが、成虫になるまでに鳥などの天敵に食べられるために激減する。</p>		<p>幼虫・成虫とも「ウリ」科植物を食害する農作物の害虫である。一見、姿はグロテスクに見えるが、やや艶のある色模様が工芸品のようでもある。</p>	
4～ 10月	マルカメムシ	5～ 10月	△ クモヘリカメムシ	5～ 9月	△ ヨコズナサシガメ
					
<p>体長5～5.5mmの小さな「カメムシ(亀虫)」。「マメ」科植物を好むが農作物の被害は少ない。越冬の頃に人家の周りに集まり悪臭を放つ、衛生害虫である。</p>		<p>体長15～17mmの細長い体形。「イネ」科植物を好み「イネ(稲)」の害虫として知られている。人が刺されたという情報はないが、毒液に要注意である。</p>		<p>カメムシの仲間。幼虫、成虫ともに他の昆虫の体液を吸う。体は小さな怪物を連想させる。鋭い口器と毒液を持ち、刺されると激痛に苦しむ。</p>	



里山図鑑11 (昆虫：セミ・ハゴロモ・ヨコバイ)

6～ 8月	ニイニイゼミ	6～ 8月	アブラゼミ	7～ 9月	ミンミンゼミ
					
<p>「セミ (蟬)」は「カメムシ」の仲間である。先の尖った長い口器を木に突き刺して樹液を吸う。町では最も早く発生する種であるが、今は少なくなった。</p>		<p>「ニイニイゼミ」より遅れて発生する。長い口吻で刺されたら、かなり痛いと思われるが体験したことはない。町では最も多く見られる。</p>		<p>関東地方は平地にいるが、関西地方では山地でないと見られない。高い樹木に留まるので、幼少の頃は捕まえることができないで「憧れの虫」だった。</p>	
7～ 10月	ツクツクボウシ	6～ 8月	ヒグラシ	8月	ヒグラシの羽化直後
					
<p>「ヒグラシ」に似ているが、胸の上部に緑色のW字形模様がある。「ツクツクホーシ」と鳴くのでこの名がついた。夏の終わりに多く、秋の訪れを告げる。</p>		<p>夏の夕暮れ、森の中で甲高くもの悲しい声で「カナカナカナ」と鳴く。最近はあまり鳴き声を聞かないが、幼少の頃はこの声を聞くと家に帰った。</p>		<p>羽化は薄暗い森の中で夜明け頃から始まるので見られる機会は極めて少ないが、樹間に朝日が差し込み妖精のような姿が浮かびあがった。</p>	
7～ 9月	クマゼミ	7～ 8月	ベッコウハゴロモ	3～ 11月	ツマグロオオヨコバイ
					
<p>日本の固有種、「セミ (蟬)」の仲間では最大である。以前は関西地方以西に生息していたが、気候温暖化により町でも見られるようになった。</p>		<p>カメムシの仲間。幼虫、成虫ともに植物の葉液や果汁を好む。農作物の害虫といわれているが、殆ど実害はない。分泌物は桑の葉を害する。</p>		<p>カメムシの仲間。全長約13mm。幼虫、成虫ともに植物の汁を吸う。農作物の害虫といわれているが、殆ど実害はない。横這いに歩く。</p>	



里山図鑑12 (昆虫：ハチ1 △雌は危険種)

4～ 10月	△ オオスズメバチ	4～ 10月	△ コガタスズメバチ	4～ 10月	△ ヒメスズメバチ
			<p>スズメバチ (科) の代表格。この仲間では最も大型で、「女王蜂」と「働き蜂」は強力な毒針を持つ。これは産卵管が変化したものといわれている。</p> <p>スズメバチの仲間。名は「コガタ (小型)」だが小さくない。性格は比較的に穏やかだが、人家の近くに巣を作るので刺傷被害が多い。</p> <p>スズメバチの仲間。名は「ヒメ (姫)」だが小さくはない。性格は穏やかだが「アシナガバチ」の幼虫や蛹を捕獲して巣に持ち帰り幼虫に与える。</p>		
4～ 10月	△ キイロスズメバチ	4～ 10月	△ クロスズメバチ	4～ 10月	△ セグロアシナガバチ
			<p>スズメバチの仲間。中型であるが性格は獰猛である。側を通っただけでも攻撃してくるので刺傷被害が多い。この仲間は他の昆虫などを餌にしている。</p> <p>スズメバチの仲間でも最も小型。性格も穏やかで刺激をしなければ攻撃してこない。巣は人家から離れた土中に作るの殆ど知られていない。</p> <p>スズメバチの仲間。脚が長いので「脚長蜂」と呼ばれている。この個体は時期的にみて「女王蜂」であろう。巣作りの材料を集めているようだ。</p>		
4～ 10月	△ キアシナガバチ	4～ 10月	△ キボシアシナガバチ	4～ 10月	△ フタモンアシナガバチ
			<p>スズメバチの仲間。「アシナガバチ」の中では最も大きい。時期的にみて「女王蜂」であろう。この仲間では越冬するのは前年の秋に生まれた女王蜂のみである。</p> <p>スズメバチの仲間。小型の「アシナガバチ」である。性格は穏やかで刺激しなければ危険はない。町では見られる機会は少ない。</p> <p>スズメバチの仲間。小型の「アシナガバチ」である。この個体は時期的にみて「女王蜂」であろう。巣作りの材料を集めているようだ。</p>		



里山図鑑13 (昆虫：ハチ 2 △雌は危険種)

5～ 9月	△ ムホンホソアシナガバチ	7～ 10月	△ オオハラナガツチバチ (♂)	8～ 10月	△ キンケハラナガツチバチ (♀)
					
スズメバチの仲間。中型で体形が細長い。時期的にみて「女王蜂」であろう。見た目には弱々しいが攻撃的な性格で、草刈り中に刺されることが多い。		ツチバチの仲間。土中に穴を掘って巣を作り単独生活をする。「コガネムシ」類の幼虫を巣に引き込み、卵を産みつける。刺激しなければ刺されない。		ツチバチの仲間。生態は「オオハラナガツチバチ」に似る。この仲間は植物の花蜜を好み攻撃的な性格ではない。生態はよくわかっていない。	
7～ 10月	△ オオモンツチバチ (♀)	7～ 9月	△ スズバチ	7～ 9月	△ ミカドトックリバチ 別名：トックリバチ
					
ツチバチの仲間。この仲間では大型で、体に光沢がある。生態は「オオハラナガツチバチ (大腹長土蜂)」に似る。成虫は植物の花粉を食べる。		ドロバチの仲間。この仲間では大型で、1990年代に小笠原で発見された外来種で、生態は謎が多い。攻撃性が乏しく生態系に影響はない。		ドロバチの仲間。体は胴が細長く艶のある黒色で、黄色の斑紋がある。徳利のような巣を作り、「ガ(蛾)」類の幼虫を捕獲して幼虫の餌にする。	
5～ 10月	△ オオフトオビドロバチ	6～ 10月	△ サトジガバチ 別名：ジガバチ	6～ 8月	△ クロアナバチ
					
ドロバチの仲間。この仲間では中型。生態は「ミカドトックリバチ」と似ているが、巣は「カミキリムシ」が開けた樹木の脱出孔や竹筒内などに作る。		アナバチの仲間。仲間の中では中型。胴が極端に細い。土中に巣を作り、「ガ(蛾)」類の幼虫に毒針で麻痺させ捕獲し、卵を産みつける。		アナバチの仲間では大型。生態は「サトジガバチ」に似る。相違は幼虫の餌に「バッタ」類の成虫を利用する。成虫の食料は花蜜である。	



里山図鑑14 (昆虫：ハチ3 △雌は危険種)

6～ 8月	△ オオモンクロベッコウ 別名：オオモンクロクモバチ	4～ 10月	△ ベッコウクモバチ	5～ 10月	バラハキリバチ
					
<p>ベッコウバチの仲間。翅や脚が「鼈甲(べっこう)」色。大型の「クモ(蜘蛛)」を毒針で麻痺させて捕獲し、土中の穴に引き込んで卵を産みつける。</p>		<p>クモバチの仲間。姿や生態は「ベッコウバチ」と似て混同されやすい。よく地上を徘徊しているところを見かける。石垣の隙間などに巣を作る。</p>		<p>ハキリバチの仲間。「バラ(薔薇)」の葉などを切り取り筒状にして巣を作り、花蜜と花粉の団子を詰め込んで卵を産みつけ、幼虫の餌にする。</p>	
4～ 10月	△ ニッポンヒゲナガハナバチ (♂)	4～ 10月	△ コマルハナバチ (♂)	4～ 9月	△ トラマルハナバチ (♂)
					
<p>ミツバチの仲間。体は黒色だが白い毛に覆われる。雌は毒針を持ち、刺激すると刺すことがあるが、毒性は弱い。巣は地中に作る。</p>		<p>ミツバチの仲間。丸い体形で雄は全身の毛が茶色である。植物の受粉に重要な昆虫である。雌は毒針を持つが毒性は弱い。花蜜と花粉の団子を作る。</p>		<p>ミツバチの仲間。全身が毛深く花粉が着きやすい。植物の受粉に重要な昆虫である。雌は毒針を持ち、刺激すると刺すことがあるが毒性は弱い。</p>	
6～ 9月	オオホシオナガバチ (♀)	4～ 6月	クロムネアオハバチ	6～ 10月	オオセイボウ
					
<p>ハバチの仲間。後に突き出ているものは産卵管で、雄にはない。木の深い穴にいる「カミキリムシ」などの幼虫に卵を産みつけるため、異常に長い。</p>		<p>ヒメバチの仲間。体色は薄緑色の小さな「ハチ」で、大きな黒い目が可愛い。生態はよくわかっていないが、「桑の実」が熟す頃に見られる。</p>		<p>セイボウの仲間。漢字名は「青峰」。全身が光沢のある青色で「ハチ」の仲間では最も美しい。花粉や花蜜を好む。毒針は持たない。</p>	



里山図鑑15 (昆虫：アブ1 △危険種)

5～ 9月	△ トラフムシヒキ (♀)	5～ 10月	△ マガリケムシヒキ (♂)	6～ 9月	△ アオメアブ (♀)
					
ムシヒキアブの仲間。漢字名は「虎斑食虫虻」。性格は獯猛で大きな昆虫でも捕らえて体液を吸う。雌は尻に産卵管を突き出している。		ムシヒキアブの仲間。漢字名は「曲毛食虫虻」。雄は尻に毛束をつける。生態は「トラフムシヒキ」に似る。農作物の害虫を退治する益虫である。		ムシヒキアブの仲間。「アオメ(青眼)」は目が緑色だから。人を襲うことはないが触れると鋭い口器で刺される恐れがある。	
6～ 9月	△ シオヤアブ (♂)	7～ 9月	クロバツリアブ	7～ 10月	スキバツリアブ
					
ムシヒキアブの仲間。この仲間は脚力と飛翔力に優れ、ゲリラ戦法が得意である。「オオカマキリ」や「オオスズメバチ」でも餌食になることがある。		ツリアブの仲間。「ツリアブ」の漢字名は「長吻虻」。長い口器を持っているという意味であろう。土中にある昆虫の幼虫に卵を産み付ける。		ツリアブの仲間。「スキバ」は漢字では「透翅」。生態は「クロバツリアブ(黒翅長吻虻)」に似る。この仲間の成虫は植物の花蜜や花粉を好む。	
4～ 11月	オオハナアブ	5～ 8月	クロベッコウハナアブ	4～ 10月	スジシロベッコウハナアブ
					
ハナアブの仲間。大型で植物の花蜜や花粉が好物で、植物の受粉に大貢献している。幼虫は長い呼吸官を空気中に出して水中で育つ。		ハナアブの仲間。植物の花蜜と花粉が好物である。成虫は「スズメバチ」の巣に侵入して産卵、孵化した幼虫は巣の中の幼虫や蛹を捕食する。		ハナアブの仲間。成虫は「ミツバチ」ほどの大きさである。幼虫は自ら土中の「クロスズメバチ」の巣に侵入し、巣の中の幼虫や蛹を捕食する。	



里山図鑑16 (昆虫：アブ 2)

4～ 12月	ナミハナアブ (♂)	4～ 8月	シマハナアブ (♀)	4～ 11月	クロヒラタアブ (♀)
					
<p>ハナアブの仲間。この仲間は種類が多く、何れも植物の受粉に重要な役割を持つ。本種が最も多く見られ、幼虫は水中の腐蝕物を食べて育つ。</p>		<p>ハナアブの仲間。雌雄ともに体形と色模様が「ナミハナアブ(並花虻)」に似ている。生態も同様で、幼虫は長い呼吸官を持ち水中で育つ。</p>		<p>ハナアブの仲間。体長8～13mmで小型。成虫は植物の花蜜と花粉を餌にしているが、幼虫は「アブラムシ」を食べる。個体数は少ない。</p>	
3～ 10月	ホソヒラタアブ (♂)	5～ 7月	ルリハナアブ	5～ 10月	ハチモドキハナアブ
					
<p>ハナアブの仲間。普通に見られる小型の「アブ(虻)」である。ホバリングが得意で頻りに空中静止をする。幼虫は「アブラムシ」を食べる。</p>		<p>ハナアブの仲間。体全体が金色に輝き美しい。「ハエ」のように見えるが元々両種は近縁同士で区別が付き難い。個体数は少なく生態も不明である。</p>		<p>ハナアブの仲間。漢字名は「擬蜂花虻」。「ハチ」によく似ているが翅は1対2枚(ハチは2対4枚)。個体数は少なく、生態も不明である。</p>	
7～ 10月	ツマグロコシボソハナアブ	7～ 8月	サツマモンナガレアブ	5～ 9月	オオイシアブ
					
<p>ハナアブの仲間。小型で棍棒のような体形である。「ハチ」の仲間に見えるが翅は1対2枚である。個体数は少なく、生態は殆どわかっていない。</p>		<p>モンナガレアブの仲間。体長11mm。「アブ」より「カガンボ」の仲間に見える。個体数は少なく、幼虫は水中で育つらしいが、生態は不明である。</p>		<p>分類は「ムシヒキアブ」の仲間だが体形が異なる。生態が似ているのであろう。同類の「チャイロオオイシアブ」とともに、毛むくじらの「アブ」である。</p>	



里山図鑑17 (昆虫：ハエ・カマキリ)

5～ 10月	キンバエ	4～ 10月	シロオビハリバエ	6～ 10月	コンボウナガハリバエ
					
クロバエの仲間。体色は艶のある金色から緑青色と変化があり美しいが、糞や死骸に集まるので人気がない。衛生不快害虫として扱われている。		ヤドリバエの仲間。細長い縞々のある体形。成虫は糞や死骸の他に腐った果実を集まるが、幼虫は他の昆虫に寄生する。生態は不明である。		ヤドリバエの仲間。体に艶があり、それなりに美しい。成虫は樹液や花蜜を集まるが、幼虫の生態は不明である。個体数は極めて少ない。	
4～ 10月	マルボシハナバエ	不明 (6月)	ツヤホソバエ	3～ 12月	ヒゲナガヤチバエ
					
名は「ハナバエ」だが「ヤドリバエ」の仲間。体長は6～9mmと小さく、腹部が丸くて愛嬌がある。幼虫は「シラホシカメムシ」類に寄生する。		ツヤホソバエの仲間。「メバエ」の仲間のようにも見えるが殆ど情報不足でわからないことが多い。この個体は花蜜と花粉を食べているようだ。		ヤチバエの仲間。「ヤチ」とは「谷地」のこと、湿原や湿地の周りに生息する。体は光沢のある銜色である。幼虫の餌は巻貝の「モノアラガイ」などを食べる。	
8～ 11月	オオカマキリ(♀)	8～ 11月	コカマキリ	8～ 11月	チョウセンカマキリ
					
カマキリの代表格。大型で獰猛なので昆虫では最強である。前脚(鎌脚)の力は強く捕らえた獲物は簡単には放さない。「オオスズメバチ」でも餌食になる。		カマキリの仲間。小型だが獰猛である。「チョウセンカマキリ」とよく似ているが前脚(鎌脚)の内側に白と黒の斑紋があるので見分けがつく。		カマキリの仲間。中型で獰猛である。日本の在来種だが何故か名は「チョウセン(朝鮮)」とつく。こちらを見ながら前脚(鎌脚)を上げて威嚇している。	



里山図鑑18 (昆虫:バッタ1)

7～ 11月	トノサマバッタ (上♂・下♀)	7～ 12月	ヒナバッタ	7～ 10月	カワラバッタモドキ
			<p>バッタの代表格で最大である。天敵が多いため警戒心が強く、跳躍力と飛翔力に優れている。「イネ」科植物の葉や昆虫の死骸を食べる。</p> <p>バッタの仲間。体が小さいのでこの名がついた。乾燥に弱く水分が不足すると短時間で絶命する。「イネ」科植物の葉や同類の死骸を食べる。</p> <p>バッタの仲間。荒れ地にいることが多い。胸の上部が盛り上がっているのが特徴である。「イネ」科植物の葉を食べる。町での個体数は少ない。</p>		
7～ 11月	イボバッタ	7～ 11月	クルマバッタ	7～ 11月	クルマバッタモドキ
			<p>バッタの仲間。小型で体は土色である。胸にギザギザの突起があるので、この名がついた。幼虫と成虫ともに草の葉を食べる。町での個体数は少ない。</p> <p>バッタの仲間。後翅に半月状の黒帯模様があり、飛翔すると車輪が回っているように見える。草の葉を食べる。町での個体数は少ない。</p> <p>バッタの仲間。「クルマバッタ」に似て後翅に半月状の黒帯模様がある。胸の上部に1対の「くの字形」白紋を持つ。草の葉を食べる。</p>		
7～ 11月	ショウリョウバッタ	7～ 11月	ショウリョウバッタモドキ	8～ 12月	オンブバッタ (上♂・下♀)
			<p>バッタの仲間。大型で細長い。斜めに立ち上がった細く尖った頭が特徴である。「ショウリョウ」は漢字で「精霊」。名の由来は旧盆の頃に発生するため。</p> <p>バッタの仲間。「ショウリョウバッタ」に似ているが、背中に茶色の筋が通っているので判別できる。「イネ」科植物の葉を食べる。</p> <p>バッタの仲間。「オンブバッタ」科に分類される。腹部は幅広く頭が小さい。成虫の雌は大きく雄を背負う。「キク」科植物の葉を食べる。</p>		



里山図鑑19 (昆虫：バッタ2)

3～ 11月	ハラヒシバッタ	4～ 10月	トゲヒシバッタ	4～ 11月	ツチイナゴ
			<p>ヒシバッタの仲間。体長10mmで小型。腹部に1対の菱形紋を持つ。水中の潜水泳法が得意である。水辺に生息し植物の葉を食べる。</p> <p>ヒシバッタの仲間。翅が長く胸の両側に菱形の突出物を持つ。水上に鼻先を突き出してスイスイ泳ぐ。水辺に生息し植物の葉を食べる。</p> <p>バッタの仲間。「イナゴ」科に分類される。口の下に小さな突起があるなどの相違がある。植物の葉を食べるが「イネ」の被害情報は無い。</p>		
4～ 11月	コバネイナゴ	8～ 11月	アオマツムシ	8～ 11月	ミツカドコオロギ
			<p>バッタの仲間。翅の短い「イナゴ(蝗)」である。特徴は「イネ」を食べる害虫であるが、代わりに佃煮などの人間の食料にもされるなど、天敵も多い。</p> <p>コオロギの仲間。触角が長く、「キリギリス」の仲間と間違えやすい。体形は扁平、「リーリー」と鳴く。明治時代に中国からの渡来説がある。</p> <p>コオロギの仲間。頭部が三角形。農耕地や草地に生息する。夜行性で、雄は歯切れ良く「ジッジッ」と鳴く。餌は草の葉や小昆虫である。</p>		
8～ 11月	エンマコオロギ(♀)	6～ 9月	ヒメギス	8～ 11月	セスジササキリモドキ 別名:ウスイロホシササキリモドキ
			<p>コオロギの仲間。名は地獄の閻魔様を連想させる。農耕地や草地に生息する。夜行性で、雄は「コロコロリー」と鳴く。雌には長い産卵管がある。</p> <p>キリギリスの仲間。体は真っ黒で「コオロギ」の仲間と間違えやすい。名は小さな「キリギリス」から。雄は「シリリリリ」と鳴く。餌は草の葉や小昆虫。</p> <p>ササキリモドキの仲間。体色は緑色で背全体が褐色である。体長の2倍の長い触角を持つ。雌には産卵管がある。餌は草の葉や小昆虫である。</p>		


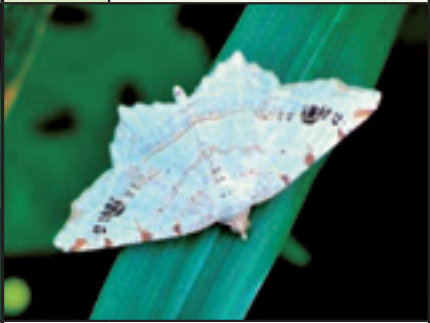


里山図鑑20 (昆虫：バッタ3・ナナフシ)

8～ 10月	ササキリ(♀)	8～ 10月	オナガササキリ(♀)	4～ 11月	ホシササキリ(♀)
					
<p>キリギリスの仲間。「ササキリ」の漢字名は「笹切」。「ササ」などの葉を食べる。草むらに生息し、雄は日中に「ジリジリ」と鳴く。雌は産卵管を持つ。</p>		<p>キリギリスの仲間。「オナガ」は雌の長い産卵管から見立て、漢字で「尾長」と書く。笹藪に生息し、雄は日中に「シリシリシリ」と鳴く。</p>		<p>キリギリスの仲間。この仲間では小型。「ホシ」は前翅に黒点列を持つことから。雄は小さく「シリシリシリシリ」と鳴く。雌の産卵管は短い短刀形である。</p>	
6～ 9月	ヤブキリ(♀)	7～ 11月	ツユムシ(♂)	8～ 11月	ハヤシノウマオイ(♀)
					
<p>キリギリスの仲間。この仲間では最も大型でかなり獰猛。「セミ」など大型の昆虫も捕食する。雄は夜に「シリシリ」と鳴く。雌の産卵管は長い棒状である。</p>		<p>キリギリスの仲間。全身が緑色で頭が小さい。前翅が体の倍ほど長く脚は細長い。雄は「ジジジ」と鳴く。雌の産卵管は鎌状に反り上がる。</p>		<p>キリギリスの仲間。大型で近縁種の「ハタケノウマオイ」に酷似し、雄は「スイーチョン」と鳴く。害虫を食べる益虫である。個体数は激減している。</p>	
4～ 10月	ケラ	6～ 11月	シバズ(♀)	6～ 10月	ナナフシ
					
<p>「ケラ」は変わった姿をしているが、「コオロギ」の近縁種である。翅は折畳み式で小さく見えるが、翅を伸ばして飛翔でき、浮力を利用して泳げる。</p>		<p>ヒバリモドキ(科)は「バッタ」の仲間。この種の体長は7mmほどで小さい。芝生や乾いた草原に生息する。秋の夜長を「ジージー」と鳴き続ける。</p>		<p>「ナナフシ(七節)」は、この仲間の総称。関節は7個所もないので「たくさん」という意味らしい。日本には15種以上はいるといわれている。</p>	



里山図鑑21 (昆虫：ガ1)

5～ 8月	オオミズアオ (メス)	6～ 7月	ヒロバツバメアオジャク	4～ 9月	ウスキオエダジャク
					
<p>ヤマユガの仲間。開帳 (翅を広げた幅) は10cmほどの水色の美しい翅を持つ。2対4個の黄色い円紋がある。「カイコ (蚕)」は「ヤマユガ」の改良種。</p>		<p>ジャクガの仲間。「ジャクガ (尺蛾)」は「尺取虫」の成虫。幼虫は「モモ (桃)」の葉などを食べ害虫扱いを受けているが、成虫は受粉に役立つ。</p>		<p>ジャクガの仲間。殆どの「ガ」の幼虫は植物の害虫だが、成虫は花の受粉を助ける。2対4枚の翅は複雑で美しい色模様のもが多い。</p>	
4～ 10月	セスジナミジャク	5～ 9月	ワタノメイガ	5～ 9月	ヨツボシノメイガ
					
<p>ジャクガの仲間。小さな翅に白い曲線模様がびっしりと描かれている。これも厳しい自然環境の中で天敵から身を守るために身につけたものだろう。</p>		<p>ツトガの仲間。翅一枚が人の爪ほどの大きさで、その中に複雑な模様がデザインされている。身を守るためとはいえ、ここまで精緻なものには驚く。</p>		<p>ツトガの仲間。黒色枠の中に前翅に4個、後翅に1個ずつの大胆なデザインの白色紋様を持つ。どのような身の守り方をしているのだろうか。</p>	
6～ 10月	ギンツバメ	5～ 9月	スジベニコケガ	5～ 10月	ホソオビアシブトクチバ
					
<p>ツバメガの仲間。前翅と後翅を通した青灰色の「さざ波」形模様は気品があり美しい。翅先に着く小さな赤丸の斑紋も、良いセンスに見える。</p>		<p>ヒトリガの仲間。幼虫は茸や落葉を食べる。派手な色模様は天敵に毒を持っていることを警告する。無毒でも有毒種に擬態するものもある。</p>		<p>ヤガの仲間。翅に太い白帯が1本通り、翅の後端を丸く巻いている。自然の生き物は無意味な装飾はしない。枯葉の擬態なのであろう。</p>	



里山図鑑22 (昆虫：ガ2 △幼虫は危険種)

5～ 9月	オオウンモンクチバ	6～ 10月	ギンモンシロウワバ	4～ 9月	キシタアツバ
					
<p>ヤガの仲間。名は漢字で「大雲紋朽葉」。枯葉の擬態かも知れないが鮮やかな夕焼け色である。幼虫は「クス」などの葉を食べる。成虫の生態は不明である。</p>		<p>ヤガの仲間。前翅の中央に1対2個の白紋がある。頭が小さく留まる時は三角型になる。全国的に激減しているのので、出会えただけでも運が良い。</p>		<p>ヤガの仲間。頭が小さく留まる時は三角型になる。元々個体数が少なく、国の準絶滅危惧種に指定されている。町でも見られる機会は極めて少ない。</p>	
6～ 8月	モモブトスカシバ	5～ 7月	△ ウメスカシクロバ (♂)	6～ 9月	オオスカシバ
					
<p>スカシバガの仲間。後脚が毛むくじゃらの恐ろしげな姿である。幼虫は薬草「アマチャヅル」の葉を食べるが、成虫は見かけによらず花蜜を好む。</p>		<p>マダラガの仲間。体は小さく翅は透明で黒い翅脈模様と腹部と触角の青色が美しい。幼虫は「バラ」科の植物の葉を食べ、毒針毛を持つ。</p>		<p>スズメガの仲間。体は大型で翅は透明である。花蜜を好みホバリングしながら長い口吻を伸ばす。羽ばたきは超高速で、人間の目には殆ど見えない。</p>	
5～ 9月	ナカノホソトリバ	5～ 9月	ヒメシャチホコの幼虫	5～ 10月	アケビコノハの幼虫
					
<p>トリバガの仲間。「ガ(蛾)」の仲間に変化に富む。長い体形で翅は細く短い、4枚そろっている。脚に長い棘状の毛があり、飛ぶ姿は塵屑のようだ。</p>		<p>シャチホコガの仲間。自然は不思議な生き物を創造する。名は城の棟飾りの「鯨」から。幼虫の食草は「ハギ」などの葉で、成虫は口が退化し食べない。</p>		<p>ヤガの仲間。初めて見たときは一瞬たじろいだ。成虫は前翅が枯葉そっくりで、後翅には目玉のような斑紋があるが、既に幼虫にも表れている。</p>	



里山図鑑23 (小動物：クモ △危険種)

9～ 11月	△ ジョロウグモ (♀)	6～ 9月	コガネグモ (♀)	8～ 11月	ナガコガネグモ (♀)
					
<p>ジョロウグモの仲間 (一種のみ)。「ジョロウ」の漢字名は「女郎・上臈」の二つあるが後者の方が相応しい。噛まれるとしばれて炎症をおこす。</p>		<p>コガネグモの代表格。腹部に黄色の縞模様を持つ。林周辺などに円網を張り、中央のX字形「隠れ帯」に2本ずつ脚を揃え、逆さに留まる。</p>		<p>コガネグモの仲間。腹部は長く黒色の細い縞模様がたくさんあり、頭胸部はやや大きい。水田などに円網を張り、「隠れ帯」に逆さに留まる。</p>	
6～ 10月	オニグモ (♂)	5～ 9月	コゲチャオニグモ (♀)	5～ 7月	アオオニグモ (♀)
					
<p>コガネグモの仲間。体全体が褐色で脚に灰色の輪紋がある。腹部は大きく三角形で、両肩が盛り上がる。上下に長い網を張り、逆さにぶら下がる。</p>		<p>コガネグモの仲間。体は小さく全体が淡い茶色で、腹部はほぼ円形である。夜行性で夜間に巣を張り、日中は草花の陰に隠れている。</p>		<p>コガネグモの仲間。腹部は白色で脚は淡茶色である。腹部はほぼ円形で、1対の紺色の紋がある。生態は「コゲチャオニグモ」に似る。</p>	
6～ 9月	オオシロガネグモ (♀)	7～ 10月	イオウイロハシリグモ	4～ 10月	ハナグモ
					
<p>アシナガグモの仲間。腹部は白色で黒色の縦筋が入り刺激を与えると太くなる。脚は長く緑色である。川などに水平の円網を張り、網の裏側にぶら下がる。</p>		<p>キシダグモの仲間。「キシダ」は研究者の名だそうだが、生き物に人名は馴染まない。体色や模様に変異が多い。網を張らずに獲物を捕らえる。</p>		<p>カニグモの仲間。体は小さく腹部は丸い。全体が黄緑色で腹部に褐色の斑紋を持つ。花の側に留まって獲物を待ち伏せする。</p>	



里山図鑑24 (野鳥1)

通年	キジ (♂) <b>【国鳥】</b>	夏 (通年)	ダイサギ (冬羽型)	夏 (通年)	チュウサギ (冬羽型)
			山地から平地の林や農耕地、河川敷などに生息する。雄の羽色は美しい。雌雄が一緒に採餌することが多い。国鳥に指定されている。	翅を広げると1m以上。日本で繁殖する夏鳥。冬は南国へ渡る渡り鳥だが留まる個体もある。水田や湖沼の周辺に生息する。夏は嘴が黒い。	「ダイサギ」より小さい中型の白鷺。夏季に本州や九州に飛来し、河川やマングローブ林などの周辺に生息する。夏は嘴が黒くなる。
夏 (周年)	コサギ (冬羽型)	夏 (周年)	アオサギ	夏 (周年)	ゴイサギ
			小型の白鷺。アジアの熱帯から温帯の水田や河川、海岸などの周辺に生息する。温帯の個体は冬季に温暖な地方へ渡る。嘴は通年に亘り黒い。	翅を広げると1.6mほどで、鷺の仲間では最大。河川や湿原などの周辺に生息する。夏季は繁殖のために北海道、冬季は九州以南で越冬する。	首が短くずんぐり体形である。河川や湿原、海岸などの周辺に生息する。生態は「アオサギ」に似るが、日中は樹上で眠り、夕暮れ時に採餌を始める。
通年	ウグイス	通年	メジロ <b>【町の鳥】</b>	通年	シジュウカラ (♂)
			ほぼ日本全土に分布し、平地から高山地の「ハイマツ」樹林に生息する。寒冷地のものは冬季に暖かい地方へ移動する。鳴き声はよく知られている。	北海道から九州の寒冷地を除く山地から平地に生息する。目の周りが白く愛らしい。夫婦仲が良く、子育て中は家族連れで採餌する。	平地から低山地の林や湿原などの他、市街地の公園に生息する。美しい翅を持ち、果実や昆虫などを食べる。町でも冬季によく見られる。



里山図鑑25 (野鳥2)

冬 (通年)	カワラヒワ (♂)	冬 (通年)	マヒワ (♂)	冬	シメ (♀)
					
<p>ほぼ日本全土の低山から低地の森林に分布し、近年は市街地の公園などでも見られる。寒冷地のものは冬季には暖かい地方へ集団で移動する。</p>		<p>越冬のために飛来する冬鳥。北海道から本州中部の平地から山地の針葉樹林などで繁殖する。町では集団で移動する姿が見られる。</p>		<p>冬季に本州以南に飛来し、北海道から本州中部の山地の落葉樹林などで繁殖する。ずんぐり体形である。太い嘴で硬い実を砕き中身を食べる。</p>	
冬 (通年)	エナガ	通年	キセキレイ	冬 (通年)	ミソサザイ
					
<p>九州以北の平地から山地の樹林に生息し、冬季に低地の里山へおりて越冬する。尾羽が長く嘴が「おちょぼ口」で、顔の表情が可愛いらしい。</p>		<p>夏季は溪流沿いの崖の窪みや木の枝に営巣する。積雪地のものは冬季に暖地へ移動する。警戒心が強く、縄張り争いをする。個体数は少ない。</p>		<p>鳥の間では最小。南西諸島を除く、亜高山帯の溪流沿いの森に生息する。一部は低山地から平地で越冬する。町で見る機会は極めて少ない。</p>	
冬	ジョウビタキ (♂)	冬 (通年)	コゲラ	通年	モズ (♂)
					
<p>日本全土に越冬のために飛来する冬鳥。山地の明るい雑木林に生息する。雄は羽色が美しい。留まっているときに尾羽をブルブルと振るわせる。</p>		<p>日本全土の平地から山地の樹林に生息する。足指は2本ずつ前後に別れ木を掴みやすく、尾羽は硬く丈夫で採餌の時に体を支える役目をする。</p>		<p>北海道から九州の開けた林縁などに生息する。昔から人間の生活と密接に関わってきた。秋に小動物を木の枝に刺す「はやにえ」は有名である。</p>	



里山図鑑26 (野鳥3)

冬	ツグミ (♀)	冬	アカハラ (♂)	冬	シロハラ (♂)
			<p>冬季にシベリアから越冬のために飛来する冬鳥。平地から山地の森林や草原などに生息する。地面で採餌する時は、ピョンピョンと跳ね二足歩行する。</p> <p>ツグミの仲間。本州中部以北に飛来し繁殖する。冬季は本州中部以西で越冬し、平地から山地の森林に生息する。翅は赤く、雄の頭は黒褐色である。</p> <p>ヒタキの仲間。積雪の無い低地に飛来する冬鳥。春になると越冬のために北方(北の国)に移動する。「アカハラ」に似るが、翅は茶褐色である。</p>		
通年	オナガ	通年	ホオジロ (♂) <b>【県鳥】</b>	冬	アオジ (♂)
			<p>カラスの仲間。名は尾羽が長いことから。東アジアと地中海の遠くに離れた地域で、平地から低地の明るい森林内に生息する。不思議な生態を持つ。</p> <p>南西諸島を除く平地から丘陵地の草原や河原などに生息する。名は頬に白い模様を持つことから。個体数は少なく、千葉県の大保護生物である。</p> <p>北海道から本州中部で繁殖し、冬季は中部以西で越冬する。森林の周りや藪地に生息する。複数県の絶滅危惧種、準絶滅危惧種等に指定されている。</p>		
通年	カワセミ (♂)	夏	アオアシシギ	夏	コチドリ (♂)
			<p>北海道は夏鳥、他の地域では留鳥。池川や海岸の崖に営巣する。野鳥愛好家の垂涎種。魚や海老類を捕食する。千葉県他の絶滅危惧種等に指定されている。</p> <p>渡りの途中に全土に飛来。沖縄では少数が越冬する。非繁殖期は干潟や湖沼など、繁殖期は湿地や草原に生息する。複数府県の希少種に指定されている。</p> <p>夏季に本州から九州で繁殖する夏鳥。南西諸島は冬鳥。海岸や湖沼河川などで見られる。真っすぐには歩かないことから、いわゆる酔人の「千鳥足」と例えられる。</p>		



里山図鑑27 (野鳥4)

冬	ユリカモメ	冬	オナガガモ (♂)	冬	コガモ (♂)
					
冬季に日本全土の海岸や湖沼、河川に渡来する。一般には海鳥だと思われているが、周辺でも沼や河川に飛来する。昔から人間には馴染み深い鳥である。	冬季に日本全土に飛来する冬鳥。海岸や湖沼、河川などに生息する。雌雄の羽色は別種と思うほどに相違がある。	冬季に日本全土に飛来する冬鳥。市街地の河川や公園の池でも見られる。北海道の湿原で少数が繁殖する。羽色は雌雄で大きく異なる。			
冬 (通年)	カルガモ (前♂・後♀)	冬	マガモ (♂)	冬	キンクロハジロ (♂)
					
本州以南に生息する留鳥。北の個体群は冬季になると暖地へ移動し、河川や水田などの水辺で生活する。皇居の堀に引っ越す親子の姿で有名になった。	冬季に日本全土に来る渡り鳥。北部地方では少数が繁殖する。湖沼や河川、海岸に生息して、春に夫婦連れだって繁殖地に帰る。	冬季に越冬のために河川や湖沼に飛来する。北海道では少数が繁殖する。繁殖期の雄は後頭部の冠毛が伸び、精悍な面構えをしている。			
冬	ハシビロガモ (♀)	冬	ヨシガモ (♂)	通年	カワウ (♂)
					
冬季に越冬のために飛来する冬鳥。北海道では少数が繁殖する。周辺の池沼や河川にも飛来するが、個体数は極めて少ない。	冬季に越冬のために河川や湖沼に飛来する冬鳥。北海道では少数が繁殖する。周辺にも飛来するが、個体数は極めて少ない。	本州から九州で繁殖する留鳥または漂鳥、北海道では夏鳥。河川や湖沼の周りに生息する。大型で飛ぶ姿は迫力満点である。雄には冠毛がある。			



里山図鑑28 (野鳥5・哺乳類)

冬	オシドリ(♂)	冬	オオバン	冬	バン
			<p>漢字名は「鴛鴦」。冬に国外から渡来する冬鳥。夏に本州中部以北で繁殖する。多数の自治体が絶滅危惧種等に指定している。町で出会えたのは奇跡的である。</p> <p>北海道は夏鳥。本州から九州で繁殖し、冬季は本州以南で越冬する。湖沼や湿原、水田の周りに生息する。両目の間に白色の模様がある。</p> <p>西日本では湖沼などに生息する留鳥。周辺には冬に飛来する。脚の指が長く、水草の上を歩ける。千葉県その他、複数県のレッドリストに指定されている。</p>		
通年	フクロウ	冬(通年)	ノスリ	夏冬	チョウゲンボウ(♀)
			<p>夜行性の猛禽。環境破壊で住処や餌が減り、個体数が激減している。この個体は「西印旛沼」の土堤で出会った。多数の自治体が絶滅危惧種等に指定している。</p> <p>タカの仲間では大型。北海道から四国で繁殖、平地から山地の森林内に生息する。人里周辺で採餌することが多く、環境破壊の影響が大きい。</p> <p>ハヤブサの仲間。名は頭の色が僧侶の坊主頭に似ていることから。日本全土に飛来し、低地から高地の林農耕地や河原などに生息する。</p>		
通年(夏)	ツミ	通年	ニホンイタチ	通年	ニホンウサギ(番い)
			<p>温暖な山地の森林内に生息するタカの仲間。餌になる生物が減少し、市街地にすむ「ツバメ」を捕食するようになった。町の中心部にも現れて驚いた。</p> <p>日本の固有種。主に河川や湖沼などの水辺の森林内に生息する。外来種の「チョウセンイタチ」に脅かされている。多数の自治体が絶滅危惧種等に指定している。</p> <p>日本の固有種。白兎は雪国産。主に森林や草原に生息する。森林内の伐採木のコロニーで暮らす家族6匹に出会ったが、近づいても逃げなかった。</p>		



里山図鑑29 (両生類・爬虫類 △危険種)

通年	△ ニホンアマガエル	通年	シュレーゲルアオガエル	通年	トウキョウダルマガエル
			<p>日本の固有種。南西諸島を除く日本全土に分布する。「オタマジャクシ」に手足が生えると陸に上がり森林内に生息する。体を覆う粘膜は有毒で要注意である。</p> <p>日本の固有種。名の「シュレーゲル」はオランダの学者名。本州から九州の森林内に生息する。繁殖期に水田や池沼に集まる。複数県の希少種である。</p> <p>日本の固有種。関東平野から仙台平野の河川や池沼、湿原や水田に生息する。「トノサマガエル」とよく似ている。国の準絶滅危惧種に指定されている。</p>		
通年	ヤマアカガエル	通年	ニホンアカガエル	通年	ヤモリ
			<p>日本の固有種。本州から九州や佐渡島に分布する。丘陵地や山間の森林周辺の水辺に生息する。多数の自治体が絶滅危惧種等に指定している。</p> <p>日本の固有種。本州から九州と周辺の島に分布する。平地から丘陵地の草むらや森林内に生息する。国の準絶滅危惧種に指定されている。</p> <p>日本の固有種。秋田県から九州の民家やその周辺に生息する。見た目は悪いが家の害虫を食べるので、人と共存してきた。漢字名は「家守」と書く。</p>		
通年	クサガメ	通年	△ ヤマカガシ	通年	ニホンカナヘビ
			<p>北海道南西部から沖縄に分布する。河川や湖沼、池や水田に生息する。甲羅の背に六角形の模様が並ぶ。ワシントン条約により他国への輸出等が禁止されている。</p> <p>日本の固有種。本州から種子島に分布する。平地から低山地の水田や湿地の周辺に生息する。縞模様は美しいが奥歯に毒を持つので、要注意である。</p> <p>日本の固有種。北海道から種子島辺りまで分布する。草原や草藪に生息する。温和しく人に危害は加えない。千葉県と東京都の準絶滅危惧種である。</p>		



里山図鑑30 (淡水魚・巻貝)

通年	ミナミメダカ	通年	ヌマムツ	通年	アブラハヤ
					
日本のメダカは「キタノメダカ」と2種。本種は東北地方（太平洋側）から沖縄の河川や湖沼などに分布する。町では少数が生息する。国の絶滅危惧種である。	静岡県から九州西部の河川に分布していたが、本来の生息地では減少し東日本に多くなった。温暖化の関係なのか町の川でも見られる。	日本の固有種。日本海側は青森県から福井県、太平洋側は青森県から岡山県の河川や湖沼に生息する。町の川でも少数が見られる。			
通年	マルタニシ	通年	ニッポンマイマイ 通称：カタツムリ	通年	ミスジマイマイ
					
淡水生巻貝の仲間。日本全土の水田や池沼、湧水に生息する。有史以前に渡来したといわれ、昔から食用にされてきた。国の準絶滅危惧種である。	日本の固有種。本州全域の林の周りに生息する陸生の巻貝である。殻は山形に高く尖る。地方的変異が多く関東地方のものを基本形とする。	日本の固有種。関東南西部から中部南東部や伊豆神津島以北に分布する。平地から山地の広葉樹林に生息する。基本形は殻に黒筋が3本ある。			
通年	セトウチマイマイ	通年	ウスカワマイマイ	通年	ヒダリマキマイマイ
					
日本の固有種。主に四国や九州の瀬戸内海周辺に多い。殻は扁平で色模様は変異が多い。春から秋にかけ木の上を這う。町では少数が生息する。	日本の固有種。北海道南部から九州の人家周辺の農耕地などに生息する夜行性の巻貝である。殻は扁平で薄く半透明である。町では最も多く見られる。	日本の固有種。本州中部から東北地方に分布する。森林や草原の湿った場所を好む。巻貝では珍しい左巻である。生息環境により変異が多い。			



## 7 郷土史年表

町の歴史（地方史）と日本史（中央史）と酒々井町が2017年から交流しているドイツ（ドルフェン市）・世界の歴史とを比較して見ることができる郷土史年表です。

世界と日本とのつながりと中央史である教科書の日本史と、地方史である町の歴史とが結びついていることを、年表を通して実感することができます。



本佐倉城跡（鳥瞰図）



【本佐倉城跡案内所】



【展示室】

### 酒々井町の歴史について

酒々井町では旧石器時代の墨古沢遺跡から石器が発見されていて、少なくとも今から約3万4千年以上前の昔から人が住んでいたことがわかります。その後の縄文時代の生活で使った土器のかけらが、町の台地で多く見られ、弥生時代の遺跡や古墳時代の古墳も発見されています。

その後の奈良時代から江戸時代まで、この町は古くから人がくらす住みやすい場所でした。古代には、古東海道がつくられ、中・近世には、成田道(佐倉道)、小見川道、香取道、銚子道などの交通の要しょうの地として、人々の往来の盛んな地域でした。

この長い歴史のなかで、戦国時代には下総の国を治めた千葉氏が本佐倉城をつくり、約100年にわたり、政治・経済の中心地として栄えました。

江戸時代には幕府が直接、牧場(まきば)を管理する役所のある町、成田道の宿場町としてにぎわい、明治22年の町村制施行の際に、近くの16町村が合併し、酒々井町が誕生しました。

昭和50年代には、大規模な住宅開発に伴う急激な人口増加により、それまでの農業中心の町から、都市機能を備えた住宅都市に変わり、人口2万人を超える町へと発展しました。





時代	酒々井町	日本	ドルフェン市(ドイツ)・世界
旧石器	<p>約20万年前 上岩橋貝層①</p> <p>約15万年前 クジラの化石</p>  <p>クジラの骨の化石</p>  <p>貝化石</p>	<p>・南方からナウマンゾウ、北方からマンモスがやってきた。</p> 	<p>15万年～14万年前頃</p> <p>・旧人（ネアンデルタール人）が洞くつの生活で用途別の石器を作成、埋そうも行う。</p> <p>・旧人は3万5千年前までに中央アジアから東北アジアにかけて活動する。</p>
	<p>氷期の日本は現在の長野県の高原のような気候であった。ナウマンゾウやオオツノジカなどの大型動物を追って人々が移動し、打製石器を使った狩猟生活が中心であった。</p> <p>約34000年前 墨古沢遺跡②</p>  <p>石器の接合資料 (墨古沢遺跡出土)</p>  <p>石槍(尖頭器) (町内遺跡出土)</p>	 <p>石器づくり</p>  <p>狩り</p>	
	<p>気候が暖くなり大型動物が姿を消し、木の実などの採集中心の生活に変化した。たて穴住居での定住生活をし、食糧の加工などに土器を使用した。</p> <p>約12000年前 土器・弓矢が出現</p> <p>約5000年前 墨木戸遺跡③</p>  <p>縄文土器</p>  <p>土器づくり</p>	<p>1万2千年～7千5百年前</p> <p>・ヘーニング付近で石の人工遺物の出現</p> <p>7500年～4200年前</p> <p>・ドルフェン地域で石器と陶器の出現</p> <p>4200年～2800年前</p> <p>・ドルフェン地域で陶器と装身具の出現</p> <p>2800年～2000年前</p> <p>・ドルフェン地域で陶器とコインの出現</p> <p>紀元後0年～450年頃</p> <p>・ドルフェンを結ぶ街道がつけられる。</p> <p>375年 ゲルマン人の大移動</p>	
	<p>大陸から渡来人がやって来て、稲作や金属器が伝わった。はじめは小さな集落（ムラ）であったが、大規模な政治的集団（クニ）に変化した後、土地や蓄えを求めて戦いが起こるようになった。</p> <p>約2400年前</p> <p>100年頃 佐倉市大崎台で環濠集落がつけられる。</p>  <p>かんごう</p> <p>・大陸から稲作伝来</p> <p>57年 倭の奴国王が漢に使いを送り、金印をあたえられる。</p>  <p>239年 卑弥呼が魏に使いを送る。</p> 	<p>近畿地方を中心とした連合国家（ヤマト政権）が成立した。有力な豪族の中から大王と呼ばれるリーダーが誕生し天皇となる。権力の象徴として、古墳と呼ばれる大きな墓がつけられるようになる。</p> <p>400年後半頃 大鷲神社古墳がつけられる。 ・石枕が見つかる。</p>  <p>石枕</p> <p>500年頃 鬼塚古墳がつけられる。</p> <p>421年 倭の五王が宋に朝貢する。（～478年）</p> <p>538年(552年) 仏教が伝わる。</p>	
縄文	弥生	古墳	<p>6世紀～7世紀</p> <p>・キルヒシュテッテン近くの埋そう地で人骨と共に剣やベルトの道具等の副そう品の出現</p>

※ドルフェン(酒々井町が2017年から交流している市)



時代	酒々井町	日本	ドルフェン市 (ドイツ)・世界
<b>飛鳥</b> 593 〽	聖徳太子が摂政になり、中国（隋）の文化や制度を学び、天皇中心の国家をめざすが、蘇我氏などによる政争が目立つようになる。その後、法律や戸籍などを作り中央集権的な国家整備を進める。  <b>600年初め頃</b> 狐塚古墳がつくられる。  <b>600年後半頃</b> カンカンム口横穴群がつくられる。 ・鉄刀、銅椀が出土   銅 椀	593年 聖徳太子が摂政となる。 604年 憲法十七条を制定する。  645年 大化の改新が始まる。 663年 白村江の戦い 672年 壬申の乱  701年 大宝律令ができる。 ・国名が「日本」となる。	589年 隋が中国を統一する。  618年 隋が滅び唐がおこる。  668年 高句麗が滅ぶ。  676年 新羅が朝鮮を統一する。
	<b>奈良</b> 710 〽	奈良を都とする。土地や身分制度が整えられる。人口増加により各地で開拓が進み、貴族や寺社の私有地（荘園）が発生する。聖武天皇が仏教の力で平和な世の中にしようとして大仏をつくる。  古東海道（相模-上総-下総-常総）が設置され、酒々井を通ることになった。（805年廃止『日本後記』）	710年 平城京に都がうつされる。 752年 東大寺の大仏が完成する。  
<b>平安</b> 794 〽		仏教勢力が強くなり都を京都に移す。藤原氏が天皇家と親戚関係で築いた貴族中心の社会の中で、下級貴族たちは地方で武芸をみがき、貴族の土地や財産を守るための武士団を形成していった。  <b>807年</b> 吉祥寺が建てられる。 <b>800年中期頃</b> 墨木戸遺跡 ・丸鞆(帯金具)が出土   丸鞆 (帯金具)  <b>1155年</b> 文書に小上（尾上）・岩橋の地名が書かれる。	794年 平安京に都がうつされる。 935年 平将門の乱 939年 藤原純友の乱 1016年 藤原道長が摂政となる。   1156年 保元の乱 1159年 平治の乱
	<b>鎌倉</b> 1185 〽	武士団で有力な源氏と平氏の争いで源氏が勝利し、鎌倉に幕府を開き武家政権となったが、元（中国）の襲来後、家来に恩賞を払えずに弱体化し、天皇側についた家来の足利氏らにより滅亡する。  <b>1100年後期頃</b> 長福寺の仏像がつくられる。   仏像 (長福寺)  <b>1243年</b> 東光寺が建てられる。  <b>1300年</b> 清光寺の仏像がつくられる。	1192年 源頼朝が征夷大将軍になる。 1221年 承久の乱  1274年・1281年 元が日本を攻める。  1333年 鎌倉幕府が滅びる。 1336年(～92年) 南朝と北朝の対立(南北朝時代)



時代	酒々井町	日本	ドルフェン市(ドイツ)・世界
<b>室町</b> 1338 	<p>足利氏が京都に幕府を開く。政権内部での家とく争いが激化して応仁の乱にまで発展し、戦国大名が登場する。京都周辺諸国を支配した織田信長が、足利氏を京都から追放して幕府が滅亡する。</p> <p><b>1383年</b> 上岩橋(殿辺田)で下総式の板碑<small>いたたまひ</small>が作られる。</p> <p><b>1406年</b> 文書に墨・いつみ(飯積)・須々井(酒々井)の地名が書かれる。</p> <p><b>1469年</b> 千葉輔胤が本佐倉城を築城④</p> <p><b>1490年</b> 千葉氏が城下町をつくり、祭りが始まる。</p>  <p style="text-align: center;">本佐倉城跡</p>	<p><b>1338年</b> 足利尊氏が京都に幕府を開く。</p> <p><b>1455年</b> 享徳の乱</p> <p><b>1467年</b> 応仁の乱</p> <p><b>1543年</b> ポルトガル人が鉄砲を伝える。</p> <p><b>1549年</b> ザビエルがキリスト教を伝える。</p>	<p><b>1390年</b> 教会が建てられる。</p> <p><b>1455年</b> 初の市長の記載</p> <p><b>15世紀中頃</b> 大航海時代(～17世紀中頃)</p> <p><b>1512年</b> 市民がビールを生産する権利を買う。</p> <p><b>1534年</b> ザビエルらがイエズス会をつくる。</p> <p><b>1555年(～66年)</b> 市民の中で新教の活動が行われた。</p>
	<b>安土・桃山</b> 1573 	<p>織田信長は天下統一の目前で家来の明智光秀に裏切られ死去。その後、豊臣秀吉が統一を果たす。秀吉は朝鮮出兵をするが病死して撤退。天下分け目の関ヶ原の戦いで徳川家康が勝利する。</p> <p><b>1573年</b> 本佐倉城が火災にあう。</p> <p><b>1583年</b> 北条氏政が千葉邦胤に牧土の制を設けることを命じる。</p> <p><b>1590年</b> 豊臣秀吉の小田原攻めで千葉氏が滅びる。</p> <p><b>1591年</b> 徳川家康が酒々井町を取り立てて酒々井宿ができる。</p>	<p><b>1573年</b> 織田信長が室町幕府を滅ぼす。</p> <p><b>1582年</b> 本能寺の変</p> <p><b>1585年</b> 豊臣秀吉が関白になる。</p> <p><b>1590年</b> 豊臣秀吉が全国統一をする。 ・徳川家康の江戸入府</p> <p><b>1600年</b> 関ヶ原の戦い</p>
<b>江戸</b> 1603 		<p>徳川家康が江戸に幕府を開く。鎖国を行い幕藩体制の確立とともに封建制度が完成する。歌舞伎など町人文化が栄える。西国諸藩を中心に討幕運動が起こり、15代徳川慶喜が政権を朝廷に返す。</p> <p><b>1614年</b> 下総牧を佐倉牧・小金牧に分け、島田長右衛門が牧土になる。⑤</p> <p><b>1674年</b> 徳川光圀(水戸黄門)が、地蔵院に宿泊する。</p> <p><b>1734年</b> 六所神社が建てかえられる。 ・墨の獅子舞が始まる。⑥</p> <p><b>1782年</b> 老中田沼意次が印旛沼干拓を始める。</p> <p><b>1798年</b> 「成田の道の記」宿場町に十軒の宿屋があり、成田や芝山への旅人でにぎわう。⑦</p> <p><b>1830年代</b> 手習い塾(青樹堂)がつくられる。 酒々井駅の図</p>	<p><b>1603年</b> 徳川家康が江戸に幕府を開く。</p> <p><b>1613年</b> 禁教令</p> <p><b>1614・1615年</b> 大坂の陣で豊臣家が滅びる。</p> <p><b>1633年</b> 鎖国の開始</p> <p><b>1637年</b> 島原の乱</p> <p><b>1716年</b> 徳川吉宗が享保の改革を行う。</p> <p><b>1774年</b> 杉田玄白が解体新書を出版</p> <p><b>1782年</b> 天明の大ききん</p> <p><b>1787年</b> 松平定信が寛政の改革を行う。</p> <p><b>1821年</b> 伊能忠敬の日本地図完成</p> <p><b>1833年</b> 天保の大ききん</p> <p><b>1837年</b> 大塩平八郎の乱</p>



時代	酒々井町	日本	ドルフェン市(ドイツ)・世界	
明治 1868	1841年 勝蔵院の釣鐘がつくられる。 1847年 八坂神社の御輿が50両でつくられる。	1841年 水野忠邦が天保の改革を行う。 1853年 ペリー来航 1867年 大政奉還 	1840年 アヘン戦争 1856年 病院ができる。 1861年 アメリカ南北戦争	
	明治新政府が成立し、文明開化や富国強兵を推進する。封建制度にかわる中央集権体制を確立する。大日本帝国憲法が制定され、欧米諸国の制度・文物の移入による諸改革が急速に行なわれた。	1872年 酒々井郵便局ができる。 1889年 町村制施行で酒々井町になる。	1868年 明治維新 1889年 大日本帝国憲法が公布される。 1894年(～95) 日清戦争 1904年(～05) 日露戦争 	1871年 鉄道が開通する。 ・ドイツ帝国ができる。 1898年 ドルフェン駅ができる。 1904年 電灯がつく。
	1897年 成田鉄道(現JR)の酒々井駅ができる。 1903年 酒々井駅古松碑が建立される。	第一次世界大戦で日本が好景気(大戦景気)になり、資本主義が急成長し、一般大衆の政治的進出を背景に、政治、社会、文化の各分野において大正デモクラシーと呼ばれる民主化が進行した。	1912年 中華民国がおこり、清が滅びる。 1914年(～18年) 第一次世界大戦 1920年 国際連盟が発足する。 1929年 世界恐慌がおこる。	
	1914年 南酒々井駅ができる。 1916年 電気が通じて電灯がつく。 1926年 京成酒々井駅ができる。 1929年 酒々井町に電話が開通する。	1923年 関東大震災 1937年(～45年) 日中戦争 1941年(～45年) 太平洋戦争  1945年 広島・長崎に原爆投下・終戦  1946年 日本国憲法が公布される。 1964年 新幹線開業・東京オリンピック開催 	1939年(～45年) 第二次世界大戦 1945年 国際連合が発足する。 1946年 民主的な選挙が戻る。 1950年 朝鮮戦争 1956年 ドルフェン市になる。	
大正 1912	 蒸気機関車			
昭和 1926	 東京オリンピック(聖火ランナー)			
平成 1989	1968年 町営水道ができる。 1972年 現在の町役場ができる。  酒々井町役場 1987年 リサイクル文化センターができる。 1988年 総合公園ができる。	1970年 日本万国博覧会開催(大阪) 1972年 沖縄返還 1986年 バブル経済始まる。(～91年) 1989年 昭和天皇没 1995年 阪神・淡路大震災	1965年 ベトナム戦争がはげしくなる。 1969年 人類初の月面着陸(アポロ11号) 1972年 合併により人口1万人の都市になる。 1989年 米ソ冷戦の終結 1990年 東西ドイツの統一 1993年 EUが発足 2003年 イラク戦争	
	2003年 プリミエール酒々井ができる。	2011年 東日本大震災	2011年 文化センターができる。 	
	2013年 酒々井インターチェンジができる。 ・プレミアム・アウトレットができる。 2016年 第1回「千葉氏まつり」 2017年 国際交流派遣事業(ドイツ) 2019年 酒々井町制施行130年になる。(1889年～)	2019年 平成の天皇退位 2020年 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行		
	2021年 本佐倉城跡案内所ができる。			
令和 2019				



# 酒々井の自然

## 【地層】 かみいわはしかいそう 上岩橋貝層(県の指定文化財)①



約20万年前にこの辺りが古東京湾であったところに堆積した貝層です。120種類以上の貝化石が含まれています。

## 【水辺】 印旛沼 (中央低地排水路)



むかしは、「かとり香取の海」と呼ばれていた沼で、今では北印旛沼と西印旛沼を水路で結ばれ、ヘラ鮎などの魚を釣る人が訪れています。

## 【生物】 蛍 (ホタル) の里 (本佐倉)



「蛍の里を守ろう会」と地元の人々により保護されている池で、6月上旬ごろからホタルが見られます。

## 【谷津】 西井戸の里 (酒々井)



野鳥や昆虫などの生き物がたくさんすんでいるところで、「里山フォーラム」の方が中心になって整備している土地です。

## 【わき水】 泉の里 いづみ (飯積)



飯積の大杉のそばにある泉で、今でもわき水が出ています。近くには、せんぶくいん泉福院という名の寺院もあるなど泉に関わりの深いところです。

## 【樹木】 いづみ 飯積の大杉(町の指定文化財)



伊豆神社の境内にある大杉です。

推定の樹れいは、700年の大きな木です。町では一番大きな杉として、町の指定文化財となっています。



# 酒々井の文化

## 酒の井の碑 (ひ)



酒々井の地名の起源となった、親に飲ませた井戸の水が酒に変わったという酒の井伝説を伝える石碑として今に伝わっています。

## 上岩橋の獅子舞 (町の指定文化財)



毎年4月の第1日曜日に駒形神社、菊賀神社、大鷲神社の順で行われます。

## 双体道祖神 (そうたいどうそじん)



男像の右手が女像の肩にかけられ、その手が女像の右手が握り、双方の左手は1本の杖を握っている道祖神で、町では9組見られます。

## 墨の獅子舞 (県の指定文化財) ⑥



六所神社が建てかえられた1734年から始まり、毎年7月の第3日曜日に六所神社で行われます。

## 馬橋の獅子舞 (町の指定文化財)



毎年7月の第3土曜日に香取神社で行われます。獅子舞には、作物の豊作や家の中の安全などの願いが込められています。

## 道標 (みちしるべ)・追分不動道標



道標は現代の道路標識と同じで、分かれ道などで通行人が道に迷わないように、目的までの距離や方向を示すためにつくられました。旅人がふえた江戸時代から多く置かれるようになりました。

不動明王坐像の彫刻がある珍しい道標です。昔の成田街道は、成田山新勝寺等にお参りする旅人のために多くの道標がつけられました。



# 酒々井の歴史

## すみふるさわ いせき 墨古沢遺跡 (旧石器時代) 国の指定史跡②



約3万4千年前の大昔の人が、ナウマンゾウなどの大型動物を求めて移動生活を行い、この地で石器をつくる作業などを行っていました。

## すみこもった 墨小盛田古墳 (古墳時代)



古墳は権力者が力を示すために、多くの労働力を集めてつくりました。この古墳は長軸30m、短軸23m、高さ3mの長方墳です。

## のまかいしょ 野馬会所跡 (江戸時代) ⑤



江戸幕府の牧場である佐倉七牧を管理していた野馬会所の跡です。放牧した馬をつかまえて、軍事、運搬、農耕用として取引しました。

## すみきど 墨木戸遺跡 (縄文時代) ③



縄文時代には印旛沼(香取の海)の漁労と台地での採取・狩猟によって食料を手に入れて、定住生活を行っていました。

## 本佐倉城跡(戦国時代)国の指定史跡④



15世紀末に千葉氏の城として千葉輔胤によって築られました。約35haの広大な城跡には、城を守るための空堀や土塁<sup>すけたね</sup>などが残っています。

## 酒々井駅の図 (江戸時代) ⑦



江戸時代の酒々井宿には10軒の宿屋があり、成田不動や芝山観音へのお参りが盛んになると大勢の旅人が通って行きました。



## 著作関係者・機関

### ●執筆・編集

酒々井学推進プロジェクトチーム（各校教務主任・研究主任）

- ・酒々井中学校 笹森 邦明先生  
倉谷 昌史先生
- ・酒々井小学校 藤川 敬介先生  
三森 悦子先生
- ・大室台小学校 吉田 正先生  
依田 真弓先生

酒々井町教育委員会 学校教育課

副課長 倉部 哲也  
主 査 一場 郁夫

### ●協力者・協力機関

- ・秀明大学 清水 克志氏（酒々井町地形図の提供）
- ・八街市郷土資料館 進藤 泰浩氏（大昔のくらしイラスト画の提供）
- ・八千代市立郷土博物館 押元 常德氏（昔の道具イラスト画の提供）
- ・大本山成田山新勝寺（「酒々井駅の図」画像の提供）
- ・成田山霊光館（「中川の景」画像の提供）
- ・川島 俊彦氏（写真家：町古写真・文の提供）
- ・新谷 秀一郎氏（自然写真家：里山図鑑画像・文の提供）
- ・戸村 正己氏（昔のくらしイラスト画の提供）
- ・酒々井町役場 各課職員

## 参考文献・資料

- ・「社会科郷土資料」酒々井小学校社会科研究部 昭和40(1965)年
- ・「町勢要覧 酒々井 町制施行85周年記念」酒々井町役場総務課 昭和49(1974)年
- ・「SHISUI 町制施行90周年記念」酒々井町役場総務課 昭和54(1979)年

### 酒々井学 指導資料集「酒々井発見伝」

発 行 日 令和3（2021）年3月31日  
編 集 ・ 発 行 酒々井町教育委員会  
千葉県印旛郡酒々井町中央台 4 - 1 1  
TEL.043-496-1171  
印 刷 株式会社エイティー



